

梅村治郎兵衛

京都府在籍 金襴錦、法衣地卸商 妻 季子 郎三、一二生、京都、大橋筋次郎...

梅村甚兵衛

八幡銀行、株務取締役、滋賀合同貯蓄銀行、八幡製絲各(株)監査役、滋賀縣在籍...

梅村宗七

京都府在籍 妻 龍子 安政三、八生、養父宗七長女...

梅村太郎

愛知縣多額納稅者、羽州屋、材木商、愛知縣在籍...

梅村萬藏

愛知縣多額納稅者、愛知縣在籍...

梅本徳次郎

板硝子商、大阪府在籍...

梅本利右衛門

梅本商店、社長、金物商、大阪府在籍...

梅山實明

從五位勳五等、判事、岐阜地方裁判所所長、奈良縣在籍...

梅山柳輔

大和護謨(株)取締役、山口縣在籍...

下部岩太郎

從五位勳六等、小樽高等商業學校教授、生徒監、廣島縣在籍...

下部喜太郎

埼玉縣在籍 妻 貞 明一〇、一、生、埼玉、内田榮五郎妹...

下部順治郎

兵庫縣在籍 妻 かつ 安政五、八生、兵庫、士、鷺尾愛...

下部退三

江井ヶ島酒造(株)社長、江井ヶ島酒造(株)取締役、兵庫縣在籍...

下部卓江

三井物産(株)スーパヤ支店長、廣島縣在籍...

下部豊太郎

江井ヶ島酒造(株)専務取締役、兵庫縣在籍...

下部八右衛門

江井ヶ島酒造(株)常務取締役、兵庫縣在籍...

浦元 清 唐津魚、唐津水電興業、博多株式

浦家 久雄 福岡縣多額納税者、農業

浦山 一朗 日本勸業銀行、高松支店長

浦山 助太郎 有樂商事(株)社長、岩越電力(株)

妻 トク 明七、五生、養父太郎長女

界に投じ現に有樂商事社長たる外前記各會社の重

裏辻 彦六郎 從三位勳四等功五級、子爵、陸軍

裏松 友光 從四位、子爵、貴族院議員

妻 ミチ 明二、九、一、生、貴族院議員橋本圭

し義に横濱正金銀行に勤務し貴族院議員に擧げらるゝ

瓜生 治 森岡移民(株) 實(社員)

瓜生 外吉 從二位勳一等功二級、男爵、海軍

妻 誠 明一、大五、一、生

須賀各領守府司令長官等に歴補し後豫備役被仰付日露

瓜生 卓爾 從五位勳五等、鐵道書記官、經理

妻 トク 明二、四、八、生、神奈川、猪熊造妹

瓜生 常吉 筑豊鐵道(株)代表取締役、鞍手銀

妻 セン 安政五、八、生、神奈川、山下七左

君は福井縣土族寺澤勘助の弟にして安政二年一月を

瓜生 須 東京府在籍

君は東京府人瓜生震の長男にして大正六年二月を以て

瓜生 保道 瓜生製作所(株)社長、鐵工業

妻 昌 明三、一、生、大阪、白壁正三姉

君は大阪府人瓜生卯太郎の長男にして明治二十一年九

瓜生 讓 筑豊貯蓄銀行、鞍手銀行各(株)取

君は福岡縣土族青柳六輔の弟にして明治二十二年六月

妻 昌 明三、一、生、大阪、白壁正三姉

妻 昌 明三、一、生、大阪、白壁正三姉

孫 二佐子 明四四、五生、養子昌賢二女
君は三重縣人加藤武右衛門の二男にして嘉永三年一月を以て生れ後漆家の養子となり家督を相続す義に芝増上寺學寮に學び北品川宿法禪寺住職となり後品川製氷會社重役に擧げられ明治三十五年以來衆議院議員に當選する事六回現に前揚諸會社重役たり家族は尚庶子四志子(大)一三、四生、生母、東京、高橋リウ(同五、五生、生母、東京、高橋リウ)は東京府人里村シゲに孫(同四、三生、養子昌賢二男)は同府人若林藤太郎に同孫子(同九、一生、同四女)は千葉縣人鎌瀧吉三郎に各養子となれり(東京市外品川町北品川宿八二電高輪二〇一六)

漆戸起一 三菱製紙(株)中川工場長
東京府土族

君は東京府土族山瀬正巳の三男にして明治八年十二月を以て生れ先代兵三郎の養子となり後家督を相続す同二十八年東京高等工業學校機械科を卒業し山陽鐵道會社に入り後之れを辭し三菱製紙會社に入り現時同社中川工場長たり諸曲園基を趣味とす長女道子(明三三、二生、成女高等女學校出身)は島根縣人高橋誠一に嫁せり(東京、南葛飾、金町一六七九)

漆野佐市郎 大倉鐵業、佐賀炭礦、入山探炭各(株)取締役、茨城縣在籍

君は茨城縣人漆野千代松の長男にして明治十年十一月を以て生れ大正十四年家督を相続す現に前記諸會社の重役たり家族は尙二男隆三郎(明四二、一生)三男勇七(同四四、三生)四男季廣(大三、三生)二女靜子(同七七、一生)五男亮(同九、三生)あり妹も(明一五、〇生)は茨城縣人新堀慶助に嫁せり(東京市外西葛町池袋一三九四電大塚二三八六)
參照 茨萩原助の項

漆原辰雄 香川縣多額納稅者、農業
祖母 マサ 嘉永二、一生、香川、土居繁長女
母 サエ 明四、二生、香川、遠藤嘉三郎二女
妻 巴 明三六、二生、東京、土、寺垣猪三五女
男 元 大八、一生

君は香川縣人漆原元三郎の長男にして明治二十八年九月を以て生れ同三十二年家督を相続す大正七年東京農業大學を卒業し農を業とし現に香川縣多額納稅者たり家族は尙長女淑子(大)一、一生(二女道子(同)一四九生)妹文子(明三一、八生)大伯母トヨ(同五、九生)あり姉壽榮(同二二、六生)は香川縣人中村貞七長男實に同孫子(同二五、三生)は同縣人土岐安平に同アクリ(同二六、七生)は廣島縣人佐々木英夫に嫁し再從兄清(同二五、四生)は同縣人川崎ナカの養子となれり(香川、木田、三谷村)
參照 寺垣猪三、土岐安平、漆子爵田村至顯、木村修三、木村壯介、宗兒玉孝顯の項

漆山雅喜

熱帯産業、臺灣製糖各(株)取締役、臺灣拓殖製糖(株)監査役、三井(名)山林課長、帝國森林會理事
東京府土族
母 すみ 弘化二、三生、長野、土、神戸立人三女
妻 まさ 明一五、四生、東京、師岡政宜長女、熊本高等女學校出身
男 一 明三五、四生、東京帝國大學工學部在學
男 巳年夫 明三八、七生
女 雅樂子 學校出身
女 末子 明四三、一〇生

四生)あり五女惠美子(同二、三生)は茨城縣人松田善三郎の養子となれり(東京、牛込、戸山町三〇電年込四七七八)

(H)(H)之部

江上恒之

臺灣銀行(株)本店支配人兼臺北頭取、東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し臺灣銀行に入り果進して助役となり現に同本店支配人にして臺北頭取、席秘書課長秘書役を兼ね家族は尙二男辰郎(大五、八生)三男禮藏(同)一〇、二生(二女麗(同)一、九生)の外妹イサ(明一六、一生)同シツ(同三二、二生)亡叔父正男妻トモ(同)一九、一生、熊本、大塚幸内二女)あり叔父志馬雄(慶應三、二生)は同妻ミツ(明一四、三生)熊本、土、林田知英長女)及其子女と共に分家せり(臺北、南門町三二〇電一三九九)
參照 茨萩原助の項

江上敏次

熊本縣多額納稅者、吳服商
熊本縣在籍
妻 カエ 明二六、六生、熊本、大森永太長女
男 久三郎 大七、一生
君は熊本縣人江上龜喜の二男にして明治二十五年九月を以て生れ同四十五年家督を相続す吳服商を營み熊本縣多額納稅者たり家族は尙長女アイ(大三、六生)二女ツギ(同五、四生)二男勝郎(同)一〇、四生)三男義郎(同)一二、九生)三女多惠(昭二、五生)あり姉ヤス(明二〇、一生)は熊本縣人正木清彦に妹智恵(同二九、三〇)は大分縣人河井三郎に嫁ユキ(同四〇、四生)姉ヤス長女)は熊本縣人角田長藏に嫁せり(熊本、鹿本、山鹿町)

江頭次平

福岡縣多額納稅者、坂梨商(株)監査役、酒造業、福岡縣在籍

江川質純

加太輕便鐵道(株)常務取締役、和歌山縣在籍
妻 ぬい 明五、二生、養父景伸長女
養子 四郎 明三五、一生、二女文子夫、北海道、芳賀正吉四男
女 文子 明三四、四生、養子四郎妻、奈良女子高等師範學校出身、和歌山高等女學校教諭
女 貞子 明四二、三生、和歌山高等女學校出身

江川周左久

酒造業、福岡縣在籍
君は福岡縣人江川清三郎の七男にして明治三十二年五月を以て生れ大正十五年家督を相続す酒造業を營む家族は兄清吉(明二一、四生)同妻ウメ(同三一、二生)族は兄清吉(明二一、四生)同妻ウメ(同三一、二生)福島、星野常五郎四女)及其子女弟竹壽(同三四、二生)生)あり父清三郎(文久二、二生、福島、佐藤友藏叔父)繼母トヨ(明一六、九生、福島、土、高橋カツ姉)は兄德治(同三〇、二生)妹トシ(同四二、八生)を伴ひ分家せり(福島、河沼、坂下町)

江川つや

地主、大阪府在籍

江川常右衛門

鹿兒島縣多額納稅者
妻 ヨシ 明一〇、一生、鹿兒島、佐藤熊太郎妹
男 正雄 明三四、九生
男 マキ 明四〇、八生、二男正雄妻、鹿兒島、山元紋次郎長女
男 常藏 明三九、八生
男 富江 明四三、九生
女 芳榮 大元、一〇生
君は鹿兒島縣人江川市助の長男にして明治四年二月を以て生れ同四十年家督を相続す蒙商にして現に鹿兒島縣多額納稅者たり家族は尙四女澄(大三、二生)五女清子(同六、三生)五男清清(同九、九生)孫淳治(昭二、一〇生、二男正雄長男)あり(鹿兒島、給良、加治木町)
參照 山元紋次郎の項

江川時三郎

共同運輸(株)事務取締役、國際運輸(株)取締役、三菱倉庫(株)横濱支店長、神奈川縣在籍
妻 シヅカ 明一九、四生、長崎、吉村豊松二女
男 太郎 大二、一生
女 淑子 明四三、一生
女 俊子 明四三、一生
君は長崎縣人江川佐平の長男にして明治十二年六月を以て生れ大正二年家督を相続す夙に三菱倉庫會社に入り現に同社横濱支店長にして前記諸會社の重役を兼ね家族は尙二男次郎(大)四、二生)三女櫻子(同六、四生)四女多喜子(同八、四生)三男泰三(同)一〇、八生)あり(横濱、神奈川、幸ヶ谷町三六一電本局一七七一)

江川英武

正六位、静岡縣多額納稅者、農業、静岡縣土族
妻 せい子 文久二、二生、男爵伊丹重雄叔母
男 英文 明三一、七生、法學士、東京帝國大學助教

當家は遠く御守府將軍源清仲の次子頼親より出で世々大和國宇野に住す後九世宇野太郎親信伊豆山に移り...

江川 藤楠 大阪株式取引所取引員、現物賣買業、和歌山縣士族...

江口 熊市 名古屋商會館長、大十九ビルディング社長、眞正會長、可志和會長...

江口 賢一 尾張電氣軌道(株)常務取締役、愛知縣在籍...

江口 裕通 男、大正三、九生、君は愛知縣人江口理三郎の長男にして明治二十九年七月...

養子 翼 明六、四生、君は舊岩國藩士贈從五位江木仙左衛門俊敏の長男にして...

江木 千之 正三位勳一等、法學博士、貴族院議員、山口縣士族...

江口 駒之助 東京株式取引所(株)相談役、山形縣在籍...

江口 定治 山口縣多額納稅者、山口縣在籍...

江口 治郎 大阪府在籍、大正六、六生、愛媛、二宮嘉右衛門長女...

養子 俊 雅 明二九、九生、五女妙子、廣島、卜部陸太四男...

江口 義一 王子町長、東京府在籍...

江口 照造 正五位勳四等、大阪府天王寺師範學校長、大阪府在籍...

江口 碩之輔 江口(名)代表社員、愛知縣在籍...

三四、一、二生、同夫成三(同二六、八生、愛知、連水廣次弟及其一子あり(名古屋、中、松重町五三))

江口 鶴雄 東京瓦斯(株)工務課長 養父 駒之助 安政五、一〇生、現戸主 妻 タカ 助四女、一〇生、山形、江口勝之 男 敬一 大六、五生

君は山形縣土族堀尾重興の三男にして明治十六年四月を以て生れ同二十九年江口駒之助の養子となり前名重三を改む同四十三年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社に入社し大正十年歐米に出張同十一年歸朝し現時同社工務課長たり家族は尙二男二女(大九、四生)二女千鶴子(同一三、一〇生)あり長女萬里子(同四、四生)は茨城縣人松延球の養子となれり(東京市外千駄ヶ谷町原宿六二電番青山一六八三)

江口 定條 勸業各、三菱銀行、明治製糖、東洋興業各(株)取締役、中華銀行、東京府在籍 妻 ハル 郎長女、明二、一、生、佐賀、土、澁谷徹十 男 健 助 明三〇、二、生、法學士、三菱銀行員 男 恭 助 明三一、九、生、商學士、日本郵船會社員 男 俊 助 明三七、八、生 男 達 助 明三九、五、生 女 ヤエ 明四〇、四、生、府立第二高等女學校出身

君は舊高知藩士江口昌條の弟にして慶應元年四月を以て生れ明治四十三年分家して一家を創立す同二十年東京高等商業學校を卒業し三菱合資會社に入り長崎門司各支店長本社營業部副部長兼部長理事等に就任し現時三菱銀行外前記諸會社の重役たり家族は尙五男三女(明四二、一、生)あり長女靜(同二八、七、生)は前内務省土木局長次田大三郎に二女タマエ(同三四、五、生、府立第二高等女學校出身)は醫學博士平山達三に三女ツルエ(同三五、六、生、日本女子大學附屬高等女學校出身)は石川縣人時國太郎五男理學士益夫に嫁せり(東京、四谷、本村町三六電番四七〇七)

參照 天田大三郎、時國太郎、津市吉徹夫の項

江口 政平 三池産業(株)社長、大東畜産、肥後物産各(株)取締役、福岡縣在籍 妻 津 留 明二二、九、生、熊本、三木五郎妹 男 正 四郎 明三五、一〇生 男 勝 利 明三七、一〇生 女 マツ 明四〇、一〇生 女 とし子 明四二、一〇生 女 タツ子 明四三、三〇生

君は福岡縣人江口久八の四男にして慶應元年五月を以て生れ明治三十一年分れて一家を創立す現に三池産業大東畜産肥後物産各會社の重役たり家族は尙七男正之(明四四、九、生)十男政康(大九、八、生)十一男久(同一二、一〇生)十二男正(昭二、六、生)あり長女ツル(明二六、八、生)は福岡縣人城戸俊一に嫁し二男正二(同三一、一、生)は分家せり(福岡、三池、玉川村)

江口 彌一郎 名古屋商工會議所議員、内外紡績(株)常務取締役、大正産業(株)取締役、愛知縣在籍 妻 代表社員、名古屋織物整理各(株)代表社員、愛知縣在籍 女 代表社員、愛知縣在籍

君は愛知縣人江口恒次郎の弟にして明治十六年五月を以て生れ大正八年分家して一家を創立す現に前記諸會社の重役として知られ推されて名古屋商工會議所議員たり(名古屋、中、新榮町二ノ一三電番三五四〇)

江口 理三郎 愛知縣多額納稅者、名古屋商工會議所議員、尾張電氣軌道(株)社長、名古屋鐵道(株)監査役、名古屋米穀取引所(株)理事、吳服半襟商會知縣在籍 妻 慶應二、一、生、愛知、村瀬淳一郎 男 賢 一 明二九、七、生 女 叔母 長女、明四一、七、生

江口 隆二郎 三共商事(株)取締役、江口商店(名)代表社員、米穀肥料商 妻 鹿兒島縣在籍 男 新 吉 明三六、一、二、生 男 新 造 明三九、一、二、生

君は鹿兒島縣人江口休右衛門の二男にして明治十二年三月を以て生れ後分家し前名休次郎を改む米穀肥料商を營み現時江口商店の代表社員にして三共商事會社の重役たり家族は尙三男謙三(大二、一、生)長女道子(同一五、一、生)四男隆之(同七、一、生)二女志奈(同九、一〇生)五男貞雄(同一二、七、生)あり(鹿兒島市築町)

江口 鱗六 正四位勳二等功四級、後備海軍中將、佐賀縣在籍 妻 明七、一、二、生、佐賀、土、江副充三長女、明二六、三、生、法學士、北海道帝國大學事務官 男 重 國 明三二、二、生、長男重國妻、獸醫學博士丹下謙吉三女 女 節 明三九、一、一、生 女 對 明四一、一、一、生 女 正 子 明四二、六、生

君は佐賀縣人江口重起の三男にして慶應元年四月を以て生れ明治二十四年分家して一家を創立す同十九年海軍兵學校を卒業し同二十一年海軍少尉に任じ大正四年海軍中將に累進す其間赤城早須磨生駒薩摩河内各艦長竹敷要港部佐世保鎮守府各參謀長海軍砲術學校校長海軍水雷部長横須賀海軍工廠長等に歴任し現時後備海軍家族は尙孫千(大四、八、生、長男重國長女)同重和(昭元、一、二、生、同長男)あり長女リト(明二九、一、二、生)は大分縣人海軍大佐佐田剛武に二女ヌサ(同三六、六、生)は埼玉縣人海軍大尉林榮通に嫁し二男新城(同三一、九、生)は佐賀縣人江口謙三に三男俊夫は同

縣人柴田伸一に各養子となれり(東京市外澁谷町榮通二丁目)

參照 丹下謙吉、松本文作の項

江坂 吉平 群馬縣多額納稅者、松井田銀行(株)監査役、吳服商、群馬縣在籍 妻 やゑ 明三一、一、生、群馬、山口正太 男 英 一郎 明三五、九、生 女 文 子 明三七、八、生、長男英一郎妻、崎玉、松本文作五女 男 高 次 明三八、一、生 男 三 郎 明四一、八、生

君は群馬縣人先代吉平の長男にして明治十二年五月を以て生れ大正六年家督を相續し前名徳二郎を改む吳服商を營み群馬縣多額納稅者にして松井田銀行監査役たり家族は尙長女さだ(大四、八、生)孫雅夫(同一四、一、二、生、長男英一郎長男)あり(群馬、碓氷、松井田町)

參照 松本文作の項

江坂 幸次郎 山元オブライト(株)取締役 妻 ハン 元治元、九、生、東京、江坂次郎太夫長女 女 菊 雄 明二七、一〇、生、高知、黒瀬馬平 女 輝 彌 大八、一、二、生

君は東京府土族江坂吉吉の長男にして明治二十年十一月を以て生れ大正七年家督を相續し明治四十三年東京外國語學校獨逸語科を卒業し現時山元オブライト會社取締役たり家族は尙長女由紀子(大一一、八、生)二女俊子(同一四、三、生)養子壽子(同一二、六、生、東京、江川、くめ私生子)あり(東京市外世田ヶ谷町三宿)

江崎 一郎 工學博士、東京計器製作所(株)取締役、三菱造船(株)技術顧問 妻 コト 安政元、一〇、生、先々代源吾長女 女 タミノ 明一〇、一、生、福岡、土、中村敬止姉 男 英 一郎 明三七、一、一、生

君は舊筑後柳河藩士江崎千吾の長男にして同眞澄の兄なり明治六年七月を以て生れ同十六年家督を相續す同

(※印は姻族關係)

江崎 眞一 福岡縣多額納稅者、川口村長 妻 シヤチ 明一六、一、二、生、福岡、井ノ口繁吉二女 女 寅太郎 明三五、八、生 女 マサエ 明三一、一〇、生 女 タメ 明四〇、二、生

君は福岡縣人江崎房吉の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十年家督を相續す現時川口村長にして縣下の多額納稅者たり家族は尙四男眞一(大五、七、生)五男秋光(同七、一〇、生)六男達吉(同四、八、生)繼子萩(同四、九、生)同壽代(同八、五、生)あり弟傳藏(明一七、一〇、生)は同妻ヤス(同二五、四、生)と共に分家し同作藏(同二一、一、生)同義人(同二七、三、生)同新吉(同三〇、九、生)も亦各分家し姉チカ(同九、五、生)は福岡縣土族高田一に叔母ヌエ(同四、一、生)は同縣人伊藤八郎に嫁せり(福岡、三池、川口村)

參照 高田一の項

江崎 眞澄 前臺灣銀行(株)理事 妻 シッコ 明二〇、三、生、故鐵道院副總裁長谷川謙介三女

君は工學博士江崎一郎の弟にして明治十一年十一月を以て生れ同三十六年東京帝國大學法政學科を卒業し義に臺灣銀行理事として知らる(東京市外中野町東中野桐ヶ谷一〇二一電番三三六)

江崎 政忠 從四位勳四等川崎電球製作所(株)社長、岐阜電力(株)取締役、越中相續、昌榮堂印刷所各(株)監査役、野村(名)喇託、大阪府土族 妻 幾 安政三、五、生、静岡、三宅惣七妹 女 信 三 明一五、一、一、生、東京、土、鹽小路光治妹 男 信 五 明三二、七、生、正七位、九州帝國大學助教、農學部勤務 男 信 三 明三八、七、生

君は長野縣土族江崎政國の長男にして慶應元年九月を以て生れ明治三十八年家督を相續す同三十二年東京帝國大學農學科を卒業し農商務省山林局技手宮内省御料局技師帝室林野局技師等を歴任し其間内外博

君は長野縣土族江崎政國の長男にして慶應元年九月を以て生れ明治三十八年家督を相續す同三十二年東京帝國大學農學科を卒業し農商務省山林局技手宮内省御料局技師帝室林野局技師等を歴任し其間内外博

覽會の審査官理事官山梨縣山林經營顧問及東京市水道
水源調査顧問等を嘱託せらるる退官後實業界に入り農に
鴻池銀行大阪倉庫川崎電球製作所東洋木材防府電球電
力各會社の重役たり現時川崎電球製作所社長たる外
前記諸會社の重役たり家族は尙三女ひな(大三、三三、
六男伊勢雄(同六、五生)四女松枝(同八、一五、五女な
つ(同九、七生)の外弟誠(明四、一〇生)文學士同妻
田鶴(同二、一〇生)法學士は其一子を伴ひ分家し姉
松子(文久三、八生)は男爵神尾毅一先代光臣に妹嫁子
(明元、七生)は詩人國分青崖に同(一、一五、一五、一
生)は大阪府人山中進に姪千代(同三五、八生)は福岡
縣人奥田作造第四郎に嫁し甥政徳(同四四、一二生)は
東京府人山崎百世の養子となれり(大阪、北、新川崎
町一御料池五號電北三三〇二)
參照 男爵神尾毅一の項

江崎 又市

福岡縣多額納稅者、硝子商
妻 シケ 明一、一〇生、福岡、目野新藤
妻 シケ 明一、一〇生、福岡、目野新藤
君は福岡縣人江崎小三郎の長男にして慶應三年十月を
以て生れ大正三年家督を相続す硝子商を營み福岡縣多
額納稅者たり家族は尙三女(明一、一〇、四生)七弟壽三
郎妻ミネ(同二、一三、福岡、平田口辰次郎二女)及
其子女あり(福岡、山門、柳河町)

江崎好太郎

長崎縣多額納稅者、酒造業
妻 リス 明一、一〇生、長崎、本田波妹
妻 リス 明一、一〇生、長崎、本田波妹
君は長崎縣人江崎鶴一郎の長男にして明治六年十月を
以て生れ同二十六年家督を相続す酒造業を營み長崎縣
多額納稅者たり家族は尙六男斯海(明四三、九生)七
男湖南雄(同四四、九生)二女トシヨ(四五、一三)八男
和雄(同八、二生)孫亮一郎(同二、一八、二男亮次長
男)同(同三、三三、同二男)あり弟萬八(明九、七
生)及び其子女は共に分家し同業治(同二、一〇生)

君は東京府人先代伊兵衛の長男にして明治二十八年四
月を以て生れ同三十二年家督を相続し前名次郎を改
む大正六年東京高等商業學校を卒業し出版業を營みあ
んや書店として知らる姉フミ(明二〇、五生)は東京府
土族村山欽治に嫁せり(東京、日本橋、通四ノ八電日
本橋一六二五)

江澤 富吉

天賞堂(名)社員
千葉縣在籍
妻 左 久 明元、六生、東京、森田シマ長女
男 謙 二郎 明二、四、五生、東京高等商業學校
出身、日本メタリコン工業所代表
社員
男 一 三 明三、八、一〇生、法學士、三井銀行
員
男 三 明三、五、一〇生、法學士、日本銀
行大阪支店員
男 三 明三、八、一〇生、法學士、三井銀行
員
男 謙 二郎 明四、〇、五生、東京商科大学在學
中
女 謙 子 明四、三、三三、聖心女子學院出身
君は千葉縣人江澤半右衛門の二男にして同金五郎の叔
父なり文久三年四月を以て生れ明治五年分れて一家を
創立し後前名留吉を改む夙に東京に出で兄金五郎を輔
けて天賞堂を経営し其業務執行社員として同會社を以
て今日あるを得しむ家族は尙孫孝子(大六、一〇、二
男謙二郎長女)同洋一(同八、八生、同長男)同壽子
(同九、一二生、同二女)同泰子(同二、一〇、一〇生、同
三女)あり長女ニキ(明二九、一二生、東京女學館出
身)は東京府人竹内房次郎に嫁せり(東京、芝、白金三
光町二七六電高輪七五三六)
參照 江澤金五郎、竹内房次郎の項

江澤六三郎

古河銀行(株)三田支店長
東京府在籍
妻 篤 二 明二、七、六生、東京、五島三四郎孫
男 謙 子 明三、三、一〇生、養子篤二妻、東
京、若月寅吉二女
君は東京府人江澤久次郎の長男にして慶應二年八月を
以て生れ明治十三年家督を相続す夙に古河銀行に入り
果進して副支配人に擧げらるる現時同行三田支店長たり
家族は尙庶子香壽子(大一一、二生、生母、東京、田
中カメ)孫以久江(同九、七生、養子篤二長女)あり(東
京市外浦田町新宿九〇電浦田三三七)

江島 伊兵衛

わんや書店(株)社長
東京府在籍
妻 八重子 明三、八、七生、東京、寶生嘉内五女
男 尤 一 昭二、一〇生

も亦分家し妹ツヨ(同二、一八、四生)は長崎縣人成末市作
四男藤三郎に嫁し同(同二、一〇、一〇)生四男東洋男
(同三、八、一〇)生は共に同縣人江崎ナヲの養子となれ
り(長崎、南高来、島原町)

江澤 淺吉

萬壽商店、青物商
妻 はま 明一、三、九生、東京、岡村長兵衛
男 養之助 明四、〇、七生
女 さき子 明四、二、六生、三輪田高等女學校
出身
君は千葉縣人島田久助の弟にして慶應三年二月を以て
生れ先代くわの養子となり明治三十六年家督を相続し
前名峯吉を改む青物商を營み萬壽商店と稱す家族は尙
二男正平(大元、七生)二女初世(同五、四生)あり(東
京、神田、連雀町一三電神田七三六)

江澤金五郎

天賞堂(名)代表社員、時計貴金屬
寶玉美術品製造販賣直輸入業
東京府在籍
妻 ちか 安政五、七生、千葉、高橋喜惣治妹
女 久 明一、四、一〇生、千葉、吉田甚左
衛門妹
男 清太郎 明三、八、六生、慶應義塾大學經濟
學部在學
女 長子 明四、一、六生、東京女子商業學校
出身
女 久子 明四、三、一二生、實踐女學校在學
女 道子 大二、五生
當家は上總國大多喜町の舊家にして初代半右衛門吳服
太物商を營み後内外書籍雜貨商に轉じ先代金五郎に至
る金五郎夙に和漢の學を修め大志を懷きて東都に出で
時計寶玉貴金屬美術工藝品類の製造販賣を營み他に
卒先して海外貿易を開始し遂に今日の基礎を築きし君
は其の長男にして明治九年六月を以て生れ同二十九年
家督を相続し前名増次郎を改め襲名す同二十七年慶應
義塾を卒業し直に米國に渡航し紐約大學卒業後同校々
長の推薦にてスタンレー時計會社に入り重用せらる
尋で歐洲大陸を見學し歸朝後父の遺業を継ぎ時計寶玉
美術工藝品製造販賣の輸出入並に時計同附屬美術應用
裝身具類の製造販賣に従事し歐米支那各地にも支店又
は出張所を設け屢々海外に航して彼國の實況を視察研

江尻 博孝

福島縣多額納稅者、警東銀行(株)
福島縣在籍
妻 富五郎 嘉永六、九生
妻 ヨウ 治長女
妻 いし 明一、八、二生、茨城、蛭田新次郎
長女
男 一 明四、二、一二生
女 タケ 明三、九、一〇生
君は福島縣人江尻庄治郎の六男にして明治五年十一月
を以て生れ先代富五郎の養子となり大正五年家督を相
續す農業を營み現時前記銀行會社の重役にして福島縣
多額納稅者たり家族は尙二男(明四、五、三三)四女(同
一、四、三、五生)五女鶴子(同八、一〇、一〇生)四女(同
一、八、一〇生)四男義彦(同三、一〇、一〇生)あり長女キヨ(明二
八、一二生)は同夫出(同二、七、三三、福島、三戸由五
郎二男)と共に分家し二女ヒサ(同三、八、二生)は福島
縣人諸橋久太郎三男元三郎に嫁せり(福島、石城、泉
村)
參照 諸橋久太郎の項

江角 興義

島根縣多額納稅者、雲陽實業銀行
(株)取締役、農業、島根縣在籍
妻 千代次郎 元治元、一〇生
妻 シノ 明二、〇、一二生、養父千代次郎長女
男 一 枝 明四、三、四生
女 一 枝 明四、三、四生
君は島根縣人山田鐵藏の三男にして同明治の弟江角常
太郎の養子なり明治二十一年五月を以て生れ後江角家
の養子となり大正十五年家督を相続す明治四十三年早
稻田大學商科を卒業し農業を營み縣下の多額納稅者に
して傍ら雲陽實業銀行取締役たり家族は尙二男(同二、
三、三、三男)同七、一〇生、四女茂子(同二、一〇、一
生)四男(同二、一〇、一〇生)五男(同二、一〇、一〇生)あり

究する等鋭意事業の振興を謀り天賞堂の盛名浴く喧傳
せらるる家族は尙三男公平(明四五、一〇生)あり長女靜子
(同三三、一〇生、東京女學館出身)は東京府人信原義
夫に二女梅子(同三、六、一〇生、東京女子商業學校出身)
は千葉縣人鈴木醇一に嫁し叔父富吉(文久三、四生)は
分家せり(東京、芝、高輪南町五三電高輪三四四)
參照 江澤富吉、高橋喜惣治、吉田甚左衛門、酒井
卓造の項

江澤 甚一

從五位勳五等、鐵道技師、國府津
改良事務所長、千葉縣在籍
妻 よね 元治元、五生、千葉、久我内藏之
助妹
妻 まさ 明一、九、五生、千葉、永瀬新八四女
男 信雄 明四、三、二生
女 養子 大元、八生
君は千葉縣人江澤源吉の長男にして明治十四年十一月
を以て生れ大正六年家督を相続す明治三十九年東京帝
國大學工科大学土木工學科を卒業し帝國鐵道局技師
鐵道院技師鐵道局技師に歴任し其間新津保線事務所長
鐵道院技師鐵道局技師に歴任し其間新津保線事務所長
鐵道院技師鐵道局技師に歴任し其間新津保線事務所長
鐵道院技師鐵道局技師に歴任し其間新津保線事務所長
鐵道院技師鐵道局技師に歴任し其間新津保線事務所長
鐵道院技師鐵道局技師に歴任し其間新津保線事務所長

江澤 太郎

千葉縣在籍
妻 みち 嘉永六、一二生、東京、土、添田
支春長女
妻 シゲ 明一、六、一二生、千葉、小倉八
郎長女
男 吉 明三、九、一〇生
女 ハマ 明三、七、三三
女 光 明四、二、一〇生
君は千葉縣人江澤源一郎の長男にして明治八年一月を
以て生れ昭和二年家督を相続す農業を營み縣下の養
家たり家族は尙五女(大六、八生)四男(同八、
八生)六女(同二、一〇、一〇生)の外弟要次郎(明一、
一〇生)同妻もと(同二、一〇、一〇生)東京、長谷川銀藏長
女)及其二男三女養妹ひさ(同二、二〇生、千葉、島田
貞助三女)あり(千葉、夷隅、豐濱村)

江角千代次郎

島根縣多額納稅者、農業
妻 興 義 明二、一、五生、佐藤吉太郎姪
君は島根縣人江角權藏の長男にして元治元年十一月を
以て生れ明治二十三年家督を相続し大正十五年退隱す
農業を營み縣下の多額納稅者たり明治三十年以來衆議
院議員に當選すること四回に及び義に日露事件の功に
より勳四等旭日小綬章を賜はる弟常太郎(明三、三三)
は島根縣人江角仙七の養子となれり(島根、簸川、出
東村)
參照 江角興義、江角常太郎の項

江角常太郎

島根縣多額納稅者、出雲電氣、出
雲製絲各(株)取締役、農業
妻 カメ 安政六、八生、島根、江角權藏長女
妻 ツカ 明一、五、一〇生、島根、矢野爲左衛
門六女
男 一 雄 大一一、一〇生
君は島根縣人江角千代次郎の弟にして同興義の養叔父
なり明治三年三月を以て生れ先代仙七の養子となり同
四十二年家督を相続す農業を營み現時出雲電氣會社取
締役たる外前記會社の重役にして島根縣多額納稅者た
り家族は尙庶子孝(大三、九生、生母、島根、古志益
子)あり(島根、簸川、出東村)
參照 江角興義、江角千代次郎の項

江田 謙治郎

正五位勳四等、醸造試驗所技師
新潟縣在籍
妻 ミナ 明二、一、一〇生、京都、生島梅吉
長女
妻 八重 明三、六、八生
男 益美 明三、九、三三
女 靜子 明三、九、三三
君は新潟縣人風間忠七の二男にして明治五年五月を以
て生れ後先代益盛の養子となり同三十五年家督を相続

君は同二十六年新沼郡尋常師範學校を卒業し又工業教員養成所本科應用化學科研究科を修了す...

江田忠吉

大日本自衛隊(株)専務取締役... 長女 明三、二生、神奈川、鈴木抽蔵...

君は同二十六年新沼郡尋常師範學校を卒業し又工業教員養成所本科應用化學科研究科を修了す...

江藤榮吉郎

向美堂(株)社長、江藤(株)取締役... 妻 明三、三、九生、兵庫、石田庄三...

君は大阪府人江藤清助の二男にして明治十年一月を以て生れ同二十六年家督を相續す...

江藤嘉吉

向美堂(株)専務取締役、江藤(株)取締役... 妻 明一、九、一、兵庫、石田庄三郎...

君は大坂府人江藤清助の三男同治吉の兄にして現戸主榮吉郎の弟なり...

江藤喜三郎

東京中野銀行(株)監査役、河波屋、吳服商、東京府在籍... 妻 明一、四、一、生、東京、清水權藏長女...

君は東京府人先代喜三郎の長男にして明治十年八月を以て生れ同三十七年家督を相續す...

江藤治吉

向美堂、江藤各(株)取締役... 妻 明二、〇、五、生、兵庫、兵藤政藏長女...

江藤得三

三井銀行(株)内國課長... 妻 明二、〇、三、生、千葉、鹿野吾一郎...

君は静岡縣人江藤舒三郎の三男同林太郎の弟にして明治十一年一月を以て生れ...

江藤豊二

中日實業(株)取締役... 妻 明二、三、一、生、兵庫、有川清...

江藤林太郎

沼津銀行(株)常務取締役... 妻 明一、〇、八、生、静岡、土、羽山鏡吉妹...

君は静岡縣人江藤舒三郎の長男にして明治元年四月を以て生れ同三十七年家督を相續す...

篤三(同三、一、一生)長女淑子(同五、一、一生)二女澤子(同七、八、生)四男昌雄(同九、六、生)五男練吉(同二、六、生)...

江藤茂

熊本縣多額納稅者、農業... 妻 安政六、二、生、熊本、土、增永佐七郎四女...

君は熊本縣人江藤武七郎の長男にして安政三年三月を以て生れ明治八年家督を相續し...

江藤甚三郎

弘報堂、第一ビルディング、東京煉瓦、東京電力工業、東洋電氣各(株)取締役... 妻 明一、二、六、生、東京、富田卓爾長女...

江夏岩吉

宮崎縣多額納稅者、都城銀行、都城電氣各(株)取締役... 妻 明三、八、七、生、二男榮壽妻、宮崎、黒岩常平二女...

江夏喜兵衛

宮崎縣多額納稅者、宮崎林業、日向製米、森永製品九州販賣各(株)取締役... 妻 明一、〇、七、四、生、宮崎縣人、藤田吉郎に嫁せり...

江原 俊夫 古久屋、生絲商
 母 ね 明一五、六生、群馬、松井嘉一郎姉
 君は群馬縣人江原芳平の孫同三郎の甥にして明治四十三年十一月を以て生れ大正十年家督を相続す縣下の豪商にして古久屋と稱し生絲商を営む先代芳平は群馬縣會議員同常議員に擧げられ又貴族院議員に互選せらるる家族は尙妹泰子(大二、六生)同綾子(四五、四生)同歌子(同八、二生)あり伯母とよ(明九、九生)は群馬縣人江原桂三郎に嫁せり(前稿、新町七七)

江淵 榮 大分縣多額納稅者、下毛銀行(株) 監査役、農業、大分縣在籍
 母 シナ 文久三、三生、大分、相良要平三女
 妻 ナオ 明一九、一〇生、大分、田代勲二女
 女 俊子 明四一、三生

江部 順治 下野酒造(株)常務取締役、那須商 業銀行(株)監査役、栃木縣在籍
 妻 アサ 明二三、八生、養父惣四郎長女
 男 福太郎 明四五、二生

江間 俊一 勸四等、元衆議院議員
 妻 つね 安政五、二生、靜岡、江間忠五郎長女
 男 俊雄 明二九、九生、文學士、慶應義塾大學教授
 女 美代子 明三五、二生、長男俊雄妻、東京、吉野新太郎長女

江見 清風 從四位勳四等、明治神宮權宮司、 神宮外苑管理署長事務取扱
 男 清隆 明二九、一〇生
 女 清子 明三六、一〇生

江見 節男 從五位勳、浦和高等學校教授、生徒 監、岡山縣在籍
 妻 馬太郎 明元、一〇生、現戶主
 女 季子 明三二、二生、東京、士、海軍造機大佐山田三太郎三女

江森角三郎 埼玉縣多額納稅者、農業
 母 かろ 弘化四、九生、祖父啓次郎長女
 妻 ツネ 明三五、二生、長男啓妻、埼玉、岩崎藏之助五女

江守與三平 富山縣多額納稅者、農業
 母 一雄 大五、五生
 君は富山縣人江守與三平の二男にして明治二十八年八月を以て生れ同三十八年家督を相続す農業を營み同縣多額納稅者たり家族は尙二男二郎(大八、九生)三男泰三(同二、六生)四男孝四(同二、五生)あり(富山、西礪波、高波村)

繪野幸次郎 兵庫縣多額納稅者、神戸取引所取 引員、兵庫縣在籍
 妻 金代 明一九、五生、大阪、青木龜太郎二女

繪野千代 大二、二生、生母、徳島、木村タミ
 君は兵庫縣人繪野清次郎の長男にして明治十六年八月を以て生れ後家督を相続す神戸取引所取引員にして兵庫縣多額納稅者たり家族は尙二女清子(大六、五生)三女登子(同九、八生)四女幸子(同二、三生)庶子一郎(同四、五生、生母、徳島、木村タミ)あり(神戸、山本通五ノ六〇ノ一電元町八四五)

江村忠之助 加島銀行(株)取締役
 妻 たけ 明一〇、五生、山形、士、長井高千代
 女 美都里 明三八、一〇生

江本 謙藏 能登電氣軌道(株)本部長(株) 長岡山鐵道(株)本部長(株) 常務取締役、兵庫縣在籍
 妻 せい 明二四、五生、大阪、若間平七長女、夕陽丘高等女學校出身

江守與三平 富山縣多額納稅者、農業
 母 一雄 大五、五生
 君は富山縣人江守與三平の二男にして明治二十八年八月を以て生れ同三十八年家督を相続す農業を營み同縣多額納稅者たり家族は尙二男二郎(大八、九生)三男泰三(同二、六生)四男孝四(同二、五生)あり(富山、西礪波、高波村)

繪嶋伊之吉 從七位勳七等、小見川農商銀行 (株)頭取、千葉縣農工銀行(株)取 締役、千葉貯蓄銀行(株)監査役
 妻 りやう 明三〇、一〇生、千葉、繪嶋小右衛門二女
 男 健爾 明二六、八生
 女 福子 明四二、八生、六男博妻、千葉、上代麟五郎二女

永瀧久吉 從四位勳三等、滿洲興業(株)取締 役、新瀧縣在籍
 妻 とよ 明一四、七生、東京、小野喜太郎長女
 養子 テイ 明四一、二生、新潟、永瀧源作五女

衛藤一六 大分縣農工銀行(株)常務取締役、 大分縣在籍
 妻 マサヲ 明六、七生、養父市郎三女
 君は大分縣人溝口敏太郎の弟にして明治三年四月を以て生れ先代マサの養子となり同二十九年家督を相続す現に大分縣農工銀行常務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙養子正子(大三、一〇生、大分、二宮善長女)あり(大分市大分一四〇)

衛藤 歡吉 二十三銀行(株)監査役
 妻 タキ 應三、四生、大分、士、奥平庄五郎妹
 養子 一方 明一四、八生、長女トク夫、大分、退職檢事 一憲二男從五位勳五等

女 千夢子 明四三、一、二生
君は千葉縣人海老原善一郎の長男にして明治十二年二月を以て生れ同四十五年家督を相続す...

海老原竹之助
横濱正金銀行(株)西貢支店支配人
東京府在籍

海老原初太郎
廣島縣人海老原吉の長男にして明治十六年十二月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し...

延藤吉兵衛
廣島縣多額納税者、備後銀行(株)取締役、廣島縣在籍
廣島縣在籍

戎野喜太郎
千夢子と工業(株)社長、吉見紡織(株)取締役、和泉紡績(株)監査役、東京府在籍

圓藤作藏
正四位勳二等功五級、豫備陸軍中將、徳島縣在籍

圓佛七藏
福岡縣多額納税者、圓佛古賀商店(株)代表取締役、福岡縣在籍

圓佛琢美
圓佛古賀商店(株)取締役
福岡縣在籍

圓佛琢美
圓佛古賀商店(株)取締役
福岡縣在籍

煙谷孝吉
廣島縣多額納税者、常務取締役、廣島縣在籍
廣島縣在籍

遠坂伊太郎
群馬縣多額納税者、染布工業、共立機業、桐生機械各(株)取締役、六波羅會、桐生帝國座各(名)代表社員、織姫信用購買組合理事、群馬縣在籍

遠藤石太郎
北海道多額納税者、北海道製鋼、北高土水電、北海電力、札幌土地住宅(株)取締役、札幌製造業、北海道在籍

遠藤吉次郎
宮城縣多額納税者、海軍少將、遠藤清房長女
遠藤吉次郎

遠藤嘉右衛門
廣島縣多額納税者、雲陽銀行、出雲製織、ミヅ小商會各(株)取締役、農業、島根縣在籍

遠藤伊三次
三菱銀行(株)本店貸付係長
福島縣在籍

遠藤石太郎
北海道多額納税者、北海道製鋼、北高土水電、北海電力、札幌土地住宅(株)取締役、札幌製造業、北海道在籍

遠藤吉次郎
宮城縣多額納税者、海軍少將、遠藤清房長女
遠藤吉次郎

遠藤嘉右衛門
廣島縣多額納税者、雲陽銀行、出雲製織、ミヅ小商會各(株)取締役、農業、島根縣在籍

同縣士族須田馬太郎に嫁せり(東京市外西巢鴨町東
鴨二六三九電大塚九六二)

參照 伊澤勝磨、須田馬太郎、伊澤多喜男の項

遠藤六太郎

新潟縣多額納稅者、六十九銀行
査役、農業、新潟縣在籍

養子

明九、九生、新潟、青木桂藏二女

君は新潟縣人遠藤龜太郎の長男にして元治元年九月を以て生れ明治二十三年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして傍は前記銀行の重役たり長女セン(明一八、一生)は同夫信治(同一九、二生、新潟、立川秀司叔父)及三男三女と共に弟龜三郎(同二一、七生)は同妻ノア(同二九、七生、新潟、丸山武夫姉)を伴ひ妹アサ(同三五、一〇生)は其一子を伴ひ各分家し姉デン(同三四、四生)弟龜二郎(明一七、一生)二男金之助(同三〇、三生)も亦各分家し妹レキ(同二二、七生)は新潟縣人池田慶吉に二女マル(同二三、一〇生)は同縣人立川秀司叔父七郎に嫁せり(新潟、三島、深方村)
參照 遠藤保太郎、立川秀司の項

オヲ之部

小穴宗次

從五位勳六等、鐵道局技師、名古屋鐵道局濱松工場長、長野縣在籍

妻 ヒロ 長女、二七、九生、東京、岡田竹五郎

男 正一郎 大六、一生

君は長野縣人小穴彌三郎の二男にして同秀一の弟なり明治十八年三月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學工學科大學機械工學科を卒業し同四十四年鐵道院技師となり大正九年米國に同十一年歐洲に出張す現時鐵道局技師にして名古屋鐵道局濱松工場長たり(濱松、伊場)
參照 小穴秀一の項

小穴秀一

日本炭礦瓦斯(株)專務取締役、小穴製作所(株)專務取締役、日本無線電信(株)常務取締役、日本無早稻田大學講師、長野縣在籍

父 彌三郎 嘉永元、一〇生、現戸主

母 もと 安政六、一生、長野、丸山團衛三女

妻 しづ 養妹、明二、九生、東京、中村郁次郎

男 秀雄 明四二、一生

君は長野縣人小穴彌三郎の二男にして明治十四年四月を以て生れる同三十八年東京帝國大學工學科大學電氣工學科を卒業し機械製作業を營み現時小穴製作所專務取締役の傍ら前掲各會社の重役にして早稻田大學講師たり義に獨逸佛各國に留學す家族は尙二男秀治(明四四、六生)長女靖子(大三、四生)二女登美子(同五、一生)三男秀三(同六、一〇生)三女親子(同九、五生)五女芳子(同一二、六生)同四男勝雄(同一一、八生)弟正徳(同三四、六生)あり同宗次(同八、三生)工學士は同妻ヒロ(同二七、九生、東京、岡田竹五郎長女)と共に叔父彌八郎(安政元、二生)は其妻貞實(明一六、二生、長野、百瀬八郎四女)及其子女と共に各分家し妹壽枝(同二九、一一生)は長野縣人青木猪一郎に嫁せり(東京、

淺草、橋場町六七電淺草六九)

參照 小穴宗次、中村郁次郎、中村義四郎の項

小笠兵太郎

德島縣士族、林業、酒造業

妻 マツ 明九、三生、德島、増井市次郎長女

男 一男 明三三、三生

女 富美子 明三九、二生、長男一男妻、德島、工藤忠介四女

君は德島縣士族小笠兵太郎の長男にして明治九年三月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名善助を改め親名ナ林業並に酒造業を營み現に同縣下の多額納稅者たり家族は尙三男純一郎(明四四、八生)四男喜一郎(大二、一生)五男忠一郎(同五、一〇生)あり二男好助(明三五、四生)は德島縣人竹澤英二郎の養子となり弟哲夫(同二六、六生)は同妻ウタ(同二四、八生、德島、日野豊平二女)を伴ひ分家し長女喜美子(同三〇、一一生)は香川縣人大喜多三郎長男買一郎に二女依子(同三七、九生)は德島縣人立川基五郎四男建之に妹ケイ(同二二、三生)は同縣人三木安太郎弟熊二に同シケ子(同二六、二生)は同縣士族岡湯淺成一養子信男に嫁せり(德島、美馬、脇町)
參照 大喜多三郎の項

小笠原菊次郎

王子製紙(株)常務取締役、日本フエルト、共同バルブ、樽太鐵道、共榮起業、南樺太鐵道、滿鮮鐵道、氣各(株)取締役、愛媛縣士族

妻 サヨ 嘉永二、八生、愛媛、士、小川矢

男 英男 明四〇、一〇生

君は愛媛縣人小笠原菊次郎の長男にして明治八年七月を以て生れ後先代次郎の養子となり同四十一年家督を相續す現時王子製紙會社常務取締役の外日本フエルト共同バルブ樽太鐵道其他諸會社の重役たり家族は尙二男武夫(明四四、一生)あり長女久仁子(同三六、一生)は男爵安場末喜三男保定に嫁せり(東京市外中野町中野六一九電四谷一四二五)
參照 男爵安場末喜の項

小笠原鎌次郎

十七銀行、大垣共立銀行、興亞企業、小倉石油各(株)取締役、東京府在籍

妻 貞子 明二七、七生、法學士、三菱銀行員

男 光 明三五、一一生、長男光雄妻、文學博士市村環次郎長女、三輪田高等女學校出身

女 光 明三五、一一生、法學士、通信省貯金局員

君は山形縣士族小笠原昇の二男にして萬延元年十二月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す夙に安田銀行に入り庶務部長保善社理事等に擧げられ現時前記銀行會社の重役たり家族は尙五男光信(大二、一一生)孫光興(同二、九生、長男光雄長男)同駒子(昭二、一一生、同長女)あり(東京市外大井町倉田三三六五電高輪一〇三二)

小笠原三九郎

臺灣土地開拓(株)社長、大和護謨栽培(株)取締役、南洋倉庫、スマトラ護謨拓殖各(株)監査役、愛知縣在籍

妻 榮子 明二八、一一生、長崎、士、當井

男 康郎 大五、一生

小笠原長定

子爵、舊越前藩山藩

妻 富喜 明三七、九生、子爵土井利章姉

當家は甲斐守源義光の後裔大膳大夫小笠原政康の三男伊奈六郎光康の後なり世々信濃國松尾の城主として四代を経て信濃に至り徳川氏に從ひ武州本庄一萬石に封ぜらる嗣子左衛門佐信之更に越前國山に移り二萬三

大學を卒業し同三十一年岐阜縣立病院眼科醫長に任ぜられ同二十二年郷里静岡に開業す同三十五年岡山醫學專門學校教授兼同縣立病院眼科醫長に聘せられ同三十七年眼科研究の爲め獨逸各國に留學を命ぜられ歸朝後直に醫學博士の學位を受く同四十五年職を辭し小川眼科病院を創立して其院長となり小川眼科講習會を開くこと既に二十數回實験眼科雜誌を主宰し傍ら東京醫師建築信用購買利用組合理事長杉山誠按學校長たり姉つ(父久三、一〇生)は其二子を生ひ分家し姪まつ(同二六、九生)は山梨縣人江尻郵便局長岩間耕作に養子(同三六、五生、静岡、杉山謙三(四女)は小川眼科病院副院長醫學博士黒澤潤三に嫁し兄三知は多年米國にあり現時市外田端にステンドグラスを製作しつゝあり(東京、下谷、池之端仲町一六電下谷四八八)

小川源兵衛

近江屋、織物商
妻 ナセ 門二五、九生、滋賀、小川松右衛門二女

養子 宗次郎 明三五、五生、長女美知夫、埼玉、中村芳太郎二男

女 美知 明三九、五生、養子宗次郎妻

女 梅子 明四一、七生

女 繁子 明四三、一〇生

君は長野縣人北村仁吉の四男にして明治十年七月を以て生れ同三十六年先代源兵衛の養子となり大正四年家督を相続し前名義一を改む近江屋と稱し織物商を營む(東京、日本橋、富澤町一八電漢花二七五六)

小川五藏

熊本縣多額納稅者、米穀商
妻 ユキ 明一五、五生、熊本、吉丸初太郎妹

女 イツキ 明二五、三三

君は熊本縣人小川三藏の弟にして明治十三年九月を以て生れ米穀商を營み熊本縣多額納稅者たり家族は尙二女妙(大五、一〇生)あり(熊本、玉名、横島村)
參照 小川三藏の項

小川郷太郎

正四位勳三等、法學博士、衆議院議員(岡山縣選出)、拓殖大學學監
岡山縣在籍
妻 重 明二三、七生、京都、大森治郎兵衛長女

せり(京都、下京、三條通白川橋上ル北裏電上二六三)

小川脩平

富士見銀行、諏訪電氣各(株)取締役、朝鮮企業、京濱電氣、南信日日新聞社各(株)監査役、富士見村長、長野縣在籍
男 豊 明四二、七生

女 リ 明三八、三三、諏訪高等女學校出身

女 やす 明四〇、七生、諏訪高等女學校出身

君は長野縣人小川金藏の四男にして同金治同平吉の弟なり明治十一年六月を以て生れ現時富士見村長にして前記諸銀行會社の重役たり家族は尙男三見村長(一、二生、現戸主)同妻とめ(同三六、一〇生)は東京府人齋藤四女(一、二生)及子あり(同三六、一〇生)は東京府人齋藤平次郎長女芳枝の姪養子となり姪い(同二八、四生)は長野縣人小林只之助三男清に嫁し弟三郎(同二六、六生、海軍中佐)は同妻カヨ(同二四、一〇生、廣島、佐々木成二姉)及其子女を伴ひ分家せり(長野、諏訪、富士見村)
參照 小川金治、小川平吉、佐々木成二、※村上仙造の項

小川讓一

芳香原料藥品商
大阪府在籍
妻 エツ 慶應二、九生、大阪、大里長兵衛三女

妻 フク 明二八、八生、大阪、曾我勘兵衛二女

君は大阪府人小川安兵衛の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ同十四年家督を相続す芳香原料藥品商を營む家族は尙弟三郎(明三三、三三)同妻ウ(同三六、四生、大阪、清水スエ長女)あり同弟三(同二九、一〇生)は其妻アサエ(同三五、一〇生、大阪、井角佐二女)と共に分家せり(大阪、東道修町二ノ四五電本局六六七)

小川澄夫

高知縣商工會議所副會頭
高知縣土族
妻 如道 明一八、一〇生、高知、土、野村清意妹

君は岡山縣人村山菊藏の長男にして明治九年六月を以て生れ同縣土族小川知彰の養子となり同三十九年分家して一家を創む同三十六年東京帝國大學法政科大學政治科を卒業し恩賜の時計を受く卒業後直に京都帝國大學法政科大學講師に聘せられ亦で助教となり同三十九年獨逸に留學し後伊佛白諸國に轉じ財政經濟を研究し其間歐洲各國を歴遊し親しく政治經濟の實情を觀察し海外に在ること六年同四十五年歸朝直ちに同教授に進み大正二年法學博士の學位を受く翌年瑞西に於けるカネギ一平和財團主催平和會議に參列し同十三年京都帝國大學を辭す同六年以來衆議院議員に當選三回立憲民政黨に屬す家族は尙長女芳子(大五、一〇生)あり(東京市外中野町東中野一七八五)
參照 小川五藏の項

小川定七

静岡縣多額納稅者、煙草元賣捌業
妻 その 明八、二生、静岡、山下定吉妹

男 源一 明三三、九生

君は静岡縣人小川定七の長男にして明治四年八月を以て生れ同二十九年家督を相続し前名梅吉を改め梅名す煙草元賣捌業を營み現時静岡縣多額納稅者たり妹ます(明一〇、八生)は静岡縣人市川利八二男吉平に嫁せり(静岡、磐田、見付町)

小川三左衛門

三重縣多額納稅者、酒類商
妻 なを 明一七、七生、三重、土、森田橋造二女

男 圭 明三三、七生

君は三重縣人小川三左衛門の長男にして明治十三年十月を以て生れ同二十二年家督を相続し前名昌太郎を改め梅名す酒類商を營み三重縣多額納稅者たり家族は尙三男五三(明四三、八生)四男貞郎(大二、一〇生)五男容平(同七、一〇生)長女俊(同三三、三三)あり姉せい(明一〇、七生)は三重縣人河村清兵衛に妹とす(同一八、二生)は同縣人宇仁田秀次郎に同茂(同二五、九生)は同縣人土屋三郎に嫁せり(宇治山田、河崎町)
參照 河村清兵衛の項

小川三藏

熊本縣多額納稅者、農業
妻 重 明二三、七生、京都、大森治郎兵衛長女

君は高知縣土族岡本幸實の弟にして明治十一年十一月を以て生れ先代澄門の養子となり大正元年家督を相続す現に高知商工會議所副會頭たり家族は尙三男洋(明四五、一〇生)四男謙夫(大二、一〇生)三女典子(同四一、一〇生)五女順子(同二二、三三)五男檢同一(三、九生)六女如子(同二五、三三)の外姉胸(文久元、五生)あり(高知市本丁筋)

小川清次郎

小川組(株)社長、建築請負業
妻 サト 明一五、一〇生、神奈川、土、尾山和興二女

男 浩一 明三三、一〇生、日本カールローヂ商會員

男 ツル 明三三、六生、長男浩一妻、東京、神木翁之助長女

男 督 明三四、九生、早稻田大學理工學部建築學科出身、清水組社員

君は東京府人小川長次郎の長男にして明治六年八月を以て生れ同二十一年家督を相続す同二十四年工手學校建築學科を卒業し直に清水組に入り技師に任ぜられしも同四十三年獨立して建築請負業を創め小川組と稱し現に其社長たり(東京市外世田ヶ谷町宮ノ内二四四四電世田ヶ谷三九)

小川清之輔

新潟縣多額納稅者、長岡商業銀行
妻 ヨネ 明三三、三三、佐賀、土、大島惟一郎妹

男 清一郎 明三三、三三

男 泰輔 明三九、一〇生

君は新潟縣人小川清松の五男にして明治十三年六月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清吉を改む現時長岡商業銀行頭取たる外前掲各銀行會社の重役を兼ね同縣多額納稅者たり家族は尙四男正巳(大元、九生)二女

小川善三郎

名古屋株式取引所取引員
妻 博三 明三〇、二生

男 博三 大一一、七生

君は新潟縣人小川清松の五男にして明治十三年六月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清吉を改む現時長岡商業銀行頭取たる外前掲各銀行會社の重役を兼ね同縣多額納稅者たり家族は尙四男正巳(大元、九生)二女

小川善三郎

名古屋株式取引所取引員
妻 博三 明三〇、二生

男 博三 大一一、七生

君は新潟縣人小川清松の五男にして明治十三年六月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清吉を改む現時長岡商業銀行頭取たる外前掲各銀行會社の重役を兼ね同縣多額納稅者たり家族は尙四男正巳(大元、九生)二女

小川善三郎

名古屋株式取引所取引員
妻 博三 明三〇、二生

男 博三 大一一、七生

君は新潟縣人小川清松の五男にして明治十三年六月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清吉を改む現時長岡商業銀行頭取たる外前掲各銀行會社の重役を兼ね同縣多額納稅者たり家族は尙四男正巳(大元、九生)二女

小川善三郎

名古屋株式取引所取引員
妻 博三 明三〇、二生

男 博三 大一一、七生

君は新潟縣人小川清松の五男にして明治十三年六月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清吉を改む現時長岡商業銀行頭取たる外前掲各銀行會社の重役を兼ね同縣多額納稅者たり家族は尙四男正巳(大元、九生)二女

小川善三郎

名古屋株式取引所取引員
妻 博三 明三〇、二生

男 博三 大一一、七生

君は新潟縣人小川清松の五男にして明治十三年六月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清吉を改む現時長岡商業銀行頭取たる外前掲各銀行會社の重役を兼ね同縣多額納稅者たり家族は尙四男正巳(大元、九生)二女

君は愛知縣人先代善三郎の長男にして明治二十七年一月を以て生れ大正十年家督を相續し...

小川 琢治

從三位勳二等、理學博士、帝國學士院會員、京都帝國大學教授、理學部勤務、京都府士族...

小川 武次

正四位勳四等、子爵、陸軍歩兵少佐、東京府華族、子爵、陸軍歩兵少佐...

小川長右衛門

秋田縣多額納稅者、四十八銀行秋田貯蓄銀行、秋田縣在籍、取締役、農務、秋田縣在籍...

小川 貞一

山陰縣多額納稅者、山陰實業銀行、山陰日日新聞社、倉吉電氣會社、取締役、獎賞銀行、監査役、酒類製造販賣業、鳥取縣在籍...

小川 貞一

帝國倉庫運輸(株)取締役、十五銀行、泰昌銀行、千歲火災海上再保險各(株)監査役、東京府士族...

當家は先代又次より家名を揚ぐ又次は舊小倉藩士にして慶應二年長藩の兵と戦つて武功あり...

小川 龍雄

神戶太平洋商工(株)取締役、兵庫縣在籍、明二〇、九生、愛知、辻榮吉妹...

小川 爲助

日本商工(株)取締役、大阪府在籍、安政六、五生、奈良、佐伯久平二、養父、長、藏、明、現、五、生、大阪、八尾太吉長女...

君は長崎縣士族小川貞政の長男にして明治四年七月を以て生れ大正八年家督を相續す...

小川 悌

從五位勳四等、朝鮮總督府判事、高等法院判事、東京府在籍、明一三、五生、千葉、武田行部左衛門妹...

小川 德助

秋田製糖(株)代表取締役、増田水力電氣(株)取締役、雄勝銀行、長坂商店各(株)監査役、秋田縣在籍...

君は大阪府人小川爲次郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す...

小川 忠示

從七位勳六等功五級、千葉縣多額納稅者、農務、千葉縣在籍、嘉永元、一、生、千葉、松原喜兵衛長女...

小川 忠藏

從五位勳、神戸高等商業學校教授、宮城縣在籍、高永五、五、生、岩手、平貞三女...

小川 篤茂

宮崎縣多額納稅者、宮崎縣在籍、文久元、五、生、宮崎、河野五郎養母...

小川 友吉

鶴谷商會(株)取締役、兵庫縣在籍、明一九、一、生、岡山、岩崎安貞長女...

小川 寅太郎

高知縣多額納稅者、高知縣在籍、明一四、三、生、先々代寅太郎長女...

小川 八助

日本コンクリート工業(株)專務取締役、福岡縣在籍、明一五、七、生、福岡、三浦省吾二女...

工業會社事務取締役たり家族は尙三男貞三(大二、三
生)四男金四(同五、三生)あり長女竹子(明三四、二生)
は福岡縣人井上貞彦に嫁せり(八幡、黒崎町)

小川 平吉 從三位勳一等、鐵道大臣、衆議院
議員(長野縣選出)、鐵道會議長、
臨時法制審議會委員、東京府在籍
男 一平 明二〇、一、二生、熊本、野中熊彦妹
妻 七 明二〇、一、二生、熊本、野中熊彦妹
女 悦子 明四〇、三生、府立第三高等女學
校出身

君は長野縣諏訪郡の里正小川金藏の三男にして同金治
の弟同備平の兄に當る明治二十年二月を以て生れ同二
十五年分家して一家を創立す同年帝國大學法科大學佛
法科を卒業し辯護士となる東亞同文會の創立に與り幹
事長となり現今其相談役たり又南洋協會大東文化協會
等を組織し相談役副會長に擧げらる衆議院議員に當選
すること九回久しく立憲政友會の幹部として國務院總
裁司法大臣等に任ぜられ昭和二年四月鐵道大臣に親任
せらる射山と號し詩を能く才家族は尙二男平二(明四
三、一、生)三男三平(大二、六生)四男三平(同五、三
生)五男五平(同八、一、生)あり長女せい(明二八、二
生、府立第三高等女學校出身)は熊本縣土族井上政信
に二女こと(同三〇、一、生、出身校同上)は法學士宮澤
裕に三女てい(同三二、七、生、出身校同上)は法學士齋
藤樹に四女カツ(同三七、七、生、出身校同上)は長野縣
人高山永三郎三男法學士三郎に嫁せり(東京、麹町、内
幸町一ノ五電線三九七〇)
參照 井上政信、小川金治、小川備平、高山永三郎
の項

小川 平助 大阪府多額納稅者、大日本商事
(株)取締役、城東土地(株)監査役、
大阪府在籍
妻 ウ タ 衛長女、六生、大阪、中島市郎兵衛
長女
男 奈良造 明二〇、五生
男 平三郎 明二九、八生
女 タ カ 明三七、三生
女 キヨ 明四〇、二生
君は奈良縣人吉岡勇五郎の三男にして安政四年一月を

以て生れ先代平助の養子となり明治十一年家督を相続
す大阪株式取引所取引員にして大阪府多額納稅者に列
し傍ら前掲各會社重役たり二女モ(明二三、二生)同
夫清太郎(同二七、八生、奈良、松岡奈良松弟)は分家
し三女光(同二六、二生)は大阪府人笠原隆之助五男道
夫に四女アサ(同二八、八生)は愛媛縣人明星延興に五
女カツ(同三二、三生)は京都府人三宅宗淳二男宗雄に
嫁せり(大阪、東、今橋二ノ三八電本局一六九四)

小川 方成 神奈川縣多額納稅者
妻 マ キ 明九、七生、神奈川、山形鐵道長女
男 徳次郎 明三五、一、二生
養子 廣 代 明四四、一、生、神奈川、大野久次
君は神奈川縣人小川英俊の兄にして明治十三年十一月
を以て生れ大正九年分家して一家を創立す家商にして
現に神奈川縣多額納稅者に列す家族は尙養子ツネ(大
五、三生、神奈川、大野久次郎六女)あり同ニキ(明三
五、三生、神奈川、鈴木武二女)は神奈川縣人西山
徳太郎長男一郎に嫁せり(神奈川、足柄下、湯本町)

小川 誠 小川商事(株)取締役
妻 己 與 明二六、一、生、岡山、坂田實四
女、香蘭女學校出身
男 淳 子 大、六生
君は東京府土族小川喜成の長男にして明治十六年六月
を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十八年東京高
等商業學校を卒業し三井物産會社に入り後藤王儲業東
京海運日本豆粉製造各會社の重役に就任し現に小川商
事會社取締役たり(東京、四谷、愛住町六二)
參照 原取二郎の項

小川 正孝 從三位勳二等、理學博士、東北帝
國大學總長兼教授、理學部勤務
妻 新太郎 明三五、一、生
男 信 明二七、八生
女 英次郎 明三七、六生
男 三郎 明四〇、五生
君は岐阜縣人淺野佐五右衛門の男にして文久二年六月
を以て生れ明治二十二年先代政七の養子となり家督を
相続し養子電話實業並に金融業を営み縣下の多額
納稅者たり家族は尙孫期子大(一〇、一、生、養子はま
私生子あり同延子(同三一、八生、同上私生子)は愛
知縣人小川やくの養子となり同同進(同五一、一〇生、
同上私生子)は同縣人小川延三の相續人となれり(名古屋、
東、富澤町三ノ三電東一五〇五)

君は愛媛縣土族小川弘正の長男にして慶應元年正月を
以て生れ明治五年家督を相続す同二十二年帝國大學理
科大學化學科を卒業し爾來第一高等學校東京高等師範
學校東北帝國大學理學科大學各教授に歷任し同四十三
年理學博士の學位を受く現時東北帝國大學總長にして同
教授を兼ぬ家族は尙四男四郎(明四五、三生)四女繁(大
四、八生)妹タキ(慶應二、一、生)あり二女伊佐(明
三二、七生)は山形縣人石川吾吉に養從妹ハル(同九、
六生、亡叔母マサ養子)は愛媛縣土族松井末高に同
ツヨ(同二二、一、生)は大阪府人中島信一郎に嫁せり
(仙臺、米ヶ袋上丁一五電七六七)
參照 米ヶ袋上丁一五電七六七の項

小川 正行 正五位勳五等、奈良女子高等師範
學校教授、茨城縣土族
妻 とり 明一九、二、生、茨城、妹尾武庶子
男 正通 明四一、一、生
女 雪江 明三八、一〇生
女 節子 明四二、一〇生
君は茨城縣土族小川嘉市の長男にして明治六年十二月
を以て生れ同二十三年家督を相続す同三十四年東京高
等師範學校文科を卒業し山梨廣島宮城各縣師範學校教
諭群馬縣第二師範學校校長宮城縣女子師範學校校長和歌山
縣師範學校校長等に歷任し大正十二年教育學及教授法研
究の爲英獨米各國に留學す現時奈良女子高等師範學校
教授たり教育學教授法學校に關する數多の著述あり
家族は尙三男正義(大三、五生)四男正則(同五、一
〇生)五男正和(同七、一、生)三女紀美子(同二、二生)
あり姉ちよ(明元、一、生)は福岡縣人赤津稻太郎に嫁
せり(奈良市法蓮町一七二)

小川 正義 千葉縣多額納稅者、九十九里軌道
(株)取締役、農業、千葉縣在籍
妻 富 明二八、六生、千葉、伊藤博妹
男 正和 大六、一、生
君は千葉縣人小川長右衛門の長男にして明治二十二年
七月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治四十五年
早稻田大學政治經濟科を卒業し農業を営み千葉縣多額

納稅者にして現時九十九里軌道會社取締役たり家族は
尙二男秀長(大九、五生)二女清子(同二〇、九生)三男
長三(同三一、一、生)四男安正(同四一、一〇生)あり養
兄徳明九、四生)は妻子を伴ひ分家し妹おれい(同三
五、二生)は千葉縣人小川文男に同敏子(同三八、九生)
は奈良縣人玉置タラ養子本弘に嫁せり(千葉、山武、東
金町)
參照 小川博の項

小川 政次郎 白濱温泉自動車(株)事務取締役、
熊野自動車(株)取締役
妻 國太郎 安政六、九生
養母 タ キ 明元、七生、和歌山、中村六郎長女
妻 キタエ 明二二、一〇生、養父國太郎長女
男 豊平 大七、三生
女 千代子 明四三、一、生
女 美知子 大、五生
君は和歌山縣人笹野梅太郎の弟にして明治二十年五月
を以て生れ先代國太郎の養子となり大正十四年家督を
相続す明治四十四年早稻田大學商科を卒業し現時前記
各會社の重役たり家族は尙二男康彦(大九、四生)四男
富三(同三一、一、生)五男隆次(同五一、八生)あり(和歌
山、日高、南部町)
參照 米ヶ袋上丁一五電七六七の項

小川 政次郎 綿布商
妻 岩 吉 文久二、二生、滋賀、前川善吉弟、
現戸主
男 善 明三一、八生、大阪、栗栖安吉長女
妻 し め 明三一、一、生
君は大阪府人小川岩吉の長男にして明治二十四年六月
を以て生れ綿布商を営む家族は尙長女よね(大一一、八
生)二女美代子(同二四、二生)二男義三(生年月同上)
あり(大阪、東、村木町一九電東三八四九)
參照 小川岩吉の項

小川 政七 愛知縣多額納稅者、電話買賣業、
金融業、愛知縣在籍
妻 正 一 明三五、八生、生母、愛知、岡本まつ
婦 壽子 明三八、八生、庶子正一妻、愛知、
佐藤あい長女

養子 は ま 明二七、一〇生、愛知、淺野斧次
郎三女
君は岐阜縣人淺野佐五右衛門の男にして文久二年六月
を以て生れ明治二十二年先代政七の養子となり家督を
相続し養子電話實業並に金融業を営み縣下の多額
納稅者たり家族は尙孫期子大(一〇、一、生、養子はま
私生子あり同延子(同三一、八生、同上私生子)は愛
知縣人小川やくの養子となり同同進(同五一、一〇生、
同上私生子)は同縣人小川延三の相續人となれり(名古屋、
東、富澤町三ノ三電東一五〇五)

小川 政修 從四位勳三等、醫學博士、九州帝
國大學教授、醫學部勤務
妻 圭 子 明二〇、六生、愛知、伊藤篤太郎妹
男 政 明三九、八生
男 政 明四一、四生
君は石川縣土族小川政成の長男にして明治八年九月を
以て生れ同三十五年家督を相続し前名得藏を改む同三
十六年東京帝國大學醫學科大學を卒業し京都帝國大學福
岡醫學科大學助教授に任じ後醫學研究の爲獨佛(留學し
尋で九州帝國大學醫學科大學教授に任ぜられ現に在る
大正三年醫學博士の學位を受く家族は尙三男政敏(大
三、一、生)長女温子(同五、七生)あり妹薫(明二〇、四
生)は香川縣人矢野修夫に嫁し弟惲(同三一、七生)は
同妻清(同三一、八生、秋田、高垣徳治長女)及其二子
を伴ひ分家せり(福岡市地行西町二一)

小川 又一郎 小倉商工會議所副會頭、小川商店
(名)代表社員、滋賀縣在籍
妻 子 明一六、九生、滋賀、小堀露吉長女
男 又 雄 明四三、一、生
女 美 明四一、五生
君は滋賀縣人小川又七の長男にして明治十年十二月を
以て生れ幼名を露吉と稱し大正六年家督を相続す現時
小川商店代表社員にして推されて小倉商工會議所副會
頭たり家族は尙三男又弘(大四、二生)二女壽美(同五、
一、二生)三女愛(同七、八生)四男安弘(同九、四生)五
男昌義(同一二、一、生)四女清子(同一四、一〇生)の
外弟左七郎(明一九、三生)及其二女あり姉きよ(同九、

一生)は滋賀縣人西川常吉に嫁し弟本義(同二五、八生)
は分家せり(小倉、米町)

小川 茂七 紅谷支店、菓子商
妻 つる 明一〇、一、生、東京、西岡金太
郎叔母
男 秀吉 明三二、九生
男 はな 明三六、四生、長男秀吉妻、東京、
櫻井榮藏長女
男 壽三郎 明三八、八生
男 註 二 明三二、一、二生、二女愛子夫、長
男 愛 子 明四一、五生、養子註二妻
女 愛 子 明四一、五生、養子註二妻
君は山形縣人淺倉茂左衛門の七男にして明治六年三月
を以て生れ同三十年先代つるの入夫となり家督を相続
す紅谷支店と稱し菓子商を営む家族は尙孫和子(大
四、三生、長男秀吉長女)同安江(同二五、七生)同二
女(同三〇、七生)は東京府人穂積峯三郎養子一郎に
嫁せり(東京、牛込、有町二九電牛込三五七〇)
參照 西岡金太郎西岡芳之助の項

小川 彌四郎 函館市參事會員、小川(名)代表社員、
石川縣在籍
妻 彌 八郎 明二八、一〇生、石川、寺井文左
門妹
男 彌 八郎 明二八、一〇生、石川、寺井文左
門妹
女 八重子 明四五、一、生
君は石川縣人先代彌四郎の庶子にして明治二十一年一
月を以て生れ大正三年家督を相続す現時小川合名會社
代表社員にして函館市參事會員たり家族は尙二女喜美
(大四、一、生)三女多賀(同五、五生)四女千鶴子(同九、
七生)五女澄(同一二、五女)弟富藏(明二八、六生)同
妻ハナ(同二九、一、生、北海道、秋葉金次郎孫及び
其子女あり同彌吉(同二五、八生)妹ヤス(同二六、一
一生)は各分家せり(函館、天神町五四)
參照 米ヶ袋上丁一五電七六七の項

小川 保藏 職保商店、村木商
妻 彌 八郎 明二八、一〇生、石川、寺井文左
門妹
男 彌 八郎 明二八、一〇生、石川、寺井文左
門妹
女 八重子 明四五、一、生
君は石川縣人先代彌四郎の庶子にして明治二十一年一
月を以て生れ大正三年家督を相続す現時小川合名會社
代表社員にして函館市參事會員たり家族は尙二女喜美
(大四、一、生)三女多賀(同五、五生)四女千鶴子(同九、
七生)五女澄(同一二、五女)弟富藏(明二八、六生)同
妻ハナ(同二九、一、生、北海道、秋葉金次郎孫及び
其子女あり同彌吉(同二五、八生)妹ヤス(同二六、一
一生)は各分家せり(函館、天神町五四)
參照 米ヶ袋上丁一五電七六七の項

妻 くめ 明二、一、生、千葉、青山忠次郎
 長女
 君は千葉縣人小川萬之助の二男にして明治十六年六月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す職保商店と稱し村木商を營む家族は尙長女信子(大二、九生)二男嘉平(同一五、三三)あり妹さく(明二五、六生)は東京府人宇佐美政衛に嫁せり(東京、深川、散矢町一〇番本所四四八)

小川 由松 洋紙商
 大阪府在籍

妻 タミ 明二、七、生、大阪、大村由松妹
 明四〇、一、生
 君は大坂府人小川久五良の二男にして明治十五年二月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す洋紙商を營む家族は尙二男柱次郎(大元、一三)長女うた子(同四、一三)三男由之助(同七、六生)二女ミエ(同一三、七生)五男慶三(同一五、二生)あり(大阪、東、南久太郎町一ノ五八番船場三三三)

小川 好知 鹿兒島商業銀行(株)頭取
 鹿兒島縣在籍

妻 ハツ 明二、一、生、京都、岩城市之助
 長女
 君は鹿兒島縣人小川彌平の長男にして明治五年十二月を以て生れ同三十年家督を相続す同三十四年中央大學を卒業し現に鹿兒島商業銀行頭取たり家族は尙叔父彌七郎(嘉永四、五生)あり弟好起(明八、五生)は同妻かね(同八、四生、奈良、植田覺齋妹)と共に分家し同英正(同一四、三三)も亦分家せり(鹿兒島市山下町一八四)

小川 芳太郎 從五位、桐生高等工業學校教授
 東京府在籍

妻 ヤエ 安政五、五、生、小川彦吉長女
 明二七、一〇、生、富山、米生彦三
 君は東京府人小川駒吉の長男にして明治十四年四月を以て生れ同四十一年家督を相続す同四十二年東京帝國大學工科大学機械學科を卒業し大正五年桐生高等工業

學校教授に任ぜられ同九年官制改正に依り桐生高等工業學校教授となり今日に及ぶ(東京、小石川、第六天町一八)

小川 芳太郎 山陽銀行、丸龜銀行、津山土地各
 (株)取締役、岡山縣在籍

妻 きぬ 明三、四、六、生、養父彌右衛門長女
 明三、四、五、生、長男透妻、岡山、遠藤又吉二女

小川 理太郎 京濱住宅(株)専務取締役
 香川縣在籍

妻 サキ 明二、五、八、生、神奈川、中山沖右衛門二女、六生
 君は香川縣人小川辨之助の長男にして明治二十年三月を以て生れ同二十五年家督を相続す同四十五年慶應義塾大學理財科を卒業し現時京濱住宅専務取締役たり家族は尙長女輝子(大六、七生)二女雅子(同八、四生)二女文子(同一四、二生)あり東京府外東調布町田園都市一六九番電田園調布四〇〇)

小川 龍 正五位勳三等功五級、海軍少將
 海軍少將、東京府在籍

妻 とよ 明二、八、生、東京、田中辰三姉
 明三、九、生
 君は茨城縣人小川東吾の男にして明治十一年四月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す明治三十六年帝國大學醫科大學を卒業し明治三十六年海軍中軍醫に任じ大正十三年海軍軍醫少將に陞進す其間海軍省醫務局々

員兼艦政本部技術會議々員横須賀海軍病院第一部長佐世保海軍病院院長兼同鎮守府醫長等に歴補し現時海軍々醫學校長の職にあり家族は尙二女喜代(大六、一〇生)二男英(同一〇、四生)三男武(同一〇、四生)あり(東京市外中野町桃園三三三)

小川 若三郎 正五位勳四等、電氣試驗所技師兼
 電氣試驗所第五部長、東京府在籍

妻 つる 明一、六、三、生、小川彦次郎庶子
 明四三、一〇、生
 君は東京府人安田孫三郎の弟にして明治十七年三月を以て生れ同四十一年先代つるの入夫となり家督を相続す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し通信技師兼通信省臨時調査局技師電氣試驗所技師に任じ現時前記の官職に在り臺灣總督府交通局技師を兼ね曾て英米佛獨に留學す家族は尙三男忠彦(大六、一〇生)長女隆子(同一二、一〇生)あり(東京、芝、白金三光町二七三番高輪四〇九〇)

小川 正儀 從五位、朝鮮總督府官兼朝鮮總
 督府事務官、山口縣在籍

妻 ヒサ 慶應二、一、生、山口、内田文吉
 長女
 君は大分縣人小川屋彦の弟にして明治二十七年十二月を以て生れ後先代源一の養子となり大正五年家督を相続す同七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し和歌山縣に任じ文官高等試驗に合格し内務省同縣警視廳事務官兼同事務官に轉じ大正十二年現職朝鮮總督府官事務官に轉じ大正十二年歐米各國(出張を命ぜらるる家族は尙長女滿洲榮(大一二、二生)の外兄虎彦(明二一、四生)あり(京城、總督府官舎)

小川 原壯平 岡山縣多額納稅者、農
 業

妻 末子 明三三、五、生、山口、小田伴
 明三三、五、生
 君は大分縣人小川屋彦の弟にして明治二十七年十二月を以て生れ後先代源一の養子となり大正五年家督を相続す同七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し和歌山縣に任じ文官高等試驗に合格し内務省同縣警視廳事務官兼同事務官に轉じ大正十二年現職朝鮮總督府官事務官に轉じ大正十二年歐米各國(出張を命ぜらるる家族は尙長女滿洲榮(大一二、二生)の外兄虎彦(明二一、四生)あり(京城、總督府官舎)

小川 勝太郎 長野縣多額納稅者、諏訪工業(株)
 社長、諏訪天然瓦斯(株)取締役、
 製絲業、長野縣在籍

妻 よし 慶應元、一〇、生、長野、小口龜藏
 長女
 君は長野縣人小川清助の長男にして明治二十年十二月を以て生れ大正十二年家督を相続す製絲業を營み傍ら諏訪工業會社々長の外前記會社の重役に任じ長野縣多額納稅者たり家族は尙二女ひろ(大五、一〇生)二男速雄(同七、九生)三女妙子(同一〇、七生)四女和子(昭元、一二生)あり(長野、諏訪、平野村)

小口 市郎 長野縣多額納稅者、諏訪生絲(株)
 取締役、製絲業、長野縣在籍

妻 みち 嘉永四、九、生、長野、小口重右衛門四女
 明二五、七、生、長野、藤森市藏長
 君は長野縣人小口百太郎の二男にして明治十七年八月を以て生れ製絲業を營み傍ら諏訪生絲會社取締役に任じ縣下の多額納稅者たり家族は尙長女みち(大四、三三)三男芳男(同八、一〇生)四男一太郎(同一四、一〇生)五男達郎(同一三、一〇生)六男光太郎(同一四、一〇生)二女ます(昭二、八生)の外兄吉郎(明一五、七生、現戸主)同妻あきよ(同二三、七生、長野、小口今朝吉姉)及其一男あり姉あきよ(同一〇、四生)は長野縣人小口今朝太郎に同(同一二、九生)は同縣人矢島志摩助に嫁せり(長野、諏訪、下諏訪町)

小口 卯之吉 長野縣多額納稅者、製絲業
 長野縣在籍

妻 いづ 明一七、一、二、生、長野、小口村吉妹
 明四一、六、生
 君は長野縣人小口直太郎の長男にして明治十二年十二月を以て生れ同三十六年家督を相続す製絲業を營み長

小口 吉左衛門 長野縣多額納稅者、諏訪糧食(株)
 監査役、製絲業、長野縣在籍

妻 さか 明二五、四、生、長野、五味平三郎
 長女
 君は長野縣人小口吉左衛門の弟にして明治十六年九月を以て生れ大正六年家督を相続す前名増雄を改め製絲業を營み傍ら現時諏訪糧食會社監査役に任じ現に長野縣多額納稅者たり家族は尙兄吉妻なを(慶應元、一二生、長野、白鳥伊三治妹)あり(長野、諏訪、平野村)

小口 金吾 長野縣多額納稅者、金山製絲(株)
 監査役、製絲業、長野縣在籍

妻 りう 弘化元、一〇、生、長野、小口吉郎
 右衛門長女
 明二七、八、生、長野、重盛富士太
 郎三女、大正、七、生

小岸 安昌 大阪府會議員、國際セルロイド工
 業(株)社長、大阪府在籍

妻 正雄 明四三、一、生
 明四〇、四、生、山陽高等女學校出身
 君は長野縣人小川次郎の長男にして明治五年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す同二十四年明治學院及同二十六年慶應義塾を卒業し三愛倉庫會社に入り三愛會社理事並に東京支店支店長共同運輸會社取締役たりし大正十五年帝國製絲會社創立に際し三愛を辭して同社に入り支店長と爲る妹シヅは永松達吉に嫁せり(東京、芝、芝公園二〇ノ三番芝一六三)

妻 操 明二三、八、生、岡山、伊原源吉五女
 明四一、六、生
 君は岡山縣人小川原文平の長男にして明治十八年六月を以て生れ同三十三年家督を相続す農業を營み現に岡山縣多額納稅者たり家族は尙二男圭次(明四三、八生)三男泰信(同四五、六生)五男裕一(大四、一〇生)二女榮子(同九、八生)三女千枝子(同一二、三三)あり(倉敷市)

小 木 植 三菱(資)參事
 東京府在籍

妻 わか 明長女、九、生、東京、土、宮本走
 明四、九、生、七、生
 君は福井縣人小川木津の長男にして明治八年三月を以て生れ同二十九年家督を相続す同二十七年早稲田大學文科の出身にして陸軍通譯官中學校教諭等に就職し後三愛倉庫會社に入り現に同社理事たり家族は尙弟暢(明一三、一〇生)同妻ナヲ(同二五、四生、兵庫、黒田治兵衛長女)あり同妻(同一〇、八生)は同妻よね(同一六、三三、兵庫、魚住半兵衛三女)を從へ分家せり(東京市外巢鴨町二ノ五〇番大塚四二八)

小 城 徳太郎 帝國製絲會社(株)支店長、芝公園
 三線亭主、東京府在籍

妻 サク 明一四、一、生、大阪、小野十作長
 女、大阪綜藝高等女學校出身
 明四三、一、生
 君は長野縣人小川次郎の長男にして明治五年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す同二十四年明治學院及同二十六年慶應義塾を卒業し三愛倉庫會社に入り三愛會社理事並に東京支店支店長共同運輸會社取締役たりし大正十五年帝國製絲會社創立に際し三愛を辭して同社に入り支店長と爲る妹シヅは永松達吉に嫁せり(東京、芝、芝公園二〇ノ三番芝一六三)

小 岸 安昌 大阪府會議員、國際セルロイド工
 業(株)社長、大阪府在籍

妻 正雄 明四三、一、生
 明四〇、四、生、山陽高等女學校出身
 君は長野縣人小川次郎の長男にして明治五年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す同二十四年明治學院及同二十六年慶應義塾を卒業し三愛倉庫會社に入り三愛會社理事並に東京支店支店長共同運輸會社取締役たりし大正十五年帝國製絲會社創立に際し三愛を辭して同社に入り支店長と爲る妹シヅは永松達吉に嫁せり(東京、芝、芝公園二〇ノ三番芝一六三)

小 岸 安昌 大阪府會議員、國際セルロイド工
 業(株)社長、大阪府在籍

妻 ツネ 明三四、六生、栃木、阿久津福平
君は栃木縣人先代融四郎の長男にして明治二十八年一月を以て生れ大正十一年家督相続と共に襲名して前名一郎を改む現に關東鐵道會社社長たり家族は尙長女アサ(大正一、一生)妹カミ(明三三、二生)同夫榮三(同三二、四生)栃木、伴榮三郎五男及其一女同マリ(同三六、四生)弟久(同四四、八生)あり(栃木、那須、大田原町)

君は先代の遺業を承けて海運業に従事し海産物商を營む現時店舖を合名組織となし小熊商店と號し是を主宰す北海道多額納稅者にして傍ら前掲銀行會社の重役として知らる書畫骨董に趣味を有す家族は尙庶子四郎(大正一、五生)生母、北海道、澤野サク(同五郎)同三郎(長男)あり三女テイ(明三四、七生)新潟縣立高等女學校出身)は山梨縣人經濟學士秋山彌に四女雪(同三六、五生)函館愛媛女學校出身)は故京都帝國大學名譽教授田邊朝郎二男法學士主計に五女ムメ(同三八、八生)日本高等女學校出身)は男爵清水博春に嫁せり(函館、辨天町一七)

君は新潟縣人服部正徳の弟にして明治十一年七月を以て生れ先代善治郎の養子となり同四十年家督を相続す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙四男正和(明四五、二生)五男正安(大正四、七生)七男正實(同一二、四生)あり二女治(明三八、一〇生)は新潟縣人同川潤治に養妹トミ(同二六、八生)は同縣人伊藤助右衛門三男雄吉に嫁せり(新潟、東頸城、安塚村電一九)

君は佐賀縣人西岡徳助の弟にして文久元年三月を以て生れ後小限長左衛門の養子となり明治十七年家督を相続し襲名して前名を改む農業を營み現時佐賀縣多額納稅者たり長女キク(明一二、二生)は佐賀縣人大串兵衛に二女ナヲ(同四一、一生)は同縣人川久保與吉三男藤吉に五女サク(同二六、三生)は同縣人吉賀倉次に嫁し二男太八(同三三、八生)は同縣人吉永ニチの八夫となり(佐賀、西松浦、二里村)

君は北海道人小熊幸一郎の長男同新三郎の養弟にして明治二十八年六月を以て生れ大正八年慶應義塾理財科を卒業し直に米國に渡りハバロト大學に學ぶ歸朝後父幸一郎養兄新三郎と共に小熊商店の事業に關係し現に前記各會社の重役たりスポーツに趣味深く特に相撲及スキーを好み一流の技を有す(函館、辨天町)

君は鹿兒島縣人小倉俊一の弟にして明治二十三年八月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す尙商にして同縣多額納稅者たり家族は尙二男東次(大元、一〇生)長女富美子(同八、五生)二女芳子(同九、八生)三男三郎(同一一、一〇生)四女ミヨ子(同一四、八生)四男東兵衛(同一四、九生)五男仁吉(昭二、四生)あり(鹿兒島市易居町)

君は福岡縣人小倉貞の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治十二年家督を相続す東京法學院の出身にして現に前記諸會社の重役たり三女嘉代(明三〇、八生)は東京府人小林正助に四女喜久(同三四、三生)は山口縣人佐藤基に嫁せり(東京、牛込、中町一六電區牛込八六二)

君は福岡縣人小倉政二の長男にして明治七年四月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學工學科大學を卒業し京都帝國大學助教授に任じ同三十九年電氣工學研究の爲め獨逸に留學し歸朝後同大學教授に任じ同四十四年電氣博士の學位を受く後實業界に入り電氣協會大阪試験所長たり長女昭(明三四、一〇生)は工學博士鳥養利三郎に嫁せり(京都、上京、一條新町西入ル元眞如堂町三七五電區西三三)

君は宮城縣人小倉長太郎の四男にして明治十五年六月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同三十九年東京帝國大學文藝學科を卒業し明治高等普通師範を経て朝鮮總督府編輯書記に任じ京城高等普通師範校教諭京城醫學專門學校教授等を兼任し大正八年朝鮮總督府編輯官に任ぜられ同十三年官語學研究の爲め英佛米各國に出張を命ぜらる歸朝後京城帝國大學教授に任じ法文學部勤務となり現在に至る家族は尙長女道子(大六、三生)二女紀子(同九、九生)三女敦子(同一二、一〇生)あり(京城帝國大學文學部)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

君は東京府人小倉敬止の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時川崎第百銀行東京貯藏銀行各取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男豊夫(明四四、五生)三男啓亮(大正二、七生)あり弟三郎(明二六、二生)は分家し妹春子(同三〇、二生)は高知縣土族甲藤通に嫁せり(東京市外寺島町一七八八電區田二五八)

小倉武之助

鮮南銀行(株)取組、慶州電氣、蔚州電氣、安東電氣、統營電氣、蔚山電氣、會寧電氣、大興電氣各(株)社長、大邱製糖(資)代表社員、千葉縣在籍

小倉常吉

東京府多額納稅者、小倉石油、中央開業各(株)社長、大社、大東、東北、山形、青森、岩手、秋田、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、奈良、徳島、香川、高松、愛媛、高知、福岡、佐賀、長門、大分、熊本、鹿兒島、沖縄各(株)取締役、小倉名代表社員、東京府在籍

小倉彦四郎

小倉石油(株)取締役、小倉(名)代表社員、東京府在籍

小倉紋三郎

茨城縣多額納稅者、吳服商、茨城縣在籍

小倉保右衛門

千葉縣多額納稅者、農業、千葉縣在籍

小倉嘉明

正四位勳三等功五級、豫備海軍中將、神奈川縣士族、東京、高橋良治二男、木重道長女

小倉嘉行

君は神奈川縣士族小倉嘉明の長男にして明治十一年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十二年海軍少尉を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十二年海軍少尉

小倉彦六

南洋貿易(株)事務取締役、千葉縣在籍

小倉英季

正三位勳三等功四級、子爵、陸軍少将、大佐、貴族院議員、舊公卿家、東京府在籍

小倉禮三

日本専売煙草(株)事務取締役、日本煙草製造(株)取締役、福井縣士族、福井縣在籍

小倉一雄

從五位勳五等、大阪府書記官、内務省事務官、大阪府在籍

小倉孝三郎

正三位勳一等功五級、豫備海軍大佐、石川縣士族、大阪府在籍

小倉源左衛門

愛知縣在籍

小倉正恒

住友肥料製造所、住友炭礦各(株)取締役、住友電線製造所、住友伸銅管、住友電機製造所、住友鋼管、住友ビルディング、大阪北區、住友別荘ビル、土佐吉野川水力電氣、山形、扶桑海上火災保險各(株)取締役、住友倉庫、九州送電各(株)監査役、大阪府士族、東京府在籍

小倉紙一郎

正四位勳二等功三級、退役海軍中將、東京府士族、安政六、一、一、海軍造兵中將澤之丞、東京府在籍

小倉正恒

住友肥料製造所、住友炭礦各(株)取締役、住友電線製造所、住友伸銅管、住友電機製造所、住友鋼管、住友ビルディング、大阪北區、住友別荘ビル、土佐吉野川水力電氣、山形、扶桑海上火災保險各(株)取締役、住友倉庫、九州送電各(株)監査役、大阪府士族、東京府在籍

小倉源左衛門

愛知縣在籍

小倉孝三郎

正三位勳一等功五級、豫備海軍大佐、石川縣士族、大阪府在籍

小倉源左衛門

愛知縣在籍

小倉正恒

住友肥料製造所、住友炭礦各(株)取締役、住友電線製造所、住友伸銅管、住友電機製造所、住友鋼管、住友ビルディング、大阪北區、住友別荘ビル、土佐吉野川水力電氣、山形、扶桑海上火災保險各(株)取締役、住友倉庫、九州送電各(株)監査役、大阪府士族、東京府在籍

小倉源左衛門

愛知縣在籍

に任じ大正十二年海軍大將に累進す其間第一潜水隊司令...

小栗 三郎

愛知縣多額納税者、共同運輸(株)社長、肥料商、愛知縣在籍...

小栗 四郎

愛知縣在籍、現戸主、安政四、四生、現戸主...

小栗 三郎

愛知縣在籍、現戸主、安政四、四生、現戸主...

小栗 四郎

愛知縣在籍、現戸主、安政四、四生、現戸主...

小栗 三郎

愛知縣在籍、現戸主、安政四、四生、現戸主...

一五、九生)あり(愛知、知多、半田町) 参照 小栗三郎、花井昌三郎の項

小栗 信治

時計製造業、愛知縣在籍、明一五、五生、愛知、佐治三郎...

小栗 兆兵衛

東京府多額納税者、東京府在籍、明二〇、一一生、東京、木下利吉...

小栗 貞

群馬縣多額納税者、上毛精糖(株)代表取締役、酒造業、群馬縣在籍...

小栗 兆兵衛

東京府多額納税者、東京府在籍、明二〇、一一生、東京、木下利吉...

小栗 貞

群馬縣多額納税者、上毛精糖(株)代表取締役、酒造業、群馬縣在籍...

明三三、七生、長男徳七妻、群馬、高麗一郎、明三八、四生

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は群馬縣人小栗八十吉の長男にして明治十二年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 盛太郎

從四位勳四等、福岡縣若松市長、岐阜縣在籍...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

小栗 松三郎

大和汽船(株)取締役、白洋商船(株)監査役、小栗(株)社長、兵庫縣在籍...

小栗 敏太郎

兵庫縣在籍、君は徳島縣人小栗三郎の二男にして明治十年十一月...

進して同院検査官に任ぜらる現時福岡縣若松市長たり (福岡縣若松市) 参照 小栗林太郎の項

小栗 義

小田原屋、酒造業、東京府在籍、明二三、八生、埼玉、長島紫朗弟...

小栗 常次郎

新潟縣多額納税者、酒造業、新潟縣在籍、萬延元、一一生、新潟、能勢惣次郎...

小栗 爲藏

洋行、大阪府在籍、明二九、八生、明三四、九生、長男裕三郎妻、徳...

君は徳島縣土族小栗信太郎の弟にして元治元年二月を以て生れ明治二十五年分家して一家を創立す洋行...

小栗 又兵衛

煙草商、京都府在籍、明一六、九生、京都、小田市兵衛...

小栗 清之助

吉田忠商店、株常務取締役、京都府在籍、元治元、四生、京都、竹村徳兵衛...

小栗 長兵衛

日本橋(株)専務取締役、中央土地(株)監査役、京都府前郵便局長、樂器製造業、京都府在籍...

子(同三九、一一生、東京、田橋以都子)あり弟直吉(同二二、一一生)は山口縣人石津次郎の養子となり同...

小栗 長兵衛

日本橋(株)専務取締役、中央土地(株)監査役、京都府前郵便局長、樂器製造業、京都府在籍...

小栗 清之助

吉田忠商店、株常務取締役、京都府在籍、元治元、四生、京都、竹村徳兵衛...

小栗 又兵衛

煙草商、京都府在籍、明一六、九生、京都、小田市兵衛...

君は青森縣士族小山内健三郎の長男にして明治五年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す現に津輕銀行取締役たり家族は尙五男信五(昭二、八生)孫智子(大三、三三、長男昌一長女同光子(同一五、九生、同一二女)妹とし(明七、一一生)同トミ(同一五、六生)同トク(同一三、四生)従弟次郎(同一六、二生、亡叔父雄五郎二男)あり亡叔父孝九郎妻たま(同一〇、八生、青森、土、長谷川清妹)は其子女を伴ひ分家し長女マツ(同一三、二生)は青森縣人長尾正雄に二女タケ(同一四、〇、六生)は同縣人山中規矩二郎に從妹ふよ(同一二、九、一一生、亡叔父孝九郎長女)は三重縣人河野道八に嫁し四男健四(同四四、五生)は北海道人齋藤リヤウの養子となれり(弘前、元寺町二二電四六五)

小澤 朝藏 沖繩縣多額納稅者、書籍文具商
君は茨城縣人小澤幸次郎の弟にして明治三年二月を以て生れ同四十三年分家して一家を創立す書籍文具商を營み沖繩縣多額納稅者たり家族は尙四男寛(大三、八生)四女寛子(同一五、二生)あり長女榮(明三三、一一生)は青森縣人青山學院教授マスタ、オ、アーツ武藤健に二女光(同三四、一一生)は東京府人商學士錢谷清一郎に嫁し四男實三(同四二、二生)法政大學商科在學(分家せり(那覇、松下町一、三電二〇))

小澤 克己 醸造用器具藥品商
君は山梨縣人小澤重藏の長男にして明治二年七月を以て生れ大正六年家督を相続す醸造用器具藥品商を營む家族は尙二男慶(大一四、一一生)長女公子(昭二、一一生)

小澤 佐太郎 伊勢佐、酒商
君は千葉縣人小澤善重郎の二男にして安政五年三月を以て生れ明治十年分れて一家を創立す伊勢佐と稱し酒商を營む(東京、麻布、新網町二ノ六電青山三三八)

小澤 定雄 從四位、男爵
當家は先代武雄より顯る武雄は舊小倉藩士にして明治四年陸軍少佐に任じ累進して陸軍中將に陞る其間太政官大書記官征討軍團參謀同輔重部長陸軍省總務局長陸軍士官學校長陸軍少輔陸軍參謀本部長參謀本部部長等に歴補す同二十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる同二十三年貴族院議員に勅選せられ故ありて軍職を辭す先是博愛社を設立し後日本赤十字社と改稱し副社長に推さる君は其長男にして明治十六年三月を以て生れ大正十五年家督を相続し同年二月養育仰付けらるる習院に學ぶ明治四十五年より大正十五年迄日本赤十字社に嘱託として勤務せり家族は尙二男秀雄(大一〇、一〇生)三男正雄(同一四、四生)妹綾子(明二五、五一〇生)あり叔母ユウ(嘉永二、九生)は福岡縣人藤正憲先代平八郎に嫁せり(東京、麻布、弁町一七六ノ二三電青山四八)

小澤 三右衛門 滋賀縣多額納稅者、江頭農産銀行
君は滋賀縣人小澤泰次郎の長男にして慶應元年五月を以て生れ明治五年分家して一家を創立し大正十五年隱

孫富士子(同一二、一一生、長男史郎長女)あり弟郎郎(明二一、五生)は分家せり(東京、日本橋、南茅場町二一電茅場町七七)

小澤 久助 所澤銀行(株)頭取、砂糖及肥料商
君は埼玉縣人友野伊左衛門の二男にして明治八年九月を以て生れ先代久助の養子となり同三十五年家督相続と共に舊名千代造を改め製糖及肥料商を營み傍ら所澤銀行頭取たり家族は尙三男賢治(明四二、四生)二女登久子(大三、一一生)五男昭太郎(同七、二生)あり妹しま(明一九、一一生)は同夫滋藏(同一九、一一生、東京、新井左衛門二男)及其子女と共に分家し妹ひさ(同二二、一一生)は神奈川縣人淺岡清三郎次郎に同トミ(同二七、一一生)は東京府人下田富三郎に嫁し長女愛子(同三五、一一生)は同府人中村つねの養子となれり(埼玉、入間、所澤町)

小澤 國治 新潟商工會議所議員、新潟硫磺
君は新潟縣人田代兼次の二男にして明治二十三年一月を以て生れ大正七年小澤七三郎の養子となる現時前記諸會社の重役にして新潟商工會議所議員に擧げらるる家族は尙長女彩子(大一、六生)あり(新潟市上大川前通十二番丁)

小澤 五六 静岡縣多額納稅者、農業
君は岐阜縣人先代三郎兵衛の長男にして明治十二年四月を以て生れ同二十六年家督を相続し襲名して前名元次を改む現時山縣銀行事務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男邦正(大元、一〇生)三男邦典(同四、六生)あり長女舞(明三三、九生)は岐阜縣人白木高次弟藩次に妹コウ(同二〇、九生)は同縣人深尾實之助に嫁し弟三三(同一五、一一生)は同妻ひさ(同一〇、六生)は東京府人加藤宗眼の養子となれり(岐阜、山縣、殿美村)

小澤 七三郎 新潟運送船社社長、新潟興業貯蓄銀行、東洋汽船各(株)取締役
君は新潟縣人先代七三郎の長男にして明治六年八月を以て生れ同四十年家督を相続し前名七太郎を改め襲名して同澤業を營み現に新潟運送船社長にして前記銀行會社の重役たり新澤商業會議所常議員に選ばれる二女八代枝(明三一、一〇生)は新潟縣人笹川加津恵に三女フイ(同三三、一一生)は同縣人小黒宏平に妹モト(同一八、七生)は同縣人齋藤清助に同トミ(同一二、四生)は同縣人中村新吉二男醫學士文學士隆次に嫁し弟幸次郎(同八、一一生)は同妻セツ(同一二、三生)新澤、内藤源吉(二女)及其三女を伴ひ分家せり(新潟市大川前通十二番町)

君は静岡縣人小澤新作の長男にして明治十九年六月を以て生れ大正十四年家督を相続す農業を營み静岡縣多額納稅者たり家族は尙二女勲子(大七、一一生)三女華江(同一二、二生)二男幸夫(同一四、三三)弟夫夫(明二八、五生)同妻たつ(同三八、一一生)静岡、矢部與左衛門三女)妹舞(同三六、三三)弟周夫(同三八、一一生)あり(静岡、小笠、垂木村)

小澤 甲八 静岡縣多額納稅者、天宮銀行(株)
君は静岡縣人小澤甲八の三男にして明治元年六月を以て生れ同二十五年家督を相続す農業を營み傍ら天宮銀行取締役に同縣多額納稅者たり家族は尙孫茂(明四三、一一生)養子徹三(男)同寛大三(一一生)同五男(同仁)同日六(四生)同日出子(同九、三三)同二女(同彰)同一三、一〇生、同九男の外姉さわ(文久元、四生)兄兵治(安政六、一一生)あり妹すゑ(明七、一一生)は静岡縣人池田猪三次に同小ゆき(同一一、四生)は同縣人松田勝に嫁し弟扇太郎(同一四、一〇生)は同妻よし(同二二、五生)静岡、金指清三郎妹)及び其の一子(同二二、五生)静岡、周智、大居村)

小澤 孝三 静岡縣多額納稅者、農業
君は静岡縣人小澤米太郎の弟にして明治十一年七月を以て生れ先代善藏の養子となり同四十年家督を相続す農業を營み静岡縣多額納稅者たり家族は尙三男光明(明四四、七生)三女まさ(大五、九生)四男重明(同八、

小澤 七兵衛 滋賀縣多額納稅者、江頭農産銀行
君は滋賀縣人先代七兵衛の長男にして明治二十四年九月を以て生れ大正十四年家督相続と共に前名寅治郎を改め襲名す農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして現に滋賀縣多額納稅者たり家族は尙三男敏男(大九、一一生)四男慎治郎(同一三、七生)同三(五男)明雄(昭二、一一生)の外妹はな(明四三、一一生)同四(四生)一〇(一一生)あり姉嘉子(同一二、八生)は滋賀縣人岩崎健三に妹つる(同三六、一〇生)は京都府人芝原嘉兵衛に嫁せり(滋賀、野洲、篠原村)

小澤 修造 正五位、醫學博士、大阪醫科大學
君は滋賀縣人小澤宗達の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正十年家督を相続す明治四十年東京帝國大學醫學科大學を卒業し大學院に入り同四十二年同大學助手となり同年大阪府立高等醫學學校教授に任ぜられ大阪獨逸に留學し同六年公立專門學校教授に任ぜられ大阪醫學科大學教授兼同附屬病院院長となり同年醫學博士の學位を受く家族は尙四男將邦(大六、一一生)あり弟雄三(明三四、八生)は同妻ふみ(同三六、一〇生)兵、康、塚口三之助(二女)を伴ひ分家し妹カツ(同一九、四生)は滋賀縣人藤野とく(養子)なり當主たり(大阪、東、今橋四ノ七五電本局三四〇四)

小澤 庄兵衛 東京木村市場(株)取締役、山力、村
君は滋賀縣人小澤宗達の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正十年家督を相続す明治四十年東京帝國大學醫學科大學を卒業し大學院に入り同四十二年同大學助手となり同年大阪府立高等醫學學校教授に任ぜられ大阪獨逸に留學し同六年公立專門學校教授に任ぜられ大阪醫學科大學教授兼同附屬病院院長となり同年醫學博士の學位を受く家族は尙四男將邦(大六、一一生)あり弟雄三(明三四、八生)は同妻ふみ(同三六、一〇生)兵、康、塚口三之助(二女)を伴ひ分家し妹カツ(同一九、四生)は滋賀縣人藤野とく(養子)なり當主たり(大阪、東、今橋四ノ七五電本局三四〇四)

長にして現時同社事務取締役たり家族は尙四女千鶴子(大三、三三)五女富久子(同六、一一)二男輝次(同...

小關金之助

若生電機、大正製油、阿仁川電力各社取締役、七十七銀行東京支店長、山形縣在籍...

小關三平

正五位勳三等、神戸高等商船學校校長、和歌山縣在籍...

小關光尚

從六位、醫學博士、大阪府立中宮病院院長、大阪府在籍...

君は大阪府人小關尙一の三男にして明治十九年十月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十三年大阪醫科...

小曾根喜一郎

兵庫縣多額納稅者、第一ラミー紡績(株)代表取締役、神戸商業銀行、日本毛織、長崎電氣軌道、九州土地、神戸生絲、阪神電氣鐵道、京都火災保險、大日本製鐵、神戶海上運送火災保險、各社監査役、兵庫縣在籍...

小曾根喜七

兵庫縣多額納稅者、兵庫縣在籍、嘉永六、四生、兵庫、辰巳忠兵衛姉、明一四、二生、大阪、堀井榮一、明二九、六生、關西學院高等學部、明三三、四生、長男義夫、大阪、竹田忠藏三女、明四四、四生、長男義夫、大阪、當家は先代喜七兵庫縣の藩封家小曾根家より分れて一家を創立したるに始まる君は其長男にして明治元年七月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名福松を改む...

小曾根貞松

神戸商工會議所常議員、神戸電機製作所、阪神鐵工所各社長、神戸五所、ヘルベツト石炭、神戶練染工業、ホルエンタル、山陽皮革、朝日海上火災保險、伊丹製紙所、濟生信託、神戶汽船、阪神國道電氣鐵道各社監査役、本小曾根(株)代表取締役、兵庫縣在籍...

小田榮作

春海商店(株)常務取締役、鼓島縣土族、嘉永四、七生、現戶主、君は鼓島縣人小田慧一の二男にして明治二十二年八月を以て生れ現時春海商店常務取締役たり家族は尙長女治子(大七、四生)兄義則(明一六、一〇生)同妻君野(同二七、八生、大阪、福井金藏長女)及其五男二女弟純吉(同二五、五生)同妻カズ(同三五、七生)奈良(同三〇、二〇生)二女昌子(同四、二生)あり(高松、南島井町)

小田榮次

高松市會議員、讃岐製紙、高松電氣軌道各社(株)取締役、高松百十四銀行(株)監査役、香川新聞社長、香川縣土族、嘉永五、九生、香川、土、窪田平、明四、三三、香川、鈴木吉太郎、妻カツ、明一四、三三、香川、鈴木吉太郎、男友吉、明三五、一二生、男辰雄、明四〇、七生、君は香川縣土族小田和周の二男にして明治七年九月を以て生れ大正八年家督を相続す現時前記銀行會社の重役にして推されて高松市會議員たり家族は尙三男繁樹(大二、一〇生)二女昌子(同四、二生)あり(高松、南島井町)

小田改造

獨逸農業藥品販賣、若松土地建物各社代表取締役、日本ドローマイ(株)取締役、福岡縣在籍、明二三、一三、福岡、深田鎮妹、妻トヲ、明二三、一三、福岡、深田鎮妹、男虎文、大元、一二生、君は福岡縣人小田勤七の二男にして明治二十年十二月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現に獨逸農業藥品販賣會社代表取締役たる前記各會社の重役たり家族は尙二男朝見(大三、九生)長女八重子(同一〇、)

小田久太郎

三越吳服店(株)専務取締役、東京府土族、明一、一、東京、土、矢野義、明三五、二生、慶應義塾大學經濟學部出身、明三七、七生、慶應義塾大學經濟學部出身、喜美子、明四四、一、又葉高等女學校在學、當家は二百年以前より舊對馬藩の臣にして代々馬廻役を勤めたる家柄なり君は先代忠三郎の長男にして慶應二年十月を以て生れ明治九年家督を相続す初め長崎師範學校を出で小學校教員たりしが後上京して慶應義塾に入り同二十九年特科を卒業す爾來朝日新聞記者三井新紡績所員日本絹糸紡績會社社員を経て三越吳服店に入り後退店して獨力神戸に食料品商を営みしが同四十五年再び三越吳服店に入り次で大阪支店長に進み大正九年抜擢せられて常務取締役に就任更に専務取締役になる古書蒐集を趣味とす家族は尙二女智子(大五、一〇生)三女悦子(同八、一〇生)あり(東京市外中野町中野一五二〇電話四一四八一) 參照 矢野義子(中野平八)の項

小田光次

淺野物産(株)副支配人、東京府在籍、明二九、七生、京都帝國大學教授、妻良子、尾崎良純妹、君は兵庫縣人小田五治の弟にして明治十八年九月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す幼にして渡米しワシントン大學卒業後歸朝し淺野物産會社創立に參與す現に同社副支配人たり家族は尙長女和子(大七、一〇生)あり(東京、牛込、戸山町三五電牛込三三九五) 參照 尾崎良純の項

小田省吾

從四位勳三等、京城帝國大學教授、法文學部勤務、三重縣在籍、嘉永二、一二生、妻健作、嘉永二、一二生、嘉永四、三三、三重、土、高津嘉、嘉永四、三三、三重、土、高津嘉、明一三、二生、兵庫、土、小笠原、妻いと、續次郎長女

小田末治郎

正五位勳四等、海軍造船中佐、大阪高等工業學校教授、佐賀縣土族、明二二、九生、長崎、貞松太義子、明四一、五生、大阪府立堺高等女學校出身、明三五、五生、實踐女學校出身、明四一、五生、大阪府立堺高等女學校出身、君は佐賀縣土族遊谷利見の弟にして明治六年四月を以て生れ後先代末三郎の養子となり家督を相続す同三十二年東京帝國大學工科大学造船科を卒業し海軍造船科三年東京帝國大學工科大学造船科中監に任じ技士に任じ爾來進んで大正二年海軍造船中監に任じ同四年豫備役となる其間佐世保海軍工廠造船部員艦政本部出仕造船監督官造船工務所教官兼橫須賀海軍工廠造船部員海軍經理學校教官等に歴補す後日本鋼管會社に入りし大正九年大阪高等工業學校教授に任じ現に其職に在り兼に海軍造船監督として米國に差遣されしことあり家族は尙二男通吾(大四、二生)三男弘(同六、二生)四男彦四郎(同七、四生)あり(大阪、住吉、阿部野町四四〇)

小田清兵衛

宮崎縣多額納稅者、運送業、宮崎縣在籍、文久元、一〇生、宮崎、小田理平、妻カメ、四女、明二三、九生、大阪、廣岡巴孫、君は宮崎縣人先代清兵衛の二男にして明治四年十月を以て生れ同二十五年家督を相続し前名尙治郎を改む運送業を営み現に宮崎縣多額納稅者たり家族は尙長女晴

子(大三、四生)二女(同五、三生)あり(宮崎、東白杵、延岡町)

小田仙太郎

大阪市會議員、大阪商工會議所議... 養母 つぎ、安政元、一、兵庫、泉平叔母...

小田常五郎

愛媛縣多額納稅者、愛媛縣在籍... 妻 カメ、明九、一、一、愛媛、福井伊五郎...

小田伴輔

山口縣多額納稅者、山口縣在籍... 妻 カメ、明六、一、一、山口、土、坂本暢姉...

小田良治

極東煉乳、北海道硫黄各(株)社長、臺灣拓殖製茶(株)取締役... 妻 いね、明九、六、六、東京、土、足立鐵...

小田林

從五位勳六等、都市計畫地方委員、會技師、都市計畫大阪地方委員會... 妻 寅、明二、六、六、高知、小田房次郎...

小田川達朗

正五位、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務、東京府士族... 妻 全之、文久元、二、一、現、現、現、現...

君は山口縣士族小田超祐の長男にして文久元年十二月... 妻 萬里、明三、五、九、九、長男光伴妻、山口、吉田眞一、二女...

小田政次郎

廣島縣多額納稅者、吳服商、廣島縣在籍... 妻 シノ、慶應元、五、五、廣島、山中權八郎...

小田政太郎

君は廣島縣人小田喜助の長男にして文久三年三月を以て... 妻 豊太郎、明一、七、一、一、長男豊太郎妻、廣島、三村藤吉、二女...

小田川全之

工學博士、古河銀行(株)監査役、東京府士族... 妻 達朗、明三、三、三、三、法政大學出身...

小田切磐太郎

從四位勳三等、高井倉庫(株)社長、信濃電氣(株)副社長、梓川電力... 妻 もと、明一、五、一、一、長男、宮城龜太郎...

鳥取縣多額納稅者、鳥取貯蓄銀行、大正鳥取銀行各(株)常務取締役... 妻 つね、弘化二、七、七、鳥取、小田宗左衛門...

小田政美

君は鳥取縣人鹽半四郎の二男にして慶應二年十一月を以て... 妻 やね、慶應三、九、九、養父邦勝長女...

小田彌三郎

長尾屋商店(株)専務取締役、長尾屋商店在籍... 妻 ふく、安政三、八、八、靜岡、鈴木三郎平妹...

小田利三郎

君は靜岡縣人小田啓治郎の長男にして明治二年六月を以て... 妻 ひさ、安政六、五、五、大阪、大崎新吉三女...

小田切政純

正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、東京府在籍... 妻 しげ、明一、一、一、一、東京、薄井龍之養子...

小田切萬壽之助

從五位勳二等、廣正正金銀行(株)取締役、東京府士族... 妻 ふみ、天保一〇、三、三、山形、矢尾板道...

武昌 明三三、五生、法學士
當家は舊米澤藩の世臣にして代々儒を以て仕へし家柄
なり君は先代盛徳の長男にして明治元年一月を以て生

小田切良太郎

從四位勳三等、第三高等學校教授
栃木縣在籍
妻 安政三、二生、栃木、白石幸藏妹

小田桐忠治

樟大汽船(株)常務取締役、日本探
炭業(株)取締役、東京府在籍
君は北海道小田桐太郎の長男にして明治十五年七月

小田倉啓

日本郵船(株)文書課長
茨城縣土族
妻 松山高等女學校出身
君は茨城縣土族手塚進の二男にして明治十一年七月

小田島五郎

岩手縣多額納稅者、岩手銀行(株)
取締役、農業者、岩手縣土族
妻 安政五、三生、岩手、國分吉長女

小田部胤康

正五位勳四等、日本放送協會關東
支部常務理事、茨城縣在籍
妻 助左衛門 嘉永二、八生、現戶主

小貫慶治

東亞興業(株)取締役兼支配人
秋田縣土族
妻 秋田 嘉永五、八生、秋田、土、石井彌

小野鑑正

從四位勳三等、工學博士、九州帝
國大學教授兼製鐵所技師、工學部
勤務、東京府在籍
妻 正 安政五、一〇生、富山、畑伯春長女

小野市兵衛

藥種商
大阪府在籍
妻 大正九、八生、滋賀、村田虎次郎妹

基を築く當主助左衛門其後を承けて一意家業に當り家
運揚る君は其の長男にして明治十三年三月を以て生る
同四十年東京帝國大學法政科を卒業し文官高

小田村有芳

磯村(名)代表社員
東京府土族
妻 安政九、八生

小津清左衛門

三重縣多額納稅者、武林起業(株)
社長、三重縣在籍
妻 明三三、九生、奈良、栗山藤作四女

小野英資

横濱正金銀行(株)頭取兼検査課長
山口縣土族
妻 明一五、二生、山口、土野村一郎妹

小野榮左衛門

長野縣多額納稅者、小諸銀行(株)
頭取、中信銀行、千代田鐵工、小
諸倉庫各(株)取締役、田澤炭礦、上

小野 俊三 橋本製糖(株)代表取締役、小野製糖(株)取締役、小野商店、小野製糖各(株)取締役、小野商店、小野製糖各(株)取締役、小野商店、小野製糖各(株)取締役...

小野 駿一 小野汽船(株)取締役、大分縣在籍。君は大分縣人小野吉彦の長男にして明治十五年七月を以て生れ同四十二年家を相續す同三十六年早稲田大學...

小野 晋平 福島縣多額納税者、田村實業銀行、磐城海岸軌道、磐城水産工業、本松電氣、小名濱商店、平製氷、城銀行(株)監査役、酒造業、磐城縣在籍...

小野 慎 山梨縣在籍。君は山梨縣人小野素四郎の長男にして先代見聞の孫なり明治十年五月を以て生れ同三十六年家を相續す大正九年以來は半と稱しスツボン食料品商を営む家族...

小野 澄之助 正五位勳六等、氣象臺技師、中央氣象臺勤務、神奈川縣在籍。君は神奈川縣人小野金太郎の四男にして明治十九年七月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治四十三年...

小野 清七 酒造業、兵庫縣在籍。君は兵庫縣多額納税者の出身にして先代清七始め御影町に出で酒造業を創出し先代清七の長男にして...

小野 善吉 岡山縣多額納税者、小野善商店、岡山縣在籍。君は岡山縣人小野善吉の長男にして明治元年四月を以て生れ先代善吉の養子となり大正十二年家を相續す...

小野 惣助 日東酒造(株)社長、五城銀行、宮城縣在籍。君は宮城縣人小野惣助の長男にして明治三年八月を以て生れ明治十五年家を相續す現時前記各銀行會社の重役たり...

小野 惣兵衛 山梨製糖(株)取締役、山梨縣在籍。君は山梨縣人小野惣兵衛の二男にして明治八年十月を以て生れ同四十二年家を相續す現時山梨製糖會社取締役たり...

小野 隆樹 福岡縣多額納税者、三池銀行、三池貯蓄銀行各(株)取締役、肥後縣在籍。君は福岡縣人小野隆樹の長男にして安政五年四月を以て生れ明治十二年家を相續す現時に三池銀行三池貯蓄銀行各頭取に就任し前記銀行會社の重役を兼ね福岡縣多額納税者たり...

小野 尊光 正三位勳四等、男爵、神戶在籍。君は神戶縣人小野志津馬に各養子となれり(福岡、三池、三池町)。參照 沖健雄、十時允の項。

小野 禎一郎 再製糖(株)取締役社長、帝國糖(株)取締役、京都府在籍。君は京都府人小野禎一郎の長男にして明治二十年十月を以て生れ明治二十年家を相續す現時前記帝國糖(株)取締役たり...

君は京都府人小野治郎右衛門の二男にして慶應三年十一月を以て生れ明治三十八年分れて一家を創立す現時再製糖會社取締役社長にして帝國糖會社取締役を兼ねる家は尙孫一夫(六八、一一生、長男嘉七長男)同正夫(同一〇、七生、同二男)あり(兵庫、武庫、西灘村岩屋三七一、一電基合四三三)

君は左大臣橋詰の後裔に當り正五位勳四等小野光景の三男にして明治二十三年一月を以て生れ先づ光景は夙に横濱に居を定め最初戸長となり明治十二年横濱正金銀行の創立發起人となり尋いで頭取に擧げられたる同十三年横濱商業會議所を設立し會頭たること十餘年其後横濱商業學校横濱貿易新聞横濱火災横濱生命保險横濱鐵道等百餘の創設に盡力する處あり横濱貿易商同業組合長たること二十餘年貴族院議員に當選すること引續き二回に及べり君は先代寬野の後を以て大正八年家督を相續す同四年慶應義塾大學理財科卒業後米國及英領加察院に渡航して商工業を視察する處あり歸朝後父の遺業を承け生絲貿易業を經營し現時前記諸會社の重役にして横濱商會常務委員に推挙せらるる大正九年功勞に依り紺綬褒章を賜ふ尙ボリウイア共和国名譽總領事グアテマラ共和国名譽領事たり家族は前掲

小野哲郎

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野傳治郎

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野虎助

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野正之助

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野萬吉

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野茂右衛門

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野好太郎

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野義夫

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野彌壽太

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野信夫

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野好

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野美太郎

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野義

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小野

君は京都府人小野傳七の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現に高島屋飯田會社の重役たり長女美重(三三、八生)は山口縣人網谷寛一弟後平に嫁せり(東京、芝、高輪南町六六電高輪四五九)

小畑 勇吉

帝國製糖(株)取締役主事、新竹製糖所長、臺灣合同電氣(株)監査役、臺灣總督府評議會員、福井縣在籍。妻 弘三、七生、福井、士、森田傳。男 忠 明四三、一〇生。

小畑 睿治

利原鐵山、樟太林業各(株)取締役、福井縣在籍。妻 明三、四生、岩手、士、大菅生。男 一夫 明四二、二生。

小幡 龜壽

正六位勳四等、醫學博士、大阪市民病院長、大阪府在籍。妻 明三、七生、京都、山田新助三女。男 明四〇、一一生。

小幡 茂

五位勳四等、地方技師、京都府山形縣在籍。妻 山形、石原喜六妹。男 正五位勳四等、地方技師、京都府山形縣在籍。妻 山形、石原喜六妹。

小畑 文

明四、二生、山形、高野善太郎。妻 明三、一〇生。男 明三、一〇生。女 明三、一〇生。

小幡 鐵介

內閣通運(株)常務取締役、大北火災海上運送保險(株)後藤組各(株)監査役、東京府在籍。妻 明二、一一生、山梨、淺川實義妹。男 明二、一一生。

小幡 豐治

正四位勳三等、愛知縣知事、千葉縣在籍。妻 明一、一一生、栃木、茂呂德三。男 明一、一一生。

小幡 美利

大分縣多額納稅者、取給銀行(株)取締役、大分縣在籍。妻 文久三、八生、大分、小幡良平長女。男 明二、〇四生、養母サイ長女。女 明四、二生。

小濱 淨

從五位勳五等、社會局書記官、社會福利課長、東京府在籍。妻 直子 明三、一〇生、鳥根、天野千代丸長女。男 純 大五、一一生。

小濱 常次郎

鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島縣在籍。妻 明三、一一生、宮崎、藤崎計佐。男 明三、一一生。

小原 有鄰

大阪三品取引所取引員、大阪府在籍。妻 明三、一一生、京都、小野橋太。男 明三、一一生。

小原 清吉

愛知縣多額納稅者、家主、愛知縣在籍。妻 明三、一一生、愛知、伊藤甚兵衛長女。男 明三、一一生。

小原 英一

從五位勳五等、鐵道局參事、札幌鐵道局運輸課長、千葉縣在籍。妻 健夫 慶應二、〇生、現戶主。男 明二、二生、千葉、石井太一長女。女 明三、一〇生、千葉、養父健夫長女。

小原 喜三郎

三井銀行(株)調査課長、金融研究會理事、石川縣在籍。妻 明二、七生、東京、土、萩原芳。男 明二、七生。

小原 吉五郎

東京府在籍。妻 明一、七生、愛知、服部友三郎妹。男 明一、七生、愛知、服部友三郎妹。女 明一、七生、愛知、服部友三郎妹。

小原 清市

北遠銀行(株)取締役、静岡縣在籍。妻 明二、七生、一〇生、愛知、永井福太。男 明二、七生、一〇生、愛知、永井福太。女 明二、七生、一〇生、愛知、永井福太。

小畑 勇吉

帝國製糖(株)取締役主事、新竹製糖所長、臺灣合同電氣(株)監査役、臺灣總督府評議會員、福井縣在籍。妻 弘三、七生、福井、士、森田傳。男 忠 明四三、一〇生。

小畑 睿治

利原鐵山、樟太林業各(株)取締役、福井縣在籍。妻 明三、四生、岩手、士、大菅生。男 一夫 明四二、二生。

小幡 龜壽

正六位勳四等、醫學博士、大阪市民病院長、大阪府在籍。妻 明三、七生、京都、山田新助三女。男 明四〇、一一生。

小幡 茂

五位勳四等、地方技師、京都府山形縣在籍。妻 山形、石原喜六妹。男 正五位勳四等、地方技師、京都府山形縣在籍。妻 山形、石原喜六妹。

小畑 文

明四、二生、山形、高野善太郎。妻 明三、一〇生。男 明三、一〇生。女 明三、一〇生。

小幡 鐵介

內閣通運(株)常務取締役、大北火災海上運送保險(株)後藤組各(株)監査役、東京府在籍。妻 明二、一一生、山梨、淺川實義妹。男 明二、一一生。

小幡 豐治

正四位勳三等、愛知縣知事、千葉縣在籍。妻 明一、一一生、栃木、茂呂德三。男 明一、一一生。

小幡 美利

大分縣多額納稅者、取給銀行(株)取締役、大分縣在籍。妻 文久三、八生、大分、小幡良平長女。男 明二、〇四生、養母サイ長女。女 明四、二生。

小濱 淨

從五位勳五等、社會局書記官、社會福利課長、東京府在籍。妻 直子 明三、一〇生、鳥根、天野千代丸長女。男 純 大五、一一生。

小濱 常次郎

鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島縣在籍。妻 明三、一一生、宮崎、藤崎計佐。男 明三、一一生。

小原 有鄰

大阪三品取引所取引員、大阪府在籍。妻 明三、一一生、京都、小野橋太。男 明三、一一生。

小原 清吉

愛知縣多額納稅者、家主、愛知縣在籍。妻 明三、一一生、愛知、伊藤甚兵衛長女。男 明三、一一生。

小原 英一

從五位勳五等、鐵道局參事、札幌鐵道局運輸課長、千葉縣在籍。妻 健夫 慶應二、〇生、現戶主。男 明二、二生、千葉、石井太一長女。女 明三、一〇生、千葉、養父健夫長女。

小原 喜三郎

三井銀行(株)調査課長、金融研究會理事、石川縣在籍。妻 明二、七生、東京、土、萩原芳。男 明二、七生。

小原 吉五郎

東京府在籍。妻 明一、七生、愛知、服部友三郎妹。男 明一、七生、愛知、服部友三郎妹。女 明一、七生、愛知、服部友三郎妹。

小原 清市

北遠銀行(株)取締役、静岡縣在籍。妻 明二、七生、一〇生、愛知、永井福太。男 明二、七生、一〇生、愛知、永井福太。女 明二、七生、一〇生、愛知、永井福太。

正七長女)と共に其の一女を伴ひて弟陽太郎妻すゞと...

小原 駮吉 從三位勳一等、男爵、貴族院議員...

小原 謙太郎 明三三、一一生、從五位...

小原 善次郎 岩手縣多額納稅者...

小原 虎造 鳥根縣多額納稅者、九十倉庫(株)...

小原 直 從四位勳三等、司法次官...

小原 悅太郎 名古屋銀行、兼務取締役兼本店...

小尾 勘三郎 山梨縣多額納稅者、小淵銀行(株)...

小尾 範治 從五位、文部省官能文部事務...

小原 保固 仙臺日新新聞社長...

小原 次郎 大毎代理部(株)取締役社長、小原...

小原 政吉 大正製糖(株)取締役、染織商...

以て生れ明治八年家督を相続す家商にして岩手縣多額...

小原 多助 岩手縣多額納稅者、花巻銀行、東...

小原 和 明三三、一一生、岩手、士、小野...

小原 久美 明三三、一一生、長男憲妻、鳥根...

小原 久美 明三三、一一生、長男憲妻、鳥根...

小原 直 從四位勳三等、司法次官...

小尾 悅太郎 名古屋銀行、兼務取締役兼本店...

小尾 勘三郎 山梨縣多額納稅者、小淵銀行(株)...

小尾 範治 從五位、文部省官能文部事務...

小原 保固 仙臺日新新聞社長...

小原 次郎 大毎代理部(株)取締役社長、小原...

小原 政吉 大正製糖(株)取締役、染織商...

君は新潟縣人田中敬治郎の二男にして平澤越郎の兄な...

小原 牛藏 農業 東京府在籍...

小原 秀太郎 鐵工業 大阪府在籍...

小原 健彦 大五、五生...

小船井 敬吉 從五位勳六等、選信局長、名古屋...

小保方 祐藏 安田銀行(株)龜島町支店長...

君は山梨縣人小尾七の長男にして明治十八年十二月...

君は新潟縣人小尾理吉の二男にして明治二十年四月...

君は山梨縣人小尾七の長男にして明治十八年十二月...

君は新潟縣人小尾理吉の二男にして明治二十年四月...

君は山梨縣人小尾七の長男にして明治十八年十二月...

君は新潟縣人小尾理吉の二男にして明治二十年四月...

尾川原源三郎 古銅商 大阪府在籍
 母 ヒサ 慶應二、三生、大阪、田村喜兵衛
 妻 小松 明二四、八生、兵庫、時水佐太郎
 君は大阪府人尾川原重太郎の長男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十三年家督を相続す古銅商を営む家族は尙養子得(大四、二生、大阪、吉村吉造妹)を有す妹ウタ(明二四、九生)は大阪府人吉村吉兵衛に嫁せり(大阪、西、新町通三ノ七電報新町七四二)

尾崎 慶吉 高知縣多額納税者、農業 高知縣在籍
 妻 武雄 明一、二生、高知、山本勇左衛門長女
 男 信 明三〇、七生、長男徳信妻、高知、瑞子 明三〇、七生、長男徳信妻、高知、富永了海長女
 男 徳 明三四、三生
 男 秋 明三四、三生
 男 明 明三四、一〇生、二男徳秋妻、高知、光内金次三女
 男 好子 明三六、六生
 女 好子 明四〇、九生

尾崎伊兵衛 静岡縣多額納税者、静岡商工會議所會頭、日本製糖、星茶製造、山梨縣在籍
 男 元次郎 明三、九生、現戸主
 尾崎家は古くより駿州静岡に在り代々製茶業を営み土地の名望家たり君は先代助夫の長男にして弘化四年八月を以て生れ後家督を相続し明治十六年退隠す祖業を繼承する傍ら前記各會社の重役を兼ね現に縣下の多額納税者にして推されて静岡商工會議所會頭たり三男辰次郎(明一三、八生)は静岡縣人尾崎寅七の死跡を相続し長女は(同一六、一〇生)は同夫彦五郎(同一四、一〇生、静岡、北村五郎兵衛三男)と共に同縣人辻次左衛門の家督を繼承す六男兵衛(同一二、七生)は同妻や(同一三、二生、静岡、安達俊助長女)と共に分家し三女ウメ(同一二、七、一〇生)は静岡縣人長阪彦衛門長男省吾に四女ゆき(同一三、七生)は同縣人山城鎮和に嫁せり(静岡市水落町三丁目)
 參照 尾崎元次郎、北村五郎兵衛、長倉信一、野崎彦左衛門の項

尾崎 三吉 接川紡績、伊勢織物各(株)代表取締役、三重縣在籍
 妻 リヤウ 明長女、一〇生、愛知、三浦伊左衛門長女
 男 浩介 明二四、八生
 男 明 明二八、一〇生、長男浩介妻、愛知、内藤勝次郎三女
 女 ゆき 知、内藤勝次郎三女

尾崎 邦藏 岡山縣多額納税者、尾崎商店(株)社長、味吉屋土地、宇野港土地各(株)取締役、織物商、岡山縣在籍
 妻 マチ 明一九、六生、廣島、酒井作治郎妹
 男 芳郎 大二、四生
 君は岡山縣人先代邦藏の二男にして明治十七年三月を以て生れ同二十八年家督を相続し前名眞壽太を改む織物商を営み傍ら尾崎商店社長の外前記會社の重役にして岡山縣多額納税者たり家族は尙二女雅子(大八、二生)二男芳次郎(同一〇、四生)の外姉婿(慶應元、七生)同夫雄一(文久三、一〇生、岡山、高田茂七長男)及其子女並に孫あり甥慶明三〇、五生)は同妻光(同一三、一五生、大阪、岡田萬太郎長女)及其一子を伴ひ分家せり(岡山、兒島、琴浦町)
 參照 尾佐上信一の項

尾崎 治平 大阪砂糖取引所取引員、砂糖商 大阪府在籍
 妻 シツエ 明二五、二生、香川、中村幸松長女
 男 治 大二、四生

尾崎 金平 尾崎織物(株)取締役 岡山縣在籍
 妻 壽 慶應二、六生、岡山、岡野徳太郎
 男 與志 明二三、一〇生、岡山、潮上文平妹
 男 太郎 大九、五生
 君は岡山縣人先代金平の長男にして明治二十二年六月を以て生れ大正十二年家督を相続し前名勘一を改む現時尾崎織物會社取締役たり家族は尙二女美代(大一二、七生)二男金二(同一四、一〇生)三男重三(昭二、三三)妹貞子(明四一、一〇生)あり弟平三郎(明二七、二二生)は同妻光(同一三、一〇生、岡山、高祖吉太郎二女)及其二女を伴ひ分家し妹喜與(同一五、一〇生)は岡山縣人尾崎峰三郎長男節三に嫁せり(岡山、兒島、東牟婁、新宮町)
 參照 西川義方の項

尾崎 清太郎 大阪府、吳服商 大阪府在籍
 妻 ミキ 明二一、六生、京都、村上藤三郎妹
 男 良一 大一、三三
 女 シゲ 明四五、四生
 君は京都府人尾崎清左衛門の五男にして明治十八年二月を以て生れ同二十七年家督を相続す屋敷を大阪屋と稱し吳服商を営む家族は尙二女エイ(大三、三三)三女ヨシ(同八、三三)あり姉エ(明一一、四生)は京都府人増井正治に嫁せり(京都、上京、今出川通寺町東入大宮町一電上九九六)
 參照 尾下郷寅太郎の項

尾崎 五兵衛 資産家 愛知縣在籍
 妻 むめ 明二七、二生、愛知、佐次晃洋妹
 男 松陽 大四、四生
 女 歌子 明四〇、一〇生
 君は愛知縣人尾崎茂助の二男にして明治十一年三月を以て生れ同二十八年先代五兵衛の養子となり同三十九年家督を相続し前名清三郎を改む雜貨商を営みしが現時閉居し彩管に親しむ資産家たり(名古屋、中、西瓦町一九)

尾崎 孝三郎 突栗銀行(株)取締役 兵庫縣在籍
 父 貞太郎 嘉永五、六生
 妻 ウノ 明一四、三生、兵庫、阿曾達治妹
 男 福男 大三、四生
 君は兵庫縣人尾崎貞太郎の長男にして明治六年四月を以て生れ大正九年家督を相続す現時突栗銀行取締役たり

尾崎 生三 第一合同銀行(株)常務取締役 岡山縣在籍
 妻 兔女 明一二、一〇生、岡山、井上信藏
 男 尙文 明三七、五生
 君は岡山縣人高戸榮三郎の弟にして明治二年五月を以て生れ後先代久賀の養子となり同二十三年家督を相続す現時第一合同銀行常務取締役たり家族は尙三男英雄(明四四、五生)あり長女鶴子(同三二、一〇生)は廣島縣人崎崎仲兵衛弟藏に養母久賀(弘化元、六生)は岡山縣人井上亮三に嫁し二男武(明四一、六生)は其の養子となり(岡山市山下町七)

尾崎 泉之助 突栗銀行(株)専務取締役 兵庫縣在籍
 妻 しげ 慶應三、八生、養父清左衛門長女
 男 英夫 明二六、一〇生
 女 こつみ 明二六、九生、長男英夫妻、兵庫、井關定治郎長女
 君は兵庫縣人上杉孫助の二男にして明治元年三月を以て生れ先代清左衛門の養子となり同二十七年家督を相続す現時突栗銀行専務取締役たり家族は尙孫正一(大四、七生、長男英夫長男)同絹江(同七、一〇生、同長女)同眞一(同一一、六生、同二男)同勇一(同一四、六生、同三男)あり養父清左衛門(弘化四、一〇生)は養母みな(安政二、六生、兵庫、中島太右衛門妹)及び其子女を伴ひ分家し三男龍(明三三、二生)も亦同妻かく(同三八、五生、兵庫、井關定治郎三女)を伴ひ分家し長女ひで(同二〇、一〇生)は兵庫縣人松井和三郎長男和平治に養子て、(同一〇、六生、兵庫、大坪常吉妹)は同縣人推川龜太郎に同しゅう(同二八、七生、兵庫、溝口藤吉二女)は同縣人稲田良次に養妹かめ(同八、八生)は同縣人庄助藏長男藤太郎に嫁し二男發(同三一、九生)は同縣人矢内美登利の家籍に入れり(兵庫、突栗、菅野村)

尾崎 忠孝 正五位、男爵 東京府華族
 母 玉 明八、二生、大阪、松本和吉二女

妻 隆野 明三四、七生、徳島、西野哲太郎姉
夫 忠 久 大五一、一〇生
當家は先々代忠治より家名を揚ぐ忠治は舊高知藩士にして奥宮體齋の門に學び明治三年刑部省に出仕爾來判事となり大審院長に累進し後樞密顧問官に任じ同三十三年勲功を以て華族に列し男爵を授けらる長男藤太郎其後を襲ぎ東京帝國大學法科大學に學び貴族院議員に列す君實は尾崎郡太郎の長男にして明治三十一年五月を以て生れ大正六年伯爵父藤太郎の養子となり家督を相續し發爵仰付けらる學習院を経て同十三年東京帝國大學經濟學部を卒業し兼て日本晝夜銀行に勤務す家族は尙長女英子(大一一、二二生)あり(東京市外大崎町上大崎四谷二二三)

尾崎忠太郎 日米石油(株)取締役
東京府在籍
父 忠 久 大五一、一〇生
母 隆野 明三四、七生、徳島、西野哲太郎姉
妻 シズ 左衛門 三三九、一二生、神奈川、宮井清男 作太郎 三三九、一二生

尾崎 積 鳥取縣多額納税者、實業銀行(株)取締役、農業、鳥取縣在籍
父 弘三、一〇生、鳥取、尾崎李三
母 長女 弘三、一〇生、鳥取、尾崎李三
妻 さよ 四女、三三九、一二生、鳥取、遠藤善九郎
養子 益三 明二八、七生、長女やえ夫、兵庫、宮藤崇一、早稻田大學出身
女 やえ 明三、四生、養子益三妻、日本女子大學校出身

尾崎 昌盛 從五位、長温電氣鐵道、利根運河各(株)顧問、尾崎竹波工務所東京府在籍
君は故正二位勳一等男爵尾崎三良の四男にして明治十七年十月を以て生れ大正十五年兄男爵尾崎海方より分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し内務省に入内務技師として十余年間奉職す大正十一年官を辭し直に尾崎工務所を營み鐵道水力電氣其他土木建築一般の設計及工務に従事す後工學士竹波喜久次を迎へ尾崎竹波工務所と改稱し大に業務を擴張せり家族は長女長子(大九、三三)あり(東京、麻布、龍土町七〇電膏山六七五)

尾崎 昌盛 從五位、長温電氣鐵道、利根運河各(株)顧問、尾崎竹波工務所東京府在籍
父 伊兵衛 弘化四、八生
妻 徳子 明九、一一生、静岡、野崎彦左衛門二女
男 孝一 明三一、四生、慶應義塾大學法學部出身
女 子 明三八、一一生、長男孝一妻、宮内大臣一木喜徳郎三女、跡見女學校出身

尾崎元次郎 正七位勳四等、貴族院議員、静岡縣多額納税者、静岡貯蓄銀行(株)頭取、富士製茶(株)社長、静岡銀行(株)三十五銀行各(株)取締役、静岡電氣鐵道(株)監査役、地方森林會議員、林業、静岡縣在籍
父 伊兵衛 弘化四、八生
妻 徳子 明九、一一生、静岡、野崎彦左衛門二女
男 孝一 明三一、四生、慶應義塾大學法學部出身
女 子 明三八、一一生、長男孝一妻、宮内大臣一木喜徳郎三女、跡見女學校出身

尾崎 行雄 正三位勳一等、衆議院議員(三重縣選出)、三重縣士族
父 正三位勳一等、衆議院議員(三重縣選出)、三重縣士族
妻 三三、一二生、男爵尾崎海盛姉

尾崎直市 伊那合同銀行(株)取締役頭取、和歌山縣在籍
父 藤右衛門 嘉永六、七生
母 藤 逸 明四九、三三、養父藤右衛門二女
妻 藤 逸 明四九、三三、養父藤右衛門二女
君は奈良縣人小池貞次郎の弟にして明治十六年十一月を以て生れ同四十年神戶高等商業學校を卒業して尾崎藤右衛門の養子となり爾來住友家に職を奉ずること十年大正十三年家督を相續す現時株式會社伊那合同銀行頭取たり姉芳子(明三三、三三)は奈良縣人窪田勝文に嫁せり(和歌山、伊都、岡田村)

尾崎 洵盛 正五位勳五等、男爵
東京府在籍
父 正五位勳五等、男爵
妻 多嘉子 明二三、七生、男爵千家尊統伯爵女
女 龍子 明四三、四生
女 華子 明四三、四生

尾崎 右衛門 福井縣多額納税者
父 三三、一二生、長男孝一長女(同泰子(昭二、三三)生、同長女きよ(同三三、八生)は貴族院議員岡田良平弟文平に嫁し二男忠次(同三三)、五生)は分家せり(静岡市安西町三ノ六〇)
参照 一木喜徳郎、尾崎伊兵衛、岡田良平、野崎彦左衛門、淡田伯耆長谷川猪三郎、杉村七太郎、高橋練、浜野海文、平次村、越伊七の項

尾崎 勇次郎 正四位勳三等、愛媛縣知事
兵庫縣在籍
父 正四位勳三等、愛媛縣知事
妻 紀一郎 春長五、四生、山形、土、宮地善七長女
男 健 明三六、九生
女 百合子 明四五、三三
女 須満子 大二、三三

尾崎 純 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
大阪府在籍
父 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
妻 貞 明二九、八生、大阪、伏見善次郎養子

尾崎 良純 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
大阪府在籍
父 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
妻 貞 明二九、八生、大阪、伏見善次郎養子
君は大阪府人尾崎良三の二男にして明治二十一年六月を以て生れ大正元年京都帝國大學醫學科大學を卒業し同三年同校助教に任じ同七年英米に留學を命ぜられ同八年歸朝醫學博士の學位を授けられ同九年京都帝國大學教授に任じ現に醫學部勤務たり家族は尙長女敏子(大九、五五)二男良克(同二、九生)二女淳子(同三、九生)あり姉良子(明二九、七生)は東京府人小田光次に嫁せり(京都、上京、淨土寺西田町一二電上五六一)

尾崎 武市郎 尾崎汽船(株)代表取締役、運送業
兵庫縣在籍
父 武夫 明一七、一〇生、河崎次信二女
妻 ヨネ 明一七、一〇生、河崎次信二女
女 正子 大元、八生

尾崎 平六 福井縣多額納税者、農業
福井縣在籍
父 福井縣多額納税者、農業
妻 淳二 明二四、四生、二男淳二郎妻、福井、梅田稔妹
女 加藤吉 明二四、一一生、四女ひさ夫、福井、城地六右衛門五男
女 加藤吉 明三〇、七生、養子加藤吉妻
女 農里子 明四四、一〇生、二男淳二郎長女
女 孫 明四四、一〇生、二男淳二郎長女

尾崎 節子 明三一、一一生、四男行雄妻、宮崎、野井楳太郎養妹
女 シノエイ 明三九、一一生
女 ニセア 明三九、一一生

尾崎 行雄 正三位勳一等、衆議院議員(三重縣選出)、三重縣士族
父 正三位勳一等、衆議院議員(三重縣選出)、三重縣士族
妻 三三、一二生、男爵尾崎海盛姉

尾崎 純 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
大阪府在籍
父 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
妻 貞 明二九、八生、大阪、伏見善次郎養子
君は大正元年京都帝國大學醫學科大學を卒業し同三年同校助教に任じ同七年英米に留學を命ぜられ同八年歸朝醫學博士の學位を授けられ同九年京都帝國大學教授に任じ現に醫學部勤務たり家族は尙長女敏子(大九、五五)二男良克(同二、九生)二女淳子(同三、九生)あり姉良子(明二九、七生)は東京府人小田光次に嫁せり(京都、上京、淨土寺西田町一二電上五六一)

尾崎 純 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
大阪府在籍
父 正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
妻 貞 明二九、八生、大阪、伏見善次郎養子
君は大正元年京都帝國大學醫學科大學を卒業し同三年同校助教に任じ同七年英米に留學を命ぜられ同八年歸朝醫學博士の學位を授けられ同九年京都帝國大學教授に任じ現に醫學部勤務たり家族は尙長女敏子(大九、五五)二男良克(同二、九生)二女淳子(同三、九生)あり姉良子(明二九、七生)は東京府人小田光次に嫁せり(京都、上京、淨土寺西田町一二電上五六一)

尾澤榮重郎

長野縣多額納税者、酒造業
妻 明九、一〇生、伯父丹治長女

尾澤菊次郎

長野縣多額納税者、製絲業
妻 萬延元、五生、養父辰之助二女
明一四、五生

君は長野縣清水十郎の弟にして安政二年九月を以て
生れ後先代辰之助の養子となり明治三十二年家督を
相續す製絲業を營み同縣多額納税者たり家族は尙孫達

尾澤福太郎

諏訪電氣、銅製生絲、尾澤組各(株)
社長、片倉製絲紡績、尾澤組常務取締役
社(株)片倉製絲、第二京濱電力、諏

山岡太郎(六女)及其一女を伴ひ弟孫郎(同五、一一生)
は同妻たり(同三、二生、長野、今井五介長女)を伴

尾島碩有

東京府在籍
妻 碩心 明一八、三三、東京、那須初見二女
明三、二生

尾島傳次

水橋銀行(株)副頭取
富山縣在籍
妻 サク 明八、九生、富山、早川久之丈二女
明三、二生

君は愛知縣尾關市兵衛の長男にして明治十年五月を
以て生れ同二十七年家督を相續す合商店と稱し名古屋

尾關準次

吉田倉庫銀行(株)常務取締役
岐阜縣在籍
妻 憲司 明一、一〇生、岐阜、後藤よ
し四女

尾田信忠

從四位勳三等、陸軍教授、陸軍士
官學校教官、新潟縣士族
妻 英 明一七、二生、岡山、中野耕平二
女、東京女子高等師範學校出身

尾高定四郎

日高煉瓦製造(株)取締役
埼玉縣在籍
妻 ちか 明八、八生、埼玉、小室元貞長女
明三、二生

尾高豐作

武州銀行、武州貯蓄銀行、朝鮮興
業、城東電氣軌道、東京理生命保險
各(株)取締役、東京理立、淺野

(同二七、七生)は金井滋直に同鶴子(同三三、三三)は
東京府土族渡子城正監に同雪子(同三九、七生、お茶

尾谷半三郎

帝國電化、岡山製作所各(株)社長、
岡山縣在籍
妻 松枝 文久三、一一生、岡山、高戸克三
明二六、五生、香川、上野二三郎妹

尾留川安彦

植田銀行(株)取締役、横莊鐵道、
秋田縣在籍
妻 新一郎 明五、七生、養父新吉郎長女
明三、一〇生、妻ミユエ亡夫九一

尾中理七

福井縣多額納税者、熊川銀行(株)
常務取締役、酒造業、福井縣在籍
父 理右衛門 嘉政六、八生、福井、青地森太郎姉

尾野實信

正三位勳一等功三級、豫備陸軍大
將、福岡縣士族
妻 ツマ 明一〇、二生、福岡、土、西岡治
道養子

參謀元帥府副官軍務局長... 尾上 金吉 江商(株)取締役

尾上 作兵衛 艦路電球(株)社長... 尾上 八郎 正四位勳四等、文學博士

尾上 登太郎 第一銀行(株)名古屋支店支配人... 尾上 宗兵衛 山口縣多額納稅者

尾上 治三郎 大阪府在籍... 尾上 濱五郎 勳四等、茨城縣多額納稅者

尾畑 義純 從五位勳四等、海軍法務官... 尾花 仲次 沖繩縣多額納稅者

尾原 佐七 鳥根縣多額納稅者... 尾原 三郎 矢上銀行(株)常務取締役

尾本 與兵衛 千葉縣多額納稅者... 尾林 宗兵衛 山口縣多額納稅者

於勢 佐兵衛 船橋市在籍... 於保 乙彦 正五位勳五等、醫學博士

才(子)之部 尾(原、具、本)男、於

(※印は姻族關係)

緒方省一郎

從五位勳五等、檢事、土浦區裁判所檢事、水戸地方裁判所土浦支部檢事、福岡縣士族

緒方多賀雄

正四位勳二等功三級、豫備陸軍中將、熊本縣在籍

緒方大衆

從五位、醫學博士、長崎醫科大學教授、福岡縣在籍

緒方知三郎

正五位勳四等、東京帝國大學教授、醫學部勤務、東京府在籍

緒方辰四郎

鹿兒島縣多額納稅者、味噌醬油商、鹿兒島縣士族

緒方英俊

醫學博士、縣立鹿兒島病院產科婦人科部長、大阪府在籍

緒方祐將

醫學博士、緒方婦人科病院院長、大阪府士族

緒方陸朗

伊豫野村銀行(株)頭取、愛媛縣在籍

緒方清吉

黒田屋、村木炭炭商、東京府在籍

緒方長利

從五位、子爵、舊和州柳本藩

緒方長繁

子爵、舊和州芝村藩

緒方長次郎

織田信託(株)社長、東京株式取引所(株)理事、東京府在籍

緒方昇次郎

織田信託(株)専務取締役、警械セメント會社取締役、東京府在籍

緒方嘉七

從五位勳五等、判事、東京控訴院部長、東京府在籍

緒方露子

明四〇、四生、實踐女學校專門部家政科出身

緒方竹虎

東京朝日新聞編輯局長、福岡縣在籍

緒方英俊

醫學博士、縣立鹿兒島病院產科婦人科部長、大阪府在籍

緒方祐將

醫學博士、緒方婦人科病院院長、大阪府士族

緒方陸朗

伊豫野村銀行(株)頭取、愛媛縣在籍

緒方清吉

黒田屋、村木炭炭商、東京府在籍

緒方長利

從五位、子爵、舊和州柳本藩

緒方長繁

子爵、舊和州芝村藩

緒方長次郎

織田信託(株)社長、東京株式取引所(株)理事、東京府在籍

緒方昇次郎

織田信託(株)専務取締役、警械セメント會社取締役、東京府在籍

緒方嘉七

從五位勳五等、判事、東京控訴院部長、東京府在籍

緒方露子

明四〇、四生、實踐女學校專門部家政科出身

緒方竹虎

東京朝日新聞編輯局長、福岡縣在籍

緒方英俊

醫學博士、縣立鹿兒島病院產科婦人科部長、大阪府在籍

緒方祐將

醫學博士、緒方婦人科病院院長、大阪府士族

緒方陸朗

伊豫野村銀行(株)頭取、愛媛縣在籍

緒方竹虎

東京朝日新聞編輯局長、福岡縣在籍

緒方英俊

醫學博士、縣立鹿兒島病院產科婦人科部長、大阪府在籍

緒方祐將

醫學博士、緒方婦人科病院院長、大阪府士族

緒方陸朗

伊豫野村銀行(株)頭取、愛媛縣在籍

緒方清吉

黒田屋、村木炭炭商、東京府在籍

緒方長利

從五位、子爵、舊和州柳本藩

緒方長繁

子爵、舊和州芝村藩

緒方長次郎

織田信託(株)社長、東京株式取引所(株)理事、東京府在籍

緒方昇次郎

織田信託(株)専務取締役、警械セメント會社取締役、東京府在籍

緒方嘉七

從五位勳五等、判事、東京控訴院部長、東京府在籍

緒方露子

明四〇、四生、實踐女學校專門部家政科出身

緒方竹虎

東京朝日新聞編輯局長、福岡縣在籍

緒方英俊

醫學博士、縣立鹿兒島病院產科婦人科部長、大阪府在籍

緒方祐將

醫學博士、緒方婦人科病院院長、大阪府士族

緒方陸朗

伊豫野村銀行(株)頭取、愛媛縣在籍

當家は右大臣織田信長の弟侍從長益の四男大和守尚長の後なり尚長父の所領中一萬石を分與せられ大和守尚長を領す十世を経て信及に至り明治十七年子爵を授けらる君は信及の孫先々代秀實の二男にして明治三十七年四月を以て生れ同四十二年兄信一の家督を相続し襲爵仰けらる家族は尙弟信定(明三八、四生、妹豊子同三九、五生、女子學習院出身)大々叔母己酉子(嘉永二、七生)あり(東京市外大久保町百八十二)

織田 信昭

石川縣在籍
クロード式蜜蝋工業(株)取締役
養父 瀧 慶應元、九生
妻 すすき 明七、一七生、石川、多川茂平三女
母 明子 明三、一〇生、養父瀧長女
君は石川縣人織田太郎の長男にして明治二十年三月を以て生れ宗家先代源の養子となり大正十四年家督を相続す現時クロード式蜜蝋工業取締役として知らる家族は尙長女安子(大式、三女、二女、三女、同六、八生)あり(兵庫、武庫、精道村)

織田 信恒

正四位、子爵 陸軍三等主計
舊羽前天童藩
養父 榮子 明二五、四生、養父信敏二女、學
妻 信正 大二、四生
當家は内大臣平重盛の後胤右大臣織田信長の次男内大臣信雄の後なり信雄初め伊勢國北畠具教の養子となり北畠氏と稱す後信長に及ぶに及ぶに復す其次男左少將信長に召されて上州小幡二萬石に封ぜられ後代更に羽州天童に移り九世を経て先代信敏に至る信敏辰辰の役東北の諸侯同盟して官軍に抗するに當り夙に勤王の志を抱き大藩の間に介在し奮戦したるも蒙赦せず遂に敗る明治十七年子爵を授けらる君實は故相馬誠胤の長男にして子爵相馬誠胤の從兄なり明治二十年八月を以て生れ同四十二年先代信敏の養子となり前名秀胤を改め同三十四年家督を相続し襲爵仰けらる大正四年京都帝國大學法政科を卒業し日本銀行に奉職し同九年商工業視察の爲支那及歐米を漫遊し歸朝後東京朝日新聞社社員となり同十五年六月

織田 信澄

佐用合同銀行(株)取締役
兵庫縣在籍
養父 光春 大一三、一五生
妻 せつ 明三〇、三三、兵庫、上月安重郎
君は兵庫縣人織田貴治郎の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正十三年家督を相続す同八年早稲田大學英法科を卒業し現時佐用合同銀行取締役たり家族は尙二男治也(大一一四、一〇生、一〇生、一〇生)第一弟正孝(明三〇、八生)同正之(同三八、一〇生)あり(兵庫、佐用、三月月村)

織田 正澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 萬

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 萬

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 正澄

佐用合同銀行(株)取締役
兵庫縣在籍
養父 光春 大一三、一五生
妻 せつ 明三〇、三三、兵庫、上月安重郎
君は兵庫縣人織田貴治郎の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正十三年家督を相続す同八年早稲田大學英法科を卒業し現時佐用合同銀行取締役たり家族は尙二男治也(大一一四、一〇生、一〇生、一〇生)第一弟正孝(明三〇、八生)同正之(同三八、一〇生)あり(兵庫、佐用、三月月村)

織田 澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 萬

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

オ(ヲ)之部 織(田、戸、畑)

(※印は要族關係)

オ六一

月鐵道大臣秘書官に任ぜられし昭和二年四月官を辭す家族は尙二男信道(大四、一〇生)三男信昭(同一二、五六)あり(東京、牛込、市谷藥王寺町五二電年込四三五六)
參照 子爵相馬孟胤子爵青山忠俊(子爵有馬純文)子爵伊東九郎の項

織田 信大

正五位、子爵、巧藝社(資)社員
舊丹波柏原藩
當家は右大臣織田信長の次男内大臣信雄の三男侍從高長の後なり世々丹波國柏原二萬石の城主として十世を経て先々代信民に至る先代信親は男爵山崎治敏の兄にして入りて當家を繼承し明治十七年子爵を授けらる君に長じて多年主筆官たり君は其二男にして明治二十一年七月を以て生れ昭和二年十月家督を相続し同十二月襲爵す大正五年東京美術學校洋畫科を卒業し家族は尙長女惠美子(大一三、三三)二女輝子(同一五、五五)あり(東京市外澁谷町伊達三九電年込六一八)

織田 信澄

佐用合同銀行(株)取締役
兵庫縣在籍
養父 光春 大一三、一五生
妻 せつ 明三〇、三三、兵庫、上月安重郎
君は兵庫縣人織田貴治郎の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正十三年家督を相続す同八年早稲田大學英法科を卒業し現時佐用合同銀行取締役たり家族は尙二男治也(大一一四、一〇生、一〇生、一〇生)第一弟正孝(明三〇、八生)同正之(同三八、一〇生)あり(兵庫、佐用、三月月村)

織田 萬

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 萬

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 萬

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 萬

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 澄

從三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、京都帝國大學教授、法
學部部長、常設仲裁裁判所裁判官
兼常設國籍司法裁判所裁判官
東京府土庫
養父 弘化元、七生、佐賀、北島平左衛
門二女
妻 義子 明二二、七生、福島、遠藤雄三郎
母 武雄 明四〇、六生
參照 上月安重郎の項

織田 萬

オ(ヲ)之部 織(田、戸、畑)

(※印は要族關係)

オ六一

君は東京府士族織田純治の長男にして明治元年七月を以て生れ同四十三年家督を相続す同二十五年帝國大學法科大學法學科を卒業し後行政法國際法研究の爲佛獨英各國に留學を命ぜられ歸朝後京都帝國大學法科大學教授同法科大學長等を歴任し法學博士の學位を受く大正七年帝國學士院會員となり同九年自耳義國フランスに於て開催の第二回萬國學士院聯合會に參列す現に京都帝國大學教授法學部部長に任ぜられ前記の官職にあり曾て國際聯盟事務局の招聘に應ず二女二葉(明三五、一〇生)は奈良縣人藤岡長二郎三男長敏に嫁せり(京都、上京、下鴨松ノ木町一八電上九九六)

織田 雄次

朝鮮興業(株)取締役
東京府在籍
養父 嘉永六、一二生、東京、大内仁見
妻 種子 明一九、三三、養父完之之女
母 長子 明四〇、一〇生
君は鳥取縣士族大坪熊太郎の二男にして明治十一年六月を以て生れ同三十八年先代完之の養子となり大正十二年家督を相続す現に東京外國語學校を卒業し現時朝鮮興業會社取締役たり(東京、麹町、下六番町二七電年込二六一五)

織田 之丞

シヤパン冷製製米(株)社長
神奈川縣在籍
養父 登代子 明三五、一〇生
妻 九子 明四四、三三
君は和歌山縣人織田戸象一郎の叔父に方安政五年七月を以て生れ明治二十一年分家して一家を創立す現にシヤパン冷製製米會社社長たり家族は尙二子婿代次(明四三、五三、生母同上)あり(横濱、中、相生町六ノ九〇電長町五〇五三)

織田 方治

資産家
東京府在籍
養父 三郎 明二二、九生、千葉、大田謹三郎
妻 正憲 明四八、三三
君は千葉縣人加藤泰藏の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十七年養父三郎の養子となる同三十九年千葉醫學專門學校を卒業し東京香雲堂醫院地耳鼻咽喉科醫院各員京漢鐵道醫院耳鼻喉科主任朝鮮總督府道慈惠醫院助手同醫院員同醫院を経て現に朝鮮道立醫院醫官に任じ平壤醫院醫官たり家族は尙二女榮子(大三、一一生)養妹(明四一、八生)神奈川、中江津(一、一一生)養妹(明四一、八生)千葉縣人山崎謙(一、一一生)養叔母由(同一九、七生)は千葉縣人山崎謙の養子となり(朝鮮、平壤、醫院官舎)

及川 邦治

從五位勳六等、朝鮮道立醫院醫官、平壤醫院醫官、千葉縣在籍
養父 三郎 明二二、九生、千葉、大田謹三郎
妻 正憲 明四八、三三
君は千葉縣人加藤泰藏の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十七年養父三郎の養子となる同三十九年千葉醫學專門學校を卒業し東京香雲堂醫院地耳鼻咽喉科醫院各員京漢鐵道醫院耳鼻喉科主任朝鮮總督府道慈惠醫院助手同醫院員同醫院を経て現に朝鮮道立醫院醫官に任じ平壤醫院醫官たり家族は尙二女榮子(大三、一一生)養妹(明四一、八生)神奈川、中江津(一、一一生)養妹(明四一、八生)千葉縣人山崎謙(一、一一生)養叔母由(同一九、七生)は千葉縣人山崎謙の養子となり(朝鮮、平壤、醫院官舎)

及川 古志郎

從五位勳三等、海軍大佐、海軍兵學
校教授兼監事、岩手縣在籍
養父 尾 正憲 明四四、二二生
妻 富士雄 明二四、五五、岩手、駒嶺忠順長女
君は岩手縣人及川良吾の長男にして同邊の男なり明治十六年二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ果敢として海軍大佐に任ぜらる其間海軍少將多摩艦長海軍少将多摩艦長一課長等に歴補し現時海軍兵學校教授に任ぜられ家族は尙三男三雄(大七、一〇生)あり弟是郎(明二一、三三、東京美術學校出身、洋畫家)は分家し同隆郎(同二四、二生、農學士)は同妻和(同三六、九生、滋賀、藤田拾次郎三女)を伴ひ同典郎(同二九、一〇生、理學士)は同妻アイ(同三六、六生、岩手、大矢馬太郎三女)及一子を伴ひ亦各分家し妹イツ(同三五、三三)は東京帝國大學助教山口吉郎に嫁せり(廣島、安藝、江田島村)

及川 清質

岩手縣多額納稅者、金融業
岩手縣在籍
養父 尾 正憲 明四四、二二生
妻 富士雄 明二四、五五、岩手、駒嶺忠順長女
君は岩手縣人及川良吾の長男にして同邊の男なり明治十六年二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ果敢として海軍大佐に任ぜらる其間海軍少將多摩艦長海軍少将多摩艦長一課長等に歴補し現時海軍兵學校教授に任ぜられ家族は尙三男三雄(大七、一〇生)あり弟是郎(明二一、三三、東京美術學校出身、洋畫家)は分家し同隆郎(同二四、二生、農學士)は同妻和(同三六、九生、滋賀、藤田拾次郎三女)を伴ひ同典郎(同二九、一〇生、理學士)は同妻アイ(同三六、六生、岩手、大矢馬太郎三女)及一子を伴ひ亦各分家し妹イツ(同三五、三三)は東京帝國大學助教山口吉郎に嫁せり(廣島、安藝、江田島村)

及川 清質

岩手縣多額納稅者、金融業
岩手縣在籍
養父 尾 正憲 明四四、二二生
妻 富士雄 明二四、五五、岩手、駒嶺忠順長女
君は岩手縣人及川良吾の長男にして同邊の男なり明治十六年二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ果敢として海軍大佐に任ぜらる其間海軍少將多摩艦長海軍少将多摩艦長一課長等に歴補し現時海軍兵學校教授に任ぜられ家族は尙三男三雄(大七、一〇生)あり弟是郎(明二一、三三、東京美術學校出身、洋畫家)は分家し同隆郎(同二四、二生、農學士)は同妻和(同三六、九生、滋賀、藤田拾次郎三女)を伴ひ同典郎(同二九、一〇生、理學士)は同妻アイ(同三六、六生、岩手、大矢馬太郎三女)及一子を伴ひ亦各分家し妹イツ(同三五、三三)は東京帝國大學助教山口吉郎に嫁せり(廣島、安藝、江田島村)

及川 清質

岩手縣多額納稅者、金融業
岩手縣在籍
養父 尾 正憲 明四四、二二生
妻 富士雄 明二四、五五、岩手、駒嶺忠順長女
君は岩手縣人及川良吾の長男にして同邊の男なり明治十六年二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ果敢として海軍大佐に任ぜらる其間海軍少將多摩艦長海軍少将多摩艦長一課長等に歴補し現時海軍兵學校教授に任ぜられ家族は尙三男三雄(大七、一〇生)あり弟是郎(明二一、三三、東京美術學校出身、洋畫家)は分家し同隆郎(同二四、二生、農學士)は同妻和(同三六、九生、滋賀、藤田拾次郎三女)を伴ひ同典郎(同二九、一〇生、理學士)は同妻アイ(同三六、六生、岩手、大矢馬太郎三女)及一子を伴ひ亦各分家し妹イツ(同三五、三三)は東京帝國大學助教山口吉郎に嫁せり(廣島、安藝、江田島村)

及川 清質

岩手縣多額納稅者、金融業
岩手縣在籍
養父 尾 正憲 明四四、二二生
妻 富士雄 明二四、五五、岩手、駒嶺忠順長女
君は岩手縣人及川良吾の長男にして同邊の男なり明治十六年二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ果敢として海軍大佐に任ぜらる其間海軍少將多摩艦長海軍少将多摩艦長一課長等に歴補し現時海軍兵學校教授に任ぜられ家族は尙三男三雄(大七、一〇生)あり弟是郎(明二一、三三、東京美術學校出身、洋畫家)は分家し同隆郎(同二四、二生、農學士)は同妻和(同三六、九生、滋賀、藤田拾次郎三女)を伴ひ同典郎(同二九、一〇生、理學士)は同妻アイ(同三六、六生、岩手、大矢馬太郎三女)及一子を伴ひ亦各分家し妹イツ(同三五、三三)は東京帝國大學助教山口吉郎に嫁せり(廣島、安藝、江田島村)

及川 清質

岩手縣多額納稅者、金融業
岩手縣在籍
養父 尾 正憲 明四四、二二生
妻 富士雄 明二四、五五、岩手、駒嶺忠順長女
君は岩手縣人及川良吾の長男にして同邊の男なり明治十六年二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ果敢として海軍大佐に任ぜらる其間海軍少將多摩艦長海軍少将多摩艦長一課長等に歴補し現時海軍兵學校教授に任ぜられ家族は尙三男三雄(大七、一〇生)あり弟是郎(明二一、三三、東京美術學校出身、洋畫家)は分家し同隆郎(同二四、二生、農學士)は同妻和(同三六、九生、滋賀、藤田拾次郎三女)を伴ひ同典郎(同二九、一〇生、理學士)は同妻アイ(同三六、六生、岩手、大矢馬太郎三女)及一子を伴ひ亦各分家し妹イツ(同三五、三三)は東京帝國大學助教山口吉郎に嫁せり(廣島、安藝、江田島村)

及川 清質

オ(ヲ)之部 織(田、戸、畑)

(※印は要族關係)

オ六一

男 清 齋 明二八、一、二、三、東京高等商業学校出身。明三九、五、長男清齋妻、岩手、大坂愛三二女。

及川 千藏 岩手縣多額納稅者、土木建築請負。業、岩手縣在籍。文久三、二、岩手、安部八三郎。

及川 忠左衛門 宮城縣多額納稅者、金屋業。宮城縣在籍。明一九、九、宮城、渡邊榮造姉。

生沼 曹六 正五位、醫學博士、岡山醫科大學教授、石川縣土族。安政二、正、石川、土、堀嘉右衛門長女。

老田 伊三郎 富山縣多額納稅者。富山縣在籍。文久二、四、富山、老田勝之助。

大井 清一 正四位勳二等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務。愛知縣土族。明一九、五、三、重、土、柳本通。

大井 五十吉 東京紙工印刷(株)取締役、業種商。大阪府在籍。明三、九、養父ト新長女。

大井 伊助 大阪府多額納稅者、家主。大阪府在籍。明五、八、大阪、岡本清作三女。

大井 瑞足 正五位勳四等、鐵道技師兼内務技師、監督局技術課長、東京府在籍。安政四、九、三、重、村田孫太郎姪。

大井 貞江 明三九、三、大阪市立家政女学校出身。明四〇、八、大阪市立家政女学校出身。

大井 敏子 明四三、五、大阪府立泉尾高等女学校在籍。明四三、五、大阪府立泉尾高等女学校在籍。

大井 幸子 女學校在籍。明四三、五、大阪府立泉尾高等女学校在籍。

大井 久彌 明四二、一〇。君は東京府人先代義三郎の弟にして明治二年四月を以て生れ同二十六年家を継ぎ大井と稱し書齋を營む家族は尙三男正久(大、七、生)四男敏夫(同、五、七、生)あり長女きよ(明三五、五、生)は東京府人田中房次郎に嫁せり(東京、本郷、森川町一電小石川二八九八)。

大井 正義 明四二、四。君は愛知縣土族大井清光の長男にして明治十年十月を以て生れ同三十二年家を継ぎ同三十二年東京帝國大學工學科大學士工學科を卒業し同年京都帝國大學理學部工學科大學教授に任ぜられ同四十四年工學部教授となり大正元年度博士學位を受く會て工學部勤務となり現時京都帝國大學教授にして工學部勤務たり家族は尙三男慶雄(大、四、一〇、生)あり(京都、上京、寺町通石藥師下電上五九七)。

大井 富太 河東鐵道、小諸倉庫各(株)取締役、佐久社(資)代表社員、長野縣在籍。明三三、三、長野、井上松太郎長女。

大井 瑞足 正五位勳四等、鐵道技師兼内務技師、監督局技術課長、東京府在籍。安政四、九、三、重、村田孫太郎姪。

大井 成元 從二位勳一等功一級、男爵、陸軍大將、貴族院議員、山口縣華族。慶應二、六、生、熊木、渡邊三四郎。

君は福岡縣士族大内精一郎の長男にして明治七年三月を以て生れ同三十一年家督を相続す...

大内 兵衛

君は兵衛縣人内愛七の弟にして明治二十一年八月を以て生れ昭和元年分家して一家を創立す...

大内 信

君は東京府士族大内幹の長男にして明治六年五月を以て生れ同二十九年家督を相続す...

君は兵衛縣人大江清兵衛の三男にして明治四年五月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す...

大江 市松

君は兵衛縣人大江清兵衛の三男にして明治四年五月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す...

大江 吉兵衛

君は大阪府人大江吉兵衛の甥にして慶應元年六月を以て生れ明治七年家督を相続す...

大江 貞夫

君は奈良縣人大西源太郎の弟にして明治十八年五月を以て生れ同四十三年先代うたの入夫となり...

君は奈良縣人大西源太郎の弟にして明治十八年五月を以て生れ同四十三年先代うたの入夫となり...

大内 彌惣兵衛

君は福島縣人内爲一郎の弟にして安政四年十二月を以て生れ明治二十年分家して一家を創立す...

大浦 兼一

君は福島縣人内爲一郎の弟にして安政四年十二月を以て生れ明治二十年分家して一家を創立す...

君は福島縣人内爲一郎の弟にして安政四年十二月を以て生れ明治二十年分家して一家を創立す...

大江 壽三郎

君は岡山縣人大江代三の長男にして明治三年十月を以て生れ同二十八年家督を相続す...

大江 新太郎

君は東京府人大江蘇一の長男にして明治十二年十月を以て生れ同三十八年家督を相続す...

大江 スミ

女史は東京府人宮川兵衛の妹にして明治八年九月を以て生れ大江安壽に嫁し...

女史は東京府人宮川兵衛の妹にして明治八年九月を以て生れ大江安壽に嫁し...

大浦 信雄

君は愛媛縣士族大浦信一の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正二年家督を相続す...

大浦 義雄

君は京都府人大浦新二郎の弟にして明治三十三年三月を以て生れ大正十四年分家して一家を創立す...

大江 幾太郎

君は和歌山縣士族大江秋濤の長男にして安政六年四月を以て生れ明治三十年家督を相続す...

君は和歌山縣士族大江秋濤の長男にして安政六年四月を以て生れ明治三十年家督を相続す...

大江 仙治郎

君は大阪府人大江仙吉の長男にして安政六年九月を以て生れ明治十三年家督を相続す...

大江 太

君は高知縣士族大江卓の長男にして明治二年二月を以て生れ後家督を相続す...

君は高知縣士族大江卓の長男にして明治二年二月を以て生れ後家督を相続す...

妻 静子 門三五、八生、大阪、中谷右衛門
君は大阪府人高橋太郎兵衛の三男にして明治二十八年一月を以て生れ大正九年大正の養子となり翌年前名正夫を改む同八年早稲田大學政治経済科を卒業し祖業諸油製造販賣業を営み大江商店と稱し其代表取締役にして日本石油會社米國パキムオイル會社等の特別販賣をなし大阪石油會社組合副組長に擧げらるる家族は尙長女幸子(昭二、三)養妹美ヤ子(昭三、九、八)生、奈良、奥野美輝三女(同夫平次郎(昭二、七、七)生、奈良、辰巳裕太郎(昭二)あり(大阪、西、西道頓堀通六ノ一電機川一七四)

大 江 芳 松 御影町著銀行(株)専務取締役
兵庫縣在籍
妻 正三 昭三、九、生、兵庫、鞍谷清慎妹
男 正三 昭三、九、生、兵庫、鞍谷清慎妹

大 江 理 三 郎 朝日新聞社(株)大阪朝日新聞總務局長、兵庫縣在籍
母 いま 昭三、九、生、兵庫、大野垣治助妹
妻 しゆん 昭二、九、生、京都、本田勘左衛門

大 江 亮 一 從五位勳三等、陸軍航空兵大佐、陸軍航空隊第一課長
妻 千代 昭三、二、生、大阪、大谷登妹
男 力 昭三、三、生

一月を以て生れ同三十六年家督を相続す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十六年陸軍砲兵少尉に任じ大正十三年同大佐に陞進す其間野戰重砲兵第三聯隊隊附に補せられ同十四年航空兵科に轉じ陸軍航空隊本部第一課長たり妹トヨ(昭一、五、一〇)生は佐賀縣人八坂雄八弟信助に同ミエ(昭二、二、二)生は同縣士族股卷一長男勳六に嫁せり(東京市外盤谷町米川三)

大 岡 叢 正五位勳五等、九州帝國大學助教
勳務、和歌山縣在籍
妻 まさ子 昭二、五、八、生、靜岡、大宮部喜兵衛七女
男 嶺 昭三、二、生

大 岡 佐 市 郎 兵庫縣多額納稅者、山佐屋、樽丸
父 佐平治 昭永二、四、生、松本又兵衛二男
母 市次郎 昭二、二、生、生母、兵庫、三浦とみ

君は兵庫縣人岡佐平治の二男にして明治十一年九月を以て生れ大正二年家督を相続す山佐屋と稱し樽丸商を營み兵庫縣多額納稅者たり家族は尙庶子せき(大昭一、四、七、生、生母、兵庫、三浦とみ)あり(昭四、二、三、生、生母、大阪、大森まつ)は京都府人高田常三郎に

大 岡 忠 量 從三位勳五等、子爵、陸軍歩兵中尉、舊武州岩槻藩

當家は大岡忠右衛門忠政の四男美濃守忠吉の後なり忠吉徳川家光に仕へ果進諸侯の列に加はる世々武州岩槻二萬三千石の城主として十代を経て先代忠實に至り明治十七年子爵を授けらる君實は子爵野尻量弘の弟にして明治元年一月を以て生れ同二十八年先代忠實の養子となり前名量雄を改め同四十四年勳爵仰付けらる同三十五年東京帝國大學法政科を卒業す一志願兵中尉に陞る家族は尙孫忠憲(大七、八、生、養子忠憲長男)同百子(昭一、〇、二、生、同長女)同郷子(昭一、二、九、生、同二女)同映子(昭一、四、九、生、同三女)あり三女豐子(昭三、六、一、生)は岡山縣人深大坊芳造長男一郎に嫁し養子光子(昭三、四、二、生、公卿九條道實四女)は分家せり(東京、牛込、市谷藥王寺町三電牛込三三八)

大 岡 忠 綱 從四位、子爵、朝鮮銀行員
妻 明三 昭二、一〇、生、兵庫、伊藤長次郎長女
男 忠 昭三、一〇、生、兵庫、伊藤長次郎長女

當家は大岡忠右衛門忠勝の後なり其子忠政より二代を経て名奉行越前守忠相に至り寛延元年食邑を加へられ三州西大平一萬石を領し侯爵に列す後五代を経て忠敬に至り明治十七年子爵を授けらる君は其孫にして先外忠明の男なり明治二十七年三月を以て生れ同三十八

年襲爵す大正八年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時朝鮮銀行員たり家族は尙長女和子(昭一、〇、一、生)弟忠徳(昭三、六、八、生)あり同忠徳(昭三、二、五、生)は大阪府士族砂川雄峻の養子となり(東京、麻布、宮村町七一電青山三三九七)

弟保平(昭一、五、八、生)は兵庫縣人伊藤米蔵に各養子となれり(西宮市)
參照 伊藤保平の項

大 岡 二 郎 利根川水力電氣(株)社員
妻 よし 昭三、八、生、東京、佐々木祐寛
男 鐵太郎 昭一、四、四、生

當家は先代育造より顯る育造は山口縣出身にして夙に代官人となり輿論新誌に筆を執り名聲頓に揚り明治二十三年江戸新聞を買収し中央新聞と改め其社長となる同年帝國議會開設に際し山口縣より選ばれて衆議院議員となり爾來當選する事十三回同議長に重任する事三回に及ぶ其間歐米を漫遊し政友會總務委員に推され東京市會議員同參事會議員同議長等に擧げられ又大正三年文部大臣に親任せらる君は其二年一月病篤くして特正四位勳一等に陞叙せらる君は其二月に於て明治十七年五月を以て生れ昭和三年家督を相続す大正二年中央大學法政科を卒業し現時利根川水力電氣會社社員たり家族は尙長女富子(昭二、二、五、生)兄養造(昭一、五、一、生)養弟龍男(昭二、五、四、生、東京、淺井義金四男)同妻照子(昭三、六、六、生、山口、大岡振吉妹)及其一子あり(東京、芝、松本町四電高橋三九〇〇)

君は故陸軍少將三卷弘義の三男にして同侯夫人の御門の養子となり同三十九年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し同四十年埼玉縣技師となり大正五年内務技師に任ぜられ内務省東京土木出張所に勤務す同十三年復興局技師復興局横出出張所長を経て現時前記の職に在り家族は尙養兄與一郎(昭一、六、一、二、生、現戶主)同妻シケ(昭一、七、一〇、生、山口、長井權吉妹)及其一子あり(東京、芝、龍町八電大塚五九一)

母 せい 昭三、九、生、福井、船野林助妹
妻 カウ 昭三、四、生、大阪、松本敏藏五女

君は滋賀縣人大香九郎の二男にして明治二十一年六月を以て生れ大正十三年家督を相続す大香洋行と稱しメリヤス商を營む家族は尙長女品子(昭一、九、七、生)二女節子(昭一、〇、一、二、生)三女澄子(昭一、二、一、〇、生)四女是子(昭一、五、一、〇、生)妹優(昭二、八、五、生)同妻(昭三、一、一、生)弟朝郎(昭三、九、四、生)あり妹外茂(昭三、二、二、生)は大坂府士族岡田勝行に嫁し伯母りう(安政元、七、生)は滋賀縣人石居四郎平の母にして叔父新吉(昭一、一、一、生)は分家せり(大阪、東、高麗橋一ノ二電本局三三三六)

大 賀 善 十 郎 和光堂(株)社長、藥品製造業
妻 文太郎 昭三、六、生、岡山、岡眞造長女
男 文太郎 昭三、一、二、生
男 福子 昭三、五、一、二、生

君は岡山縣人先代善十郎の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治三十一年家督を相続し前名龜太郎を改めは廣島縣人太田正巳に妹實(昭二、〇、一、生)は兵庫縣人竹内貫一に同壽恵(昭二、五、五、生)は廣島縣人太田新藏二男榮次郎に嫁せり(岡山、御津、白石村)

當家は先代育造より顯る育造は山口縣出身にして夙に代官人となり輿論新誌に筆を執り名聲頓に揚り明治二十三年江戸新聞を買収し中央新聞と改め其社長となる同年帝國議會開設に際し山口縣より選ばれて衆議院議員となり爾來當選する事十三回同議長に重任する事三回に及ぶ其間歐米を漫遊し政友會總務委員に推され東京市會議員同參事會議員同議長等に擧げられ又大正三年文部大臣に親任せらる君は其二年一月病篤くして特正四位勳一等に陞叙せらる君は其二月に於て明治十七年五月を以て生れ昭和三年家督を相続す大正二年中央大學法政科を卒業し現時利根川水力電氣會社社員たり家族は尙長女富子(昭二、二、五、生)兄養造(昭一、五、一、生)養弟龍男(昭二、五、四、生、東京、淺井義金四男)同妻照子(昭三、六、六、生、山口、大岡振吉妹)及其一子あり(東京、芝、松本町四電高橋三九〇〇)

妻 七 ナ 明七、一、一、山口、和田文市妹
養子 洋 明三、八、長女、夫、岡山、
女 幸 明三、七、三、養子、洋妻
女 芳 明三、九、七、生
女 幸 明四、五、五、生
君は山口縣人大瀬許の二男にして明治八年九月を以て生れ先代周作の養子となり大正三年家を相續す明治二十七年下關商業學校を卒業し三井銀行に入り同三十三年臺灣銀行に轉じ同四十年東洋製糖會社の創設と同時に支配人ととなり同四十二年同社專務取締役になり大正二年東洋製糖會社專務取締役として入社し同六年六製糖會社の合併と同時に斗六製糖所長と爲り同六年島樹林製糖所所長に轉じ現に前記諸會社の重役たり家族は尙四女周子(大三、四、生、あり、妹ハル(明二、五、生)は其夫政輔(同二、八、生、山口、河野榮治郎五男)と共に分家せり(臺灣、嘉義、水上庄南靖)

大具清太郎
妻 ミサヲ 明一〇、二、生、福岡、土、楠野勢十郎長女
養子 晴 彦 明二、二、生、養子ノブエ夫、福岡、大和生太郎二男
養子 ノブエ 明二、六、一、生、養子晴彦妻、福岡、大具百太郎長女
君は福岡縣人大具藤一の長男にして明治四年七月を以て生れ後ち家督を相續す凡に實業界に入り現時前記銀行會社の重役にして推されて若松商工會議所副會頭たり家族は尙孫田鶴子(大七、五、生、養子晴彦長女)同道(同二、〇、四、生、同長男)同千代子(昭二、五、生、同二女)あり(福岡縣若松市本町)

大方橋三郎
妻 エイ 慶應元、三、生、大阪、落合直治叔母
男 新太郎 明一七、七、七、生、長男新太郎妻、大阪、杉田善作長女
女 サク 明二、二、一、生
男 國雄 明二二、一、生
女 つや 明二九、二、二、生、二男國雄妻、静岡、中井半十郎長女

川彌太郎 孫彌五郎に同よね(同一、四、一、生)は同縣人松山清太郎に嫁せり(青森、北津輕、中里村)
大川英太郎
妻 鏡千代 鏡管二女
男 正 雄 明三八、九、九、生
君は舊川越藩士大川備三の長男にして同平三郎田中榮八郎の兄なり安政二年二月を以て生れ大正二年家を相續す凡に日田紡織會社に入り現に同社專務取締役たり曾て大阪紡織和歌山第一綿糸各會社取締役たり長女千里(明二九、四、生)は岡山縣人太橋千之甫長男郭吉に嫁しツヤ(同二七、二、生、生母、大阪、高松イシ)は大阪府人越野三藏に同嫁し子(同三六、一、生、生母同上)は滋賀縣人加名生良信に嫁し同ナミ(同三一、一〇、生)は其生母高松イシの家籍に入れり(大阪、天王寺、松ヶ鼻町五四六八ノ二電南三三四二)
參照 大川平三郎、越野三藏、田中榮八郎宗男傳萬里小路元秀宗藤田好三郎の項

大上茂喬
妻 キミエ 明一九、三、生、和歌山、西谷嘉次郎長女
女 千鶴子 明四〇、一、七、生
女 八重子 明四二、六、生
女 桂子 明四四、八、生
君は和歌山縣人大上熊太郎の弟にして明治十三年十月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す同年東京高等師範學校數學科を卒業し和歌山縣立粉河中學校教諭に任じ大正三年更に東北帝國大學理科大學數學科を卒業し福島縣立會津中學校教諭同縣立喜多方中學校長等に歴任し現時佐賀高等學校教授にして生徒監たり家族は尙五女都子(大三、五、生)あり佐賀、佐賀本庄村佐賀高等學校官舎)
大神熊次郎 (株)監査役、福岡縣士族

大川丑之助
妻 きさ 明一三、二、生、青森、小野忠造長女
養子 五郎平 明二八、一、生、長女あき夫、青森、今三郎弟
女 あき 明三一、六、生、養子五郎平妻
君は青森縣人大川兼吉の長男にして明治十年六月を以て生れ同三十五年家を相續す農業を營ひ青森縣多額納稅者たり家族は尙孫正之助(大一、五、三、生、養子五郎平二男)同ワサ(同二〇、三、生、同長女)あり姉あね(慶應三、一、一、生)同夫兼次郎(文久二、六、生、青森佐藤久右衛門四男)は其子孫を伴ひ亡伯父元吉妻もち子(弘化二、一、一、生)青森、鈴木幸次郎長女も亦其子孫を伴ひ各分家し妹いま(明二二、三、生)は青森縣人大

大川金吾
妻 みき 明一七、七、七、生、岐阜、古山久藏長女
母 千代子 元治元、一、一、生、岐阜、岡田利三郎長女
子 浩 一 明四三、五、五、生、生母、岐阜、佐藤すぎ
君は岐阜縣人大川金左衛門の長男にして明治十二年五月を以て生れ大正十二年家を相續す現に八百津銀行專務取締役並に所得税調査員たり家族は尙弟清(明四〇、二、生)あり妹あき(同一、五、九、生)は岐阜縣人内田順一に同ま(同一、八、一、生)は同縣人谷教治に同い(同二四、一、一、生)は同縣人川村禎治郎男に同い(同二七、二、生)は同縣人岡田藤三郎に同小江(同三三、八、生)は同縣人古山久藏長男善輔に嫁し弟鐵磨(同二〇、八、生)は同縣人佐藤勇左衛門に同(同三三、一、二、生)は同縣人額編誠一郎に同(同三三、二、生)は同縣人期武文治に各養子となり同弟同三六、九、生)は同縣人岡田繁太郎長女養子の婿養子となり(岐阜、加茂、八百津町電四三)

大川金七
妻 タカ 安政四、二、生、京都、梶原治助長女
養子 サカ 明二七、五、一、〇、生、京都、井澤治助妹
男 欽三 明四七、七、七、生
女 すま 明四四、八、生
君は京都府人富田富太郎の弟にして明治二十年三月を以て生れ先代金七の養子となり大正十四年家を相續す

大川平三郎
妻 藤七郎 嘉永二、一、一、生
女 うね 明六、六、生、群馬、生方平右衛門
君は群馬縣人大川藤七郎の長男にして明治五年九月を以て生れ大正六年家を相續す凡に明治法律學校に學び現時日本共立生命保險會社取締役たり妹すみ(明二九、七、七、生)は群馬縣人吉田庄八に嫁せり(東京、下谷、中根澤町一八電下谷二〇九)
參照 吉田庄八の項

大川吉兵衛
妻 明一、二、二、生、曾祖父吉兵衛長女
養子 すゝ 明三、四、六、生、東京、鹿島清兵衛
男 爲一郎 大一一、三、二、生
君は東京府人大野木源助の五男にして明治二十五年八月を以て生れ大正四年先代吉兵衛の養子となり同十二年家を相續し前名辰次郎を改む伊勢吉本店と稱し文房具商を營む家族は尙長女國子(大九、二、生)二女磯子(同二、一、一、〇、生)分家せり(大阪、東、南本町一ノ一九電船場二二七八)

大川久次
妻 ツネ 萬延元、七、七、生、茨城、土、鷺尾善司姉
母 萬延元、七、七、生、茨城、土、鷺尾善司姉
子 久次 萬延元、七、七、生、茨城、土、鷺尾善司姉
君は栃木縣人大川源兵衛の二男にして明治二十八年一月を以て生れ先代久平の養子となり大正七年家を相續す擔糸商を營む同縣多額納稅者たり(栃木、安蘇、佐野町)

大川豊太郎
妻 輝 明一〇、一、一、生、長女はつ夫、茨城、中村雄太郎弟
養子 はつ 明一四、三、三、生、養子輝妻
女 豊 明三四、五、五、生、養子輝長男
孫 千代子 明三三、四、四、生、孫豊妻、茨城、木村芳之丞長女
孫 重 明四〇、八、八、生、養子輝二男
君は茨城縣人大川豊吉の長男にして嘉永六年十二月を以て生れ明治十一年家を相續す金融業を營み現に茨城縣多額納稅者たり家族は尙孫實之助(大三、一、二、生、養子輝四男)同てる子(同七、九、生、同二女)曾孫豊太郎(昭二、五、生、孫豊長男)あり二女と(明一八、一、生)は同夫直吉(同二二、四、生、茨城、田久根幾松弟)と共に分家せり(茨城、行方、大生原村)

ムコソクリト、鹿本鐵道、金...

君は舊川越藩士大川...

大川松之進 監査役、金...

女 富子 明三八、八生...

大川彌平次 佐土原貯蓄銀行...

大川内一 正五位勳五等、東京市電氣局理事...

大川内輝耕 從三位勳四等、子爵、貴族院議員...

大川内雪 從五位勳四等、朝鮮道立醫院醫官...

大川内宗治 正五位勳四等、工學博士、鐵道技師...

大河内千代太郎

二本松銀行、事務取締役、七...

大河内正敏

正三位勳三等、工學博士、子爵、...

大河内正倫

正四位、子爵、...

大河内又太郎

日下温泉土地、取締役、...

大河原榮之助

正五位勳四等、工學博士、鐵道技師...

大河原五郎

第一銀行(株)京橋支店支配人...

君は群馬縣人加賀美忠七の五男にして大河原榮之助渡邊三郎の養男なり明治二十一年七月を以て生れ大正元年大河原太助の養子となる明治四十三年東京高等商業學校を卒業し現時第一銀行京橋支店支配人たり家族は尙長女清子(大正一、一)生あり(東京、芝、高輪南町四七電高輪五九三)

大河原太郎

君は神奈川縣人大河原所左衛門の長男にして明治十三年九月を以て生れ大正十年家督を相続す明治四十二年第一高等學校法科を卒業し現に麒麟麥酒會社總務部長たり家族は尙二男博(大正四、二)生亡弟健三妻コト(明二七、六)生、神奈川、北見保太郎(大正二、二)生(横濱、中、根岸町三五九一電本局五七四八)

大河原豊太郎

君は群馬縣人大河原新七の長男にして元治元年三月を以て生れ明治二十三年家督の助の後を承け家督を相続す現時松井田銀行頭取たる外前記銀行の頭取たり家族は尙孫茂子(大正一、六)生、養子女次長女(同二、一)生、同二女(同治一、一)生、同二女(同治一、一)生あり弟榮之助(明一、一)生、叔父義三郎(弘化三、三)生は各分家し弟三郎(明一三、一)生は東京府人渡邊なべの入夫となり叔母たま(安政五、三)生は神奈川縣人渡邊三郎に嫁せり(群馬、碓氷、松井田町)

大河原三郎

君は群馬縣人大河原新七の長男にして元治元年三月を以て生れ明治二十三年家督の助の後を承け家督を相続す現時松井田銀行頭取たる外前記銀行の頭取たり家族は尙孫茂子(大正一、六)生、養子女次長女(同二、一)生、同二女(同治一、一)生、同二女(同治一、一)生あり弟榮之助(明一、一)生、叔父義三郎(弘化三、三)生は各分家し弟三郎(明一三、一)生は東京府人渡邊なべの入夫となり叔母たま(安政五、三)生は神奈川縣人渡邊三郎に嫁せり(群馬、碓氷、松井田町)

君は群馬縣人加賀美忠七の五男にして大河原榮之助渡邊三郎の養男なり明治二十一年七月を以て生れ大正元年大河原太助の養子となる明治四十三年東京高等商業學校を卒業し現時第一銀行京橋支店支配人たり家族は尙長女清子(大正一、一)生あり(東京、芝、高輪南町四七電高輪五九三)

君は神奈川縣人小島幸治郎の弟にして明治七年四月を以て生れ後先代幸次郎の養子となり同三十五年家督を相続す現に前記各銀行會社の重役たり家族は尙三男清(明四二、八)生四男勇(同四、五)生四女香子(大正四、一)生五男清(同七、七)生あり長女千代(明三三、二)生は神奈川縣人横濱に嫁せり(横濱、中、松野町二ノ五四電長者町三三四)

君は群馬縣人渡邊一郎の弟にして明治十三年十一月を以て生れ先代道太郎の養子となり大正十三年家督を相続す現時松井田銀行頭取たる外前記銀行の頭取たり家族は尙三男清(明四二、八)生四男勇(同四、五)生四女香子(大正四、一)生五男清(同七、七)生あり長女千代(明三三、二)生は神奈川縣人横濱に嫁せり(横濱、中、松野町二ノ五四電長者町三三四)

京都帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾後大阪府書記官大分縣理事官佐賀縣書記官事務部長山口縣書記官警務部長佐賀縣書記官警務部長に歴任し昭和二年十二月奈良縣書記官となり現に同縣警務部長たり家族は尙長女小夜子(大正九、三)生三男與志雄(同二、一)生あり(奈良市水門町官舎)

大木善右衛門

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

大木代吉

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

オ(ヲ)之部 大(木)

(兼印は姻族関係)

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

大木親雄

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

大木雄

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

大木貞次郎

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

大木喜福

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

大木平藏

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

君は山梨縣人先代善右衛門の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十六年家督を相続す製絲業を営み日新製絲會社社長にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫もと子(大正一、一)生、長男善一郎(長女)同ひる子(同二、一)生、同二女あり四女せい(明二七、一)生(生)は愛知縣人伊藤嘉太郎に嫁せり三女くに(同二六、八)生(五女)とく(同三〇、七)生は各分家せり(甲府、八日町六六)

至り姓を大久保と改む男七郎右衛門忠世は幕府創業の功臣にして相州小田原四萬石を領す其子相模守忠

大久保忠春

從四位、子爵 舊野州島山藩

當家は久保保右衛門忠世の三男左馬允忠の後のなり 忠知別一家をなし野州島山三萬石を領す九世を経て

大久保立

正三位勳二等功五級、子爵、海軍造船中將、貴族院議員、東京府華族

られ後臺灣總督府參事官漢水支廳長總督府秘書官内務大臣秘書官内務省監獄局長等に任じ同三十二年官命を

大久保利和

正二位勳三等、侯爵、貴族院議員 當家は贈従一位右大臣大久保利通より顯る利通は舊鹿

大久保留次郎

從五位、警視廳書記官、官房主事 妻 明二八、四生、東京、林津新象養子

妻 義子 明一、八生、子爵土岐章雄 男 安一 明三四、一五、養五位 女 實子 明三九、一五、女子學習院出身

大久保千代松

取締役、酒造業、岩手縣在籍 妻 明一六、一二生、岩手、大和周太 男 惣造 明二一、一〇生

大久保教尚

從四位、子爵 舊相州中山藩 妻 明三三、一〇生 男 惣造 明二一、一〇生

大久保半四郎

東京銀行在籍、江戸橋支店長 妻 明二六、一〇生、大阪、福原啓一

は岩手縣人士井太郎弟藤郎に嫁エマ(同二三、七生、亡 妹ヲヨ長女)は同縣人高橋久藏三男末次郎に同キサ(同

大久保利武

正三位勳二等、勳章、貴族院議員、東京府士族 妻 明一三、一〇生、男爵近藤滋編姉

大久保平藏

青森縣多額納税者 孫 昌次郎 大四、二生、亡二男鐵二郎長男

大久保增吉

香川縣多額納税者、酒造業 妻 明一六、一〇生、香川、高倉甚五郎

生れ先代麻都の養子となり同二十一年家督を相続し前...

大窪 正 正五位勳六等、日本勲業銀行(株)...

君は石川縣士族大窪意の長男にして元治元年正月を以...

大隈 榮一 大隈鐵工所(株)社長、岡本自轉車...

君は佐賀縣人小柳與吉の五男にして明治三年九月を以...

大隈 信常 正四位勳三等、侯爵、貴族院議員、...

君は東京府人小野清の長男にして明治七年一月を以...

女 豐子 明三七、一二生、女子學習院出身...

當家は先代重信より顯る重信は舊佐賀藩士にして弱冠...

大熊 喜邦 從四位勳三等、工學博士、警務管...

君は埼玉縣人小野清の長男にして明治十九年四月...

大熊 柳三 東屋、吳服商 東京府在籍...

君は東京府人眞壁鐵之助の三男にして同録之助の兄...

大倉 和親 東洋陶器、伊奈製陶、日本硝子各...

女 明四〇、三三、女子學習院出身...

君は舊幕臣大熊喜邦の長男にして明治十年一月を以...

大熊 新平 埼玉縣多額納稅者、農業...

君は新潟縣人小野清の長男にして明治六年二月を以...

大熊 義作 十日町銀行(株)取締役、魚沼酒造...

君は新潟縣人小野清の長男にして明治十年一月を以...

大倉 勝治 奈良縣多額納稅者、奈良乾菓商...

一年五月を以て生れ大正二年家督を相続す夙に明治...

大熊 篤太郎 三井物産(株)業務課次長 東京府在籍...

大倉 喜七郎 正五位、男爵、大倉組(株)頭取、...

(※印は姻族関係)

橋畔に始めて鐵道を開く之れ産を起すの基にして明治五年大倉組を起して直輸出入業を經營し後土木建築業を兼ね晩年余力を滿蒙に効し其遺利を繼承等我國工業の發展に貢獻する所餘からず又大倉商業學校を立てて人材を養成し大倉集古館を設けて美術品古書籍を蒐集し公共事業に盡す所あり大正四年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる昭和三年四月二十二日の高齡を以て逝く君は其長男にして明治十五年六月を以て生れ昭和二年一月家督を繼承し襲爵す凡に父を輔けて社務に執掌し大正十三年其後を承けて合名會社大倉組頭取に就任して全事業を總轄し現に前記諸會社の重役たり國庫を好み日本棋院副總裁に推さる家族は尙三女有二子(大三、七生)あり姉ッル(明一〇、八生)は東京府土族高島直一先代小金治に嫁し同トキ(同一一、一〇生)は其夫桑馬(慶應二、三)に従ひ分家せり(東京、赤坂、葵町三電青山六〇三)

大倉 邦彦 大倉洋紙店(株)社長、小田原製紙、東京金網各(株)取締役、大文洋行主、洋紙商、東京府在籍

大倉 邦彦 君は佐賀縣人江原貞晴の二男にして明治十五年四月を以て生れ大倉和親の義兄たる先代文二の養子となり大正七年家督を繼承す明治三十九年東亞同文書院商務科を卒業し大文洋行上海支店に入り尋で大阪支店に轉じ大正七年養父の跡を享けて事業の全權を主宰す家族は長女百代(大四、九生)あり養母も(明三、三)生、東京、大倉孫兵衛長女)は其の女富美(同一二、七、五生)を伴ひ分家せり(東京市外日暮町下目黒三田三四電高輪九二二)

大倉 邦彦 大倉和親の項

君は愛媛縣人伊藤晴雄の二男にして伊藤家産の兄なり慶應二年三月を以て生れ男爵大倉喜七郎先代喜八郎の養子となり明治三十八年分家して一家を創立す同二十一年帝國大學工科大学土木工學科を卒業し實業界に入り現時大倉組監事たる外東京建物中央セメント月島機械其他前記各會社の重役として廣く知らる家族は尙孫欣一(大一、三、一〇生)、三男銀三郎(長男、同一四、四、一〇生)、同長女あり長女美代子(明三四、四生)は宮崎縣土族河野愛香弟廣水に嫁せり(東京、麹町、平河町六ノ九電丸段一七八)

大倉 鈕藏 正三位勳二等、辯護士、東京府在籍

大倉 鈕藏 君は舊桑名藩士大倉善大夫の二男にして慶應元年正月を以て生れ明治十四年別れて一家を創立す同二十一年帝國大學法科大学法科を卒業し同二十三年判事に

あり三男顯三(明一九、一)は千葉縣人鈴木與四郎の養子となり二女ハルエ(同一二、二)は兵庫縣人大壁早治に三女モト(同一六、二)は長野縣人富永榮三に嫁せり(東京、日本橋、南茅場町二電茅場町四五)

任じ大津地方京都府各裁判所判事京都府地方裁判所部長大津裁判所判事神戸地方裁判所部長大津控訴院部長大審院判事會計検査官懲戒裁判所裁判官等に歴補し大正十五年七月大津裁判所の職を退き辯護士の業務を開始し今日に至る家族は尙四男東雄(明四二、八)五男武雄(大四、二)あり長女よし(明二四、三)は新潟縣土族竹村良長男良克に嫁せり(東京、牛込、市谷加賀町一ノ二電牛込一六六)

大倉 恒吉 京都府多額納稅者月桂冠醸造元、酒造業、京都府在籍

大倉 恒吉 當家は山城國笠置郡より出づ今を遡る約三百年現在の地に移住し爾來酒造及酒類販賣を業とし先代治右衛門又祖業を繼ぎしも早世し其妻エ主として家業を營む君は先代治右衛門の二男にして明治七年一月を以て生れ同十九年家督を繼承し母を扶けて家業に従事し新に銘酒月桂冠の醸造販賣を開始して世評を集め逐年醸造高を増加して遂に今日の盛大を致せり現時京都府多額納稅者にして義に依り銀行帝國酒造會社重役を兼ぶ昭和二年勲章章綬授けらる(東京、丸の内、三ノ木、一三三、一〇生)六男貞造(同一七、一)孫敬(昭二、三、三、一)生)長男治一(長男、明二九、五)五男、京都府立第二高等學校出身(三男武三(同一三、八)慶應義塾大學在學)弟郁之助(八、八)妹ナリ(同一〇、一〇生)は各分家せり(京都、紀伊、伏見町)

大倉 直介 大倉火災海上保險(株)常務取締役、日本自動車(株)取締役、東京府在籍

君は伯備藩口直亮の弟にして明治十七年九月を以て生れ大正三年大倉發身先代みちの養子となり家督を繼承す明治四十三年東京帝國大學工科大学建築科を卒業し現時大倉火災海上保險會社常務取締役たる外前記各會

社の重役たり家族は尙長女志満子(大三、一)二女隆子(同一五、一〇)生)三女芳子(同一七、五)四女壽子(同一八、一)生)養子雄二(同一八、一)生、東京、大倉喜三郎(七男)あり(東京、麻布、井町一七〇電青山七八八)

大倉 公望 從四位勳五等、男爵、南滿洲鐵道(株)理事、東京府在籍

大越 政虎 從四位勳四等、陸軍工兵中尉、臺灣電力(株)理事、栃木縣在籍

大倉 發身 城東電氣軌道、安中電機製作所、入山探炭、東京建設、諏訪工業各(株)取締役、東京府在籍

大倉 保五郎 日本書籍(株)社長、國定教科書共同販賣所、大倉印刷各(株)取締役、東京府在籍

大藏 順太郎 染物業、東京府在籍

大込 正脩 十津川銀行(株)専務取締役、奈良縣土族、奈良、土、玉置直

(※印は姻族關係)

男 恒一 明二、八生、南洋興産會社取締役、大阪高等商業學校出身
男 正保 明三、一、生、醫學士
男 章子 明四、二、生、長男恒一、二女、女子美術學校在學
君は奈良縣土族中川定平の二男にして安政三年十月を以て生れ、後先代嘉代松の養子となり、明治四年家督を継ぎ、現時十津川銀行事務取締役たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男恒一、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大坂 愛三

君は若手縣人大坂庄左衛門の長男にして明治十年七月を以て生れ、後家督を継ぎ、現時三陸銀行事務取締役たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大坂 金助

當家の先代金助は夙に漢學を修め實業界に入り、青森倉庫會社社長青森商會銀行頭取等となり、又青森市會議長、同縣會議員、同商會會議所頭に擧げられ、議院議員に當選する事二回、同四等に叙せられ、更に大正九年貴族院議員に互選せらる、君は其孫にして明治二十七年十一月を以て生れ、大正十四年家督を継ぎ、現時青森商業銀行頭取、及川清實の婿に嫁せり(若手、津澤、水澤町)

取たる前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大坂 秀太郎

君は大坂府人大坂利八の二男にして明治十三年三月を以て生れ、大正十三年家督を継ぎ、現時種商を営み、大阪屋と稱す(大阪、西、西長堀通一ノ五電報町二六一)

大崎 清作

君は山口縣土族大崎半右衛門の長男にして文久二年五月を以て生れ、後先代小兵衛の養子となり、明治元年家督を継ぎ、現時山形藩藩邸に學び、宮崎縣屬同縣東諸縣東白岩郡長に歴任す、後官を罷め、實業界に入り、現に前記銀行會社の重役たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大崎 賢二

君は兵庫縣人中西信一の弟にして大崎利一郎の養弟なり、明治二十年九月を以て生れ、後大崎利右衛門の養子となり、大正七年分家して一家を創立す、同七年神戸高等商業學校を卒業し、現時亞細亞海運會社事務取締役及重水土地會社取締役たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大崎 敬方

君は石川縣土族長野平八の二男にして慶應二年十二月を以て生れ、先代長野の養子となり、明治十五年家督を継ぎ、同二十五年帝國大學理學部化學科を卒業し、第五高等中學校東京高等師範學校各教授に歴任し、獨佛に留學し、同三十六年理學博士の學位を受け、京都帝國大學理學部大學教授に任じ、現に同大學醫學教授たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大崎 尚一

當家は先代尚一より顯る、向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大崎 武彦

君は鹿兒島縣土族高崎清治の長男にして明治二十三年五月を以て生れ、大正四、五、七、八、九年家督を継ぎ、現時農業を営み、現に鹿兒島縣多額納稅者として知らる(鹿兒島、日置、西市來村)

大崎 元繁

君は山口縣土族大崎半右衛門の長男にして文久二年五月を以て生れ、後先代小兵衛の養子となり、明治元年家督を継ぎ、現時山形藩藩邸に學び、宮崎縣屬同縣東諸縣東白岩郡長に歴任す、後官を罷め、實業界に入り、現に前記銀行會社の重役たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大崎 静吾

君は山口縣土族大崎半右衛門の長男にして文久二年五月を以て生れ、後先代小兵衛の養子となり、明治元年家督を継ぎ、現時山形藩藩邸に學び、宮崎縣屬同縣東諸縣東白岩郡長に歴任す、後官を罷め、實業界に入り、現に前記銀行會社の重役たり、家は向孫恒男(大元、八生、長男同三、九生、同三女)あり、同三、四、五、五、五、醫學博士、岡山醫科大學教授、は奈良縣土族中川貞夫の養子となり、二女イマ(同二、二、五生)は同縣人谷向元清に四女ユウ(同二、七、五生)は宮城縣人米谷重男に嫁せり(奈良、吉野、十津川村)

大里 太郎

君は埼玉縣人大里兵藏の長男にして明治二十三年一月

大鹿萱太郎

名古屋株式取引所取引員
愛知縣士族
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島宇吉

新愛知新聞社社長
愛知縣在籍
妻 安政元、八生、愛知、淺井房之助妹
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島喜一郎

北海道多額納稅者 製材業
北海道上野原町
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島金太郎

正四位勳二等、農學博士、臺灣總督府中央研究所技師兼臺灣總督府農務部長、東京府在籍
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島健一

正三位勳一等功三級、陸軍中將、貴族院議員、文政審議委員
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島堅造

群馬銀行(株)本店支配人
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島孝吉

岩井商店(株)取締役
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島小太郎

唐津銀行、唐津貯蓄銀行、唐津魚、唐津製菓、唐津電力(株)取締役、監査役、佐賀縣士族
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

大島三橋

青梅鐵道(株)取締役、藤本ビル、ロイヤル銀行(株)支配人
妻 明一、三、愛知、士、小關勝
男 明一、三、愛知、士、小關勝
女 明一、三、愛知、士、小關勝

六生、同二男あり(東京、牛込、新小川町一ノ五電牛込三三八)

大島 俊太郎 從四位勳四等、判事、一團區裁判所判事兼盛岡地方裁判所一團支部長、栃木縣在籍

妻 マス 明一〇、一一生 繼母 ゲン 慶應二、七生、栃木、淺野定八郎

君は栃木縣人大島俊三の長男にして明治四年七月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す同二十六年辯護士試験に合格し同三十一年判事に任じ爾來若松區福島地方平福區仙臺地方各裁判所判事宮城控訴院判事福島地方前區白河區各裁判所判事に歴補し大正十五年判事現職に轉じ長男俊一(明二八、二生)は其妻エツヒ(西曆一八九四、三生、獨逸、アドルフ・ルードウエツヒ・ヘルマンメラー三女)を伴ひ一家を創立し弟清(明一七、七生)は其妻ヤス(同二二、四生、渡邊與八三女)及其二女を伴ひ分家し長女シユン(同三一、一生)は東京府人澁谷壽雄に二女嫁(同三二、一生)は栃木縣人島田訥郎に嫁せり(岩手、西磐井、一團町)

大島 祥二 大正府在籍

妻 幸 明二九、五生、大阪、大島甚三長女

君は奈良縣人富本憲吉の弟にして明治二十七年六月を以て生れ先代甚三の養子となり大正十四年家督を相続す家主として知らるる家族は尙長女伸(大六、一生)二男和次(同八、八生)三男啓三(同二〇、七生)四男節治(同二二、三生)五男五雄(同二四、六生)六男健郎(昭二、五生)あり(大阪、天王寺、上本町九ノ九五電南八二二六)

大島 新四郎 島根縣多額納稅者、地主

妻 庶子 義一 明三八、四生、生母、島取、長澤

君は島根縣人大島俊清の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治十三年家督を相続す地主として知られ島根縣多額納稅者たり家族は尙妹ヨリ(明一二、二生)弟辰之助(同九、八生)同妻むめ(同二六、二生、靜岡、里水公三郎姪)及其三男二女あり(松江、野町)

大島 宗三郎 日本レール(株)監査役

君は徳島縣人岡本ヨネの五男にして明治二十五年十月を以て生れ大島家に入り同四十四年家督を相続す現に日本レール會社の重役たり家族は二女綾子(大三、一〇生)三女博子(同八、一生)あり(大阪、南、安堂寺橋通一ノ三六電船場五六五)

大島 宗平 群馬縣多額納稅者、肥料商

妻 クラ 明一九、一生、群馬、大澤勘三郎

養子 千三郎 明二六、一生、養子愛子夫、栃木、大澤官三郎三男

養子 愛子 明三八、七生、養子千三郎妻、栃木、大澤熊七郎五女

君は群馬縣人大島久六の二男にして明治十一年十一月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す肥料商を營み群馬縣多額納稅者たり(群馬、佐波、伊勢崎町)

大島 多重郎 大島織布(株)代表取締役

妻 るい 明二、一生、埼玉、濱野新藏

男 芳太郎 明二四、一生

妻 せき 明二四、一生、長男芳太郎妻、埼玉、本多由利蔵四女

養子 近六 明三〇、一生、六女鐵夫、群馬、針谷五作六男

女 鐵 明三六、七生、養子近六妻

君は埼玉縣人大島多左衛門の長男にして明治三年十二月を以て生れ同十六年家督を相続す現に大島織布會社代表取締役たり家族は尙孫兼子(大四、一生)長男芳太郎(同八、八生)同長女(同三二、三三)同弟(同二九、二九)同弟(同二四、二四)同弟(同二二、二二)同弟(同二〇、二〇)同弟(同一八、一八)同弟(同一六、一六)同弟(同一四、一四)同弟(同一二、一二)同弟(同一〇、一〇)同弟(同八、八)同弟(同六、六)同弟(同四、四)同弟(同二、二)あり(埼玉、北足立、小室村)

大島 戸一 群馬縣多額納稅者、上毛實業銀行

妻 はん 明六、八生、埼玉、河田大三九妹

君は群馬縣人岡本ヨネの五男にして明治二十五年十月を以て生れ大島家に入り同四十四年家督を相続す現に日本レール會社の重役たり家族は二女綾子(大三、一〇生)三女博子(同八、一生)あり(大阪、南、安堂寺橋通一ノ三六電船場五六五)

大島 直治 正五位勳四等、九州帝國大學教授

妻 ユキ 明一九、七生、栃木、上野吉次郎

君は茨城縣人滑川禮三の三男にして明治十七年七月を以て生れ後現戸主惟直の養子となる同四十五年京都帝國大學理工科大學製造化學科を卒業し釜山公立專修學校教授に任じ大正八年米澤高等工業學校教授となり現時に至る家族は尙二女久子(大五、三三)三女朝子(同八、一生)二男健兒(同二四、三三)あり(米澤、米澤高等工業學校在籍)

大島 廣 正五位勳四等、理學博士、九州帝國大學教授、農學部勳務、石川縣士族

妻 織 安政四、二生、現戸主

養父 多計比古 文久元、四生、石川、井口清

養母 春野 明二〇、四生、養父多計比古長女

男 孝一 大五、二生

君は石川縣人野村成次郎の二男にして明治十八年十一月を以て生れ後大島多計比古の養子となる同四十二年京都帝國大學理工科大學動物學科を卒業し大學院に入り後第五高等學校教授に任じ大正八年動物學研究の爲英米各國に留學し歸朝後九州帝國大學助教授に任ぜられ同教授に進み現時其職にあり大正十三年理學博士の學位を受く家族は尙二男義二(大九、三三)三男義三(同一一、一一)一長女美代(同二五、三三)あり(福岡市科木屋町七七)

大島 正徳 正五位、東京帝國大學講師

妻 なを 明二一、四生、山梨、中澤徳兵衛

君は神奈川縣人大島正義の長男にして明治十三年十一月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十三年十一月東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大學院に入る東京帝國大學文學部助教授東京帝國大學局長に歴任又内外評論社主幹となる現時東京帝國大學文學部講師たり家族は尙長女優美(大六、二二)三男正中(同二一、一〇生)四男正直(昭二、六生)弟棧(明二六、六生)あり(東京、本郷、駒込千駄木町五二電小石川四六七)

大島 政之進 函館供品(株)事務取締役

妻 政夫 明二〇、二生、京都、龜井郁太郎妹

男 政夫 明四二、五生

女 章子 明三六、八生

君は京都府人大島實太郎の弟にして明治十三年三月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す現時函館供品會社事務取締役たり家族は尙三男政直(大二、三三)二女清子(同五、七生)あり(函館、各地頭町八六)

大島 雅太郎 臺灣拓殖製茶(株)取締役、三井生命保險(株)監査役、三井(名)理事

東京府士族

治十三年三月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同三十八年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し尋いで大學院に入り同四十二年第七高等學校教授に任ぜられ大正二年同校生徒監に補せらるる同五年英米各國に留學し同十一年再び倫理學研究の爲英佛獨各國に差遣せられ同十三年歸朝し直ちに九州帝國大學教授に任じ法文學部勳務を命ぜられ今日に至る家族は尙二女富子(大四、四生)二男隆夫(同九、一〇生)三女雅子(同二二、二二)あり(九州帝國大學法文學部在籍)

大島 破竹郎 從四位勳四等、佐賀縣知事

妻 敬 明四四、一〇生

君は福島縣人大島健三の長男にして明治十五年十二月を以て生れ後分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年文官高等試験に合格し大藏省を拜命同四十二年新潟縣警視となり後警視廳方面監察兵庫縣事務官理事官群馬石川縣木佐賀各縣警察部長島取島岡山各縣内務部長朝鮮總督府事務官等に歴任し昭和二年佐賀縣知事となり現時其職にあり家族は尙二男常(大二、九生)あり母ステ(明文二二、一〇生)福島、若林與次郎長女は妹ステ(明文二七、五生)弟香(同三八、四生)を伴ひ分家せり(佐賀市縣知事官舎)

大島 久直 正二位勳一等功二級、子爵、退役

妻 貞子 陸軍大將、秋田縣華族

男 忠 明二三、六生、正五位、陸軍騎兵

女 千代子 明三〇、二生、五男忠妻、宮中顧問官長崎省三女

君は秋田藩士大島源治の二男にして嘉永元年九月を以て生れ幕末軍事に志し江戸に出で次で奥羽征討に従軍す同地平定後兵部省の生徒となり軍事を研究し明治三年兵部省所管歩兵第三大隊小隊長となる同四年陸軍大改正に伴ひ陸軍中尉に任じ果敢して同三十九年陸軍大將に陞る其間總務局長陸軍參謀團長東京衛戍司令

妻 ミツ 明一三、〇一〇生、東京、揚西吾姉
 男 綾 次 明一四、〇七生、東京、揚西吾姉
 當家は舊日向國延岡藩士にして明治元年正月を以て
 柄なり君は先代景保の長男にして明治元年正月を以て
 生れ同三十二年家督を相続す先是同二十一年慶應義塾
 を卒業し三井銀行に入り後三井同族會事務局に轉じ同
 四十二年三井合名會社に入り現時同社理事たる外三井
 生命保險會社監査役たり家族は尙三男保夫(大七、二
 生)弟恭三(明二〇、〇五生、工學士、逓信局技師)同妻
 清子(同三四、〇四生、平井守人妹)あり長女千代
 (同三四、〇一〇生)は滋賀縣士族神谷邦淑長男春雄に二
 女と(同三六、〇一〇生)は法學博士松室致二男工學士
 信夫に三女ミハ(同三八、〇一〇生)は陸軍中將井戸川辰
 三長男法學士一に養子照(同二二、〇三生、東京、揚西
 吾姉)は宮城縣人小野彦治に嫁し弟貞次郎(同五、〇九生)
 は宮崎縣士族塚本長民の養子となり(東京市外戸塚
 町戸塚一六七番牛込二二〇六)

大島 又彦 從三位勳三等功四級、豫備陸軍中
 將、佐賀縣士族
 妻 トシ 養子
 男 秀 明三二、〇五生、長男秀彦妻、長野、
 西澤庸太郎三女
 君は佐賀縣士族千々岩要之助の二男にして明治五年九
 月を以て生れ後先代サダの養子となり同十一年家督を
 相続す同二十六年陸軍騎兵少尉に任じ爾來騎兵監部々
 員臨時軍馬檢校本部員騎兵第二十一第四第二十六各
 聯隊長陸軍騎兵學校長騎兵監等に歷補し大正十二年
 陸軍中將に親任せられ第十四師團長に補せられ同十五年
 豫備役に編入仰付らるる家族は尙長女篤子(大三、〇二生)
 孫昭子(昭二、〇五生、長男秀彦長女)あり(佐賀市西田
 代町七)

大島 茂七 大島商店(株)社長、砂糖商
 妻 カナ 明三、〇二生、愛知、佐々常太郎妹
 母 あい 明三七、〇八生、東京、駒木寛一妹

大島 義棟 三笠造船(株)神戸造船所員
 妻 綱子 明二二、〇七生、男爵調所一郎姉
 君は東京府人、大島貞泰の三男にして明治九年三月を以
 て生れ同十四年分て一家を創立す同十五年東京
 帝國大學工部大學造船科を卒業し現時三笠造船會社神
 戸造船所員たり(神戸、和田宮町五ノ三五電氣風一
 一九)

大島 義修 從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、帝
 室博物館館長、東京府在籍
 妻 緑 明五、〇六生、京都、大島弘義妹
 男 文 義 明二七、〇三生、正六位、理學士、
 路高等學校教授
 婦 須賀子 明三六、〇九生、長男文義妻、男爵
 細川一之助姉、女子學習院高等科
 出身
 中尉 明三〇、〇三生、從七位、陸軍砲兵
 男 知 義 明三九、〇一〇生、二男知義妻、醫
 婦 ゆき子 明三九、〇一〇生、二男知義妻、醫
 男 昭 義 明三三、〇二生、理學士
 男 康 義 明三三、〇八生、理學士

大島 亮治 日華紡織(株)取締役兼技師長
 妻 フサ 天保一〇、〇六生、大島内記長女

大島 義清 從四位勳三等、工學博士、東京帝
 國大學教授兼内務技師、燃料研究
 所長、東京府在籍
 妻 トラ 文久三、〇五生、東京、鶴木熊吉二女
 養子 理太郎 明二四、〇六生、栃木、高久言一郎弟
 婦 幸子 明二九、〇二生、養子理太郎妻、
 群馬、渡邊松次郎二女
 君は栃木縣人大島文十郎の二男にして萬延元年十二月
 を以て生れ明治十一年先代母テフの後を承け家督を相
 續す現時足利銀行取締役たる外前記各會社の重役たり
 家族は尙孫千代(大四、〇一〇生、養子理太郎長女)同節子
 (同六、〇二生、同二女)同綾子(同七、〇八生、一〇節子
 芳郎)同二男、三男、同長男(同七、〇一〇生、
 同二男)あり(足利、足利町二九九)
 參照 宗長島安次郎の項

君は東京府人大島茂七の長男にして明治三十一年四月
 を以て生れ同三十七年家督を相続し襲名して前名圭一
 郎を改む砂糖商を營み大島商店社長として知らる(東
 京、日本橋、小網町三ノ一電氣場町一三七〇)

大島 要三 福島縣多額納稅者、白棚鐵道、福
 島人運送(株)社長、東京
 信用銀行、共同生糸造所、日本
 建設銀行、常盤商會、帝國礦業工
 業、福島鐵道、日本大正、福島九
 共製各(株)取締役、東海生命保
 險、五(株)取締役、福島貯蓄銀行、福
 島商業銀行、福島貯蓄銀行、阿部商
 店、東京米穀、福島俱樂部各(株)監
 查役、福島馬具俱樂部各(株)監
 查役、福島縣在籍
 男 長十郎 明二二、〇一〇生、早稻田大學政治科
 出身
 婦 わか糸 明二九、〇一〇生、長男長十郎妻、
 長野、西角市次郎三女
 男 英 二 明二六、〇一〇生、小樽高等商業學校
 出身
 婦 孝子 明三三、〇一〇生、二男英二妻、東
 京、小笠原孝太郎長女、東
 男 覺 明二九、〇三〇生、明治大學出身

大島 陸太郎 從四位勳四等、子爵、陸軍歩兵中
 將、侍從武官兼軍事參議院幹事
 妻 銚子 明二九、〇一〇生、子爵藤室高寬妹
 母 跡見女學校出身

大島 亮治 日華紡織(株)取締役兼技師長
 妻 フサ 天保一〇、〇六生、大島内記長女

十七年帝國大學文科大學哲學科を卒業し第四高等學校
 教授、文部省視學官、東京音樂學校長、高等學校長、女子
 學習院長等に歴任し現時帝國博物館館長たり日露戰役
 の際、俘虜情報局事務官として軍務に服す家族は尙孫妙
 子(大一一、〇四生、長男文義長女)あり養弟重義(明二
 七、〇三生、同妻きた)同二女、九生、岐阜、吉村勝治
 郎(二女)及子女を伴ひ分家せり(東京、麻布、廣尾町五
 八電氣高輪五三三九)
 參照 男爵細川一之助、大島弘義、岡本榮松、黒井
 梯次郎、宗氏、木本、木村、宗三郎の項

前記銀行會社の重役となり縣下實業界の巨頭にして福
 島縣多額納稅者たり、議會院議員に當選す家族は尙
 孫靜子(大三、〇二生、長男長十郎長女)同富子(同二〇、
 〇一〇生、同二女)同國子(同二三、〇三〇生、同三女)同要
 (同二四、〇九生)第庄八(明三、〇一〇生)あり三女テラ(同
 三二、〇二生)は京都府人中山評一に四女サエ(同三六、
 〇九生)は埼玉縣人松本善吉に嫁し弟庄吉(同八、〇三〇
 九生)は同妻きた(同八、〇一〇生)は埼玉、山田福之丞妹、及其
 三女を伴ひ分家せり(福島市福島町)

大島 良士 從五位、朝鮮總督府道事務官、全
 羅北道内務部長、香川縣在籍
 妻 慶應元、〇一〇生、現戸主
 父 君は香川縣人大島潔の長男にして明治二十三年十二月
 を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を
 卒業し高等文官試験に合格同五年朝鮮總督府試補に任
 じ同七年朝鮮總督府道事務官となり慶尙南道道道官兼
 財務部長を経て昭和三年全羅北道内務部長に轉す家族
 は尙長女和子(大八、〇七生)あり姉テイ(明二、〇一〇生)
 は香川縣人鈴木瀧次郎三男太郎に妹セイ(同二六、〇一
 〇二生)は同縣人眞鍋長平に同光子(同三〇、〇六生)は埼玉
 縣人小島承一に同孝子(同三四、〇一〇生)は高知縣人廣松
 英彦に嫁せり(朝鮮、全羅北道、全州、内務部長官舎)

大島 芳三郎 足利銀行、足利瓦斯、二國商會各
 (株)取締役、栃木縣在籍
 妻 トラ 文久三、〇五生、東京、鶴木熊吉二女
 養子 理太郎 明二四、〇六生、栃木、高久言一郎弟
 婦 幸子 明二九、〇二生、養子理太郎妻、
 群馬、渡邊松次郎二女

大島 義清 從四位勳三等、工學博士、東京帝
 國大學教授兼内務技師、燃料研究
 所長、東京府在籍
 妻 トラ 文久三、〇五生、東京、鶴木熊吉二女
 養子 理太郎 明二四、〇六生、栃木、高久言一郎弟
 婦 幸子 明二九、〇二生、養子理太郎妻、
 群馬、渡邊松次郎二女

君は千葉縣人大島須賀之助の長男にして明治十一年五
 月を以て生れ同十二年家督を相続す同十四年東京
 帝國大學法科大學法律科を卒業し現時九島市長たり家
 族は尙二男寅次郎(大三、〇一〇生)長女桃子(同七、〇三
 〇三男信吉(同二〇、〇一〇生)あり父庸之助(嘉永三、〇一
 〇一)は分家せり(九島市電一六一)
 參照 宗濱野三郎の項

大角 清作 入善銀行(株)常務取締役 富山縣在籍

妻 つる 明九、一、二生、富山、高見勇作長女 男 善郎 明三五、一、二生

大角 惣兵衛 東陽銀行、小田原瓦斯、小田原魚市場各(株)取締役、神奈川縣在籍

妻 まつ 明一〇、一、生、東京、茂木芳藏妻 男 眞八 明二〇、一〇、生、長女テル夫、神

大角 岑生 從四位勳二等功五級、海軍中將、海軍次官、海軍將官會議委員

妻 ウメ 明二、一、五生、東京、八田道忠姉 男 逸生 明二、一、五生

て生れ同四十年分家して一家を創立す同三十年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍少尉に任じ累進して海軍中將に任ぜらる其間海軍大學校を卒業し獨逸駐在武官

大住 喜右衛門 風月堂總本店、菓子製造販賣業 東京府在籍

妻 リツ 明二、二、生、神奈川、相川文五 男 精一 明三二、七、生、早稲田大學商科出身

大住 省三郎 東京府在籍、菓子商 男 重雄 大二、三、生

大隅 行一 神戸岡崎銀行(株)専務取締役、共立企業日本(株)各(株)取締役

妻 キク 明一四、一、一、生、工學博士齋藤恒 男 改介 明三八、七、生

大住 吾八 從五位勳五等、陸軍砲兵少尉、東京高等工業學校教授、兵庫縣在籍

妻 さき 明一八、八、生、兵庫、八木五平妹 男 正仲 明四三、一、生

大住 三郎 東京府在籍、菓子商 男 重雄 大二、三、生

大隅 行一 神戸岡崎銀行(株)専務取締役、共立企業日本(株)各(株)取締役

妻 キク 明一四、一、一、生、工學博士齋藤恒 男 改介 明三八、七、生

大澄 善一郎 天龍運輸(株)取締役、濱松軌道(株)監査役、静岡縣在籍

父 桂次郎 安政六、一、生、静岡、大庭源三郎 母 てい 元治元、五、生、静岡、門倉傳八長女

大瀨 甚太郎 正四位勳三等、文學博士、東京高等師範學校教授、東京府士族

妻 こむめ 明七、一、二、生、青森、土、關場貞次 男 進 明三一、一〇、生

大關 増輝 從三位、子爵 舊野州黒羽藩

妻 壽子 明一九、七、生、侯爵山内豊景妹 男 秀雄 明四三、一、生

大關 藤吉 大關保全(資)代表社員、越後屋小 麥粉商、東京府在籍

妻 タマ 明二四、一、一、生、北海道、太刀川 善吉妹 男 明二、一、一、生

大關 榮三郎 從四位勳三等、北惠那鐵道(株)取 締役、奈良縣在籍

妻 シン 明一三、五、生、大阪、中野新十郎 男 明一、一、一、生

大田 明治 從五位勳六等、鐵道技師、千葉改 良事務所長、山口縣在籍

妻 操 明二四、一〇、生、秋田、根本行任 男 裕 大三、一〇、生

大田 安熊 宮崎縣多額納税者、醬油米肥料...

大田 黒重五郎 九州水力電氣、四國水力電氣、杖...

大田 黒英記 正四位勳二等、檢事、大阪控訴院...

大高 隼太郎 福島縣農工銀行(株)支配人...

大寶 正鑒 日本ブライウード(株)取締役...

大瀧 源藏 大瀧商店(株)取締役、洋反物商...

大田 原鏡清 舊四州大田原藩...

大田 黒重五郎 (continued)...

大田 黒英記 (continued)...

大高 隼太郎 (continued)...

大寶 正鑒 (continued)...

大瀧 源藏 (continued)...

大高 喜太郎 資産家...

大高 庄右衛門 秋田市街自動車(株)代表取締役...

大高 甚太郎 北海道多額納税者、札幌商工會議...

大瀧 照太郎 正五位勳五等、上田蠶絲專門學校...

大瀧 傳十郎 六十三銀行(株)取締役、日本勸業...

大谷岩太郎

北海道多額納税者、旭川商工... 代表取締役、北海銀行、今井...

に斯業に盡す明治十四年第七十四国立銀行の悲運に際し取締役を就任後...

大谷吉兵衛 三重縣多額納税者、農業... 男 應吉 明三九、七生...

大谷榮之介

京都府多額納税者、金庫商... 母 かじ 明五、七生、滋賀、服部...

君は京都府人先代榮之介の長男にして明治二十九年二月を以て生れ...

大谷恭助 上海紡織株式代表取締役、東洋棉... 母 サキ 花枝、取給役、大阪府在籍...

大谷嘉兵衛

正五位勳三等、神奈川縣多額納税者... 母 嘉一 明三二、一一生、亡妻...

君は福島縣人先代嘉兵衛の長男にして明治十一年二月を以て生れ...

大谷五平 福島縣多額納税者、東北農林(株)... 代表取締役、白河實業銀行、白河...

大谷光昭

伯父 安政五、九生、大谷光成... 母 光 明一八、一一生、福島、橋本...

君は福島縣人先代光昭の長男にして明治二十四年七月を以て生れ...

大谷幸四郎 從四位勳二等功五、海軍中將... 母 喜 明一、一一生、高知、博識...

大谷光暢

從五位、伯父 眞宗大谷派管長... 母 智 明三九、九生、久通宮...

君は親鸞上人の後裔なり中興の祖運如を経て第十三世顯如に至る...

大谷幸四郎 從四位勳二等功五、海軍中將... 母 喜 明一、一一生、高知、博識...

大谷光輝

伯父 安政五、九生、大谷光成... 母 光 明一八、一一生、福島、橋本...

君は親鸞上人の後裔なり中興の祖運如を経て第十三世顯如に至る...

大谷幸四郎 從四位勳二等功五、海軍中將... 母 喜 明一、一一生、高知、博識...

役に水雷艇隊長として従軍し功五級金勳章を賜ふ...

大谷 順作

正五位勳四等、豊國火災保險(株)社長...

大谷 昭道

本徳寺住職、兵庫縣在籍...

大谷 昭道

本徳寺住職、兵庫縣在籍、父昭三、母...

大谷 資利

正五位勳四等、鐵道技師、運輸局勤務...

大谷 竹次郎

京都府多額納税者、歌舞伎座、明治...

大谷 藤四郎

はし藤、漆器荒物商、大阪府在籍...

大谷 正男

從四位勳三等、宮内省参事官、東京府土族...

大谷 正之助

從五位勳六等、朝鮮總督府專賣局事務官...

大谷 彌吉

一畑電氣鐵道(株)社長、島根縣在籍...

大谷 正信

正五位勳四等、廣島高等學校教授、島根縣在籍...

大谷 彌吉

一畑電氣鐵道(株)社長、島根縣在籍...

大谷 彌吉

一畑電氣鐵道(株)社長、島根縣在籍...

大谷 彌吉

一畑電氣鐵道(株)社長、島根縣在籍...

大谷 彌吉

一畑電氣鐵道(株)社長、島根縣在籍...

大谷 彌吉

一畑電氣鐵道(株)社長、島根縣在籍...

大谷 彌吉

一畑電氣鐵道(株)社長、島根縣在籍...

て生れ同十四年家督を相続す同二十九年東京高等商業...

六、三生は茨城縣人國郡に妹ウ(同八、五生)は栃...

父 文之助 文久二、一〇生、現戸主...

一畑電氣鐵道會社社長たり家族は向二男昌行(大三、一〇生)三女妙子(同五、九生)四女麗子(同六、一一生)三男義郎(同九、一二生)四男充(同二、七生)五男碧(同五、九生)あり(島根、廣川、平田町)

大谷 靖

從三位勳二等、錦旗、貴族院議員、東京府士族。妻 安政六、一、二生、東京、士、林有

君は舊周防藩士大谷権左衛門の長男にして弘化元年九月を以て生れ明治二十二年家督を相續す初め福岡縣に出仕し後大藏省に奉職す爾來太政官大書記官兼内務書記官大藏書記官内務省會計局長同庶務局長兼造幣官副使等に歴任し恩賜財團濟生會理事長と爲り大正八年貴族院議員に勅選せられ又錦旗勳二等被仰付家族は向孫義夫(明四四、九生、二男信夫長男)同男夫(同八、七生、同二男)あり(東京、小石川、大塚町六二電小石川四三)

大谷 龍造

從五位、豫備海軍機關大尉、地方海員審判所審判官兼通信局長、大阪府海員審判所在勤。妻 春江 明二〇、三、生、兵庫、梶浦清二女

君は福岡縣人大谷平次右衛門の三男にして明治十三年四月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十三三年商船學校機關科を卒業し大阪商船會社に入り一等機關士を経て機關長となりが大正七年通信局長に任じ地方海員審判所審判官を兼ね同八年海軍豫備機關大尉に任ぜられ同十二年地方海員審判所理事官兼通信局長技師となり同十三年地方海員審判所理事官兼通信局長技師に任ぜられ現に大阪地方海員審判所勤務たり家族は向二男敏夫(大四、二生)二女和子(同八、七生)あり(大阪、住吉、天王寺町二〇三二)

大谷 亮吉

正五位、大阪高等學校教授兼京都帝國大學教授、學術研究會委員、帝國大學委員會委員、兵庫縣在籍。妻 英一 明四一、一〇生、姫路高等學校在學

君は兵庫縣人大谷圓治の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十一年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し大學院に入る東京帝國大學理科大學講師京都帝國大學理學部講師を経て大正十一年大阪高等學校教授兼京都帝國大學教授に任じ現時に至る家族は向二男幸二(大四、九生)三男章三(同九、七生)四男友之(同二、五生)五女信子(同二、五生)あり(姫路、五軒町九六)

大津 喜次郎

大阪株式取引所取引員。妻 長 明八、一、生、兵庫、菅浦策長女

君は大阪府人先代喜兵衛の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治二十六年家督を相續す大阪株式取引所取引員たり家族は向孫喜(大二、八生、養子長治長男)あり父喜兵衛(天保九、八生)は母三(弘化元、二生、大阪、油屋幸助二女)及び姉あき(明三、六生)弟喜三郎(同二、一〇生)を伴ひ分家せり(大阪、東、北濱二ノ五四電本局一九三〇)

大津 淳一郎

正五位勳二等、貴族院議員、文政審議會委員、茨城縣士族。妻 もよ 尚謙伯母

君は茨城縣士族大津正則の二男にして安政三年十二月君は茨城縣人馬場正雄の弟にして明治三年十二月を以て生れ先代雅一の養子となり大正九年家督を相續す農業を營み現に福岡縣多額納稅者たり(福岡、三池、岩田村)

大津 淳三

大分新聞社(株)社長、大分電氣工業(株)取締役、大分縣在籍。妻 征夫 明二七、一〇生

君は大分縣人御手洗淳吉の二男にして慶應二年四月を以て生れ明治十七年先代治郎の養子となり家督を相續す現に大分新聞社社長たる外前記諸會社の重役たり家族は向三女安子(大三、四生)四女マキ子(同五、六生)五男英親(同七、一〇生)五女ミツ(同九、八生)あり(大分市大分六〇)

大津 順三郎

茨城縣多額納稅者、吳服商。妻 はな 明二六、一〇生、先々代佐助二女

君は茨城縣人奥井久助の弟にして上野房之助は其兄に當る明治二十三年一月を以て生れ大正二年先代はなの

大津 大助

鹿兒島縣農工銀行、岩川鐵道各(株)監査役、鹿兒島縣士族。妻 トク 明一、二、生、鹿兒島、土、緒方

君は鹿兒島縣士族大津眞八の二男にして明治二年十二月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時鹿兒島縣農工銀行岩川鐵道會社各監査役たり家族は向弟鬼散(明五、一二生)同妻廣(同二、三、生)鹿兒島、土、堀内良章(同二、三、一〇生)は鹿兒島縣人荒武祐美に同チエ(同二、一〇生)は同縣人西尾一に嫁し同サト(同二、三、一〇生)は同縣人大澤十七の養子となり(鹿兒島、彌生、岩川町)

大津 尚

從五位勳四等、關東醫院醫官兼(株)監査役、山梨縣在籍。妻 實 安政四、四生

君は山梨縣人先代實榮の二男にして明治十三年十一月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治三十三年醫學官に任じ果して同三十七年歩兵第三聯隊豫備見習醫官に任じ果して同三十七年同府醫院醫官關東醫院醫官同府醫院醫官となり現に旅順療病院長の職に在り家族は向三男武(大三、五生)長女文子(同四、一〇生)二女明子(同六、一〇生)四男誠(同八、一〇生)五男清(同二、一〇生)三女洋子(同三、三、生)四女和子(同五、一〇生)あり(旅順、桃岡町八)

大津山 嵩

福岡縣多額納稅者、農業。妻 トメ 文久二、一〇生、福岡、長平吉三女

大塚 惟精

從四位勳三等、前福岡縣知事。妻 愛子 明二九、一、生、子爵上原勇作長女

君は熊本縣士族大塚惟一の長男にして杉原惟敬の甥なり明治十七年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法政科大學政治科を卒業し高等試験に合格し愛知縣屬となり爾來警視廳方面監察官總監官房主事徳島宮城神奈川各縣警察部長に歴任し大正八年歐米各國に於ける戰時地方狀況調査囑託となり歐米各國に出張す同十年歸朝し内務書記官兼内務省參事官に任じ外務書記官農商務書記官を兼ね同十二年國際警察會議に列席の爲め歐米に出張を命ぜられ同年十月内務監察官に任ぜられ同十三年栃木縣知事に擢せらるる次で福岡縣知事に轉じ昭和二年石川縣知事に轉任を命ぜらるるも赴任せずして辭職し現時閑地に在り家族は向二男惟謙(大、一、生)二女由美子(同二、一〇生)弟惟治(明三〇、一〇生)日本郵船會社社員同妻キヌ(同三、八、六生、長崎、辻清長女)及び其一男あり(東京市外大井町鹿島谷二九八二)

大塚 惟明

南海鐵道(株)取締役。妻 和歌子 明二二、八生、和歌山、士、丸井

君は大阪府士族大塚隆の長男にして元治元年四月を以て生れ明治三十四年七月家督を相續す夙に實業界に入

大塚 市郎

九州農産(株)取締役。妻 ツネ子 明二三、六生、山口、星出新植妹

君は山口縣人先代清治郎の長男にして明治十七年四月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時九州農産會社取締役たり妹コメ(明二二、一〇生)は山口縣人佐村周藏に同キミ(同二七、二生)は同縣人山本惣輔に同シス子(同三四、一〇生)は同縣人熊谷成二に嫁し(山口、玖珂、玖珂町)

大塚 英一

從五位勳四等、陸軍砲兵少尉、鐵道技師、運輸局勤務、大阪府士族。妻 コト 明二二、二生、福井、大川内宗吉

君は大阪府士族大塚紀一郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し九州鐵道會社技師となり同四十四年鐵道技師となり次で陸軍砲兵少尉に任ぜられ運輸局運輸課勤務を命ぜらるる同十二年歐米に出張す家族は向二女た(大、四、九生)三男了(同八、六生)弟泰三(明一八、一〇生)同妻まさの(同二二、八生)兵庫、武田甚太郎二女及其一男一女あり(東京、小石川、原町一三)

女 八重 明四一、三生
 女 篤子 明四二、一〇生
 君は大塚新藏の長男にして明治十七年二月を以て生れ同三十五年家督相續と共に前名を改む現に巴屋商店社員たり家族は尙新之助(明三五、一〇生)あり妹ツユ(同二二、六生)は京都府人吉田吉次郎に同ツル(同二六、五生)は大塚府人松井吉郎に嫁せり(大阪、北、空町一ノ一電北四七一九)
 參照 吉田吉次郎の項

大塚 宗次

小諸銀行、米新商店、中央醸造、大塚酒造各(株)取締役、長野電燈、妙高温泉土地、眞産商會各(株)監査役、長野縣在籍
 妻 嘉永六、三生、長野、池田六右衛門長女
 母 明七、八生、長野、南澤親雄姉
 妻 平右衛門 明二九、一〇生
 男 明三〇、一〇生、養子眞澄妻
 女 眞澄 明三〇、一〇生、養子眞澄妻
 君は長野縣人先代宗助の長男にして明治九年九月を以て生れ同二十七年家督を相續す現時小諸銀行取締役の外前記會社の重役たり家族は尙三男仁平(明四三、五生)四男義平(大五、四生)孫信子(同二一、八生、長男平右衛門長女)同義子(同二四、八生、同二女)同益子(同九、二生、養子眞澄長女)同貞子(同二一、六生、同二女)同常子(同二一、二生、同三女)同昭子(昭二、一〇生、長男、萩原六左衛門六男)と共に同居(同二二、二生)は同夫實三(同二五、三三)は其養兄眞三の家籍に入り妹兼(同二八、三三)は長野縣人大塚宗三の養子となり(長野、北佐久、小諸町)
 參照 宗山本幸吉の項

大塚 總一郎

茨城縣多額納稅者、筑波鐵道、筑波電氣各(株)取締役、肥料商
 茨城縣在籍
 妻 慶應三、八生、茨城、大曾根惣平長女

大塚 竹次郎

片岡屋、呉服商
 妻 友 八 明三六、八生
 養子 富五郎 明二三、五生、二女なか夫、東京、相原傳五郎四男
 女 明三〇、一〇生、養子富五郎妻
 女 梅子 明四一、一〇生
 君は東京府人寺田又次郎の二男にして明治元年三月を以て生れ先代を承るの養子となり同三十五年家督を相續す片岡屋と稱し呉服商を營む家族は尙六女久子大五、五生)孫富壽(同七、一〇生、養子富五郎二男)同武夫(同五、五生、同四男)あり三女す(明三三、九生)は東京府人島田安兵衛四男常次郎に嫁せり(東京、小石川、柳町二電小石川一〇二二)
 參照 島田安兵衛の項

大塚 武松

從五位、維新史料編纂官
 妻 アキ 明一九、六生、山口、井上光四女
 男 振 武 明三八、八生
 君は山口縣人先代源五右衛門の長男にして明治十一年八月を以て生れ同三十年家督を相續す同三十六年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し外務省嘱託陸軍大學校教授東京帝國大學文科大學史料編纂補助等に歴任し尙正七年維新史料編纂官に任ぜられ現時に至る家族は尙三男範佐(明四二、八生)長女郁子(大現、三三)あり二男愷三郎(明四〇、二生)は男爵平佐瀨彦養父燕雨の養

大塚 民三郎

仙臺商工會議所副會頭、仙南電氣工業(株)專務取締役、東北實業貯金銀行、東北製糖、福島電燈、宮城倉庫、東北不動産、仙南温泉軌道各(株)取締役、秋保電氣軌道、油井鐵道、日本電報、仙臺電報、油井立米倉庫各(株)監査役
 妻 のぶ 明八、七生、宮城、土、板橋直壽姉
 男 明二六、六生
 男 明三二、一〇生、長男一太郎妻、宮城、櫻井良之助二女
 男 京四郎 明三三、五生
 君は愛知縣人加藤榮作の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十五年先代たつの養子となり家督を相續す現に前記諸會社の重役にして仙臺商工會議所副會頭たり家族は尙四女美津子(大三、三三)孫信一郎(同七、一〇生、長男一太郎長男)同(同八、三三)孫信二(同九、二〇生、同二女)同興子(同二一、一〇生、同三女)同雄二郎(同二五、五生、同二男)あり二男小二郎(明三〇、九生)三男安三郎(同三五、九生)は各分家し三女ケイコ(同二二、三三)は東京府人森下良三に嫁し三女立子(同四一、一〇生)は宮城縣人土橋橋タケの後を継げり(仙臺、名掛町四四)
 參照 櫻井良之助の項

大塚 常吉

帝國ホテル(株)副支配人
 妻 ツル 明二九、九生、愛知、大塚正輝四女
 妻 きく 明二六、一〇生、愛知、横井松之助三女

大塚 晃長

從五位勳六等、東武鐵道(株)專務取締役、南海鐵道、紀和鐵道各(株)取締役、石川縣在籍
 妻 カツ 明一〇、三生、石川、大塚駿長妹
 養子 明四一、一〇生、石川、大塚駿長男
 君は石川縣人先代晃正の三男にして明治九年六月を以て生れ先代長昌の養子となり同三十七年家督を相續す同三十三年東京帝國大學工科大学土木科を卒業し大倉組に入り後帝國鐵道技術師鐵道院技術師鐵道會社技術師を経て現に前記各會社の重役たり(東京、本郷、眞砂町二七電小石川六三二二)
 參照 宗山本幸吉の項

大塚 藤作

澁谷商事(株)監査役
 妻 悦 明二六、八生、東京、吉田幸作五女、御茶の水高等女學校出身
 男 和 男 大、八生
 君は東京府人大塚藤八の二男にして明治二十三年二月を以て生れ同三十四年家督を相續す同四十二年早稲田商業學校を卒業し澁谷商店に入り現時前記會社の重役たり義に債券業を營みしことあり母たつ(明二、一〇生)弟藤右衛門(同二七、四生)は各分家し妹美(同二五、一〇生)は東京府人植松巳之助に同君(同二九、一〇生)は同府人澁谷正吉男爵助に嫁せり(東京市外落合町下落合四二六)
 參照 澁谷正吉の項

大塚 篤三

鍋店(株)代表取締役
 妻 い し 天保一、九生、先々代源五右衛門長女
 母 まさ 文久三、一〇生、先々代源五右衛門長女
 妻 以佐子 明二九、一〇生、廣島、島傳三妹

オ(ヲ)之部 大塚

(※印は姻族關係)

オ一五

大塚 尙一

岡山縣多額納稅者、大塚織布、笠岡山縣在籍
 妻 和 三郎 嘉永四、一〇生、現戸主
 養母 クマ 嘉永三、七生、養祖父安藏二女
 妻 福 明一六、三生、養父和三郎長女
 男 幸 一 明三六、一〇生
 男 勢 明四一、七生、長男幸一妻、岡山、仁徳藤次郎五女
 男 利 夫 明三九、九生
 君は岡山縣人東森喜作の弟にして明治十二年七月を以て生れ同三十三年現戸主和三郎の養子となる織物商を營み縣下の多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は尙三男辰雄(明四二、六生)四男四郎(大、二、三)五男信治(同六、八生)の外養妹嘉代(明二三、九生)同夫善一(同二七、一〇生)岡山、重見惣兵衛弟)及其子女あり(岡山、小田、笠岡町)
 參照 仁徳藤次郎の項

大塚 伸次郎

横濱正金銀行(株)神戸支店支配人
 妻 房 枝 明二三、一〇生、東京、土、弘田長三女
 男 清 一 大、二、一〇生
 君は新潟縣人大塚平吉の二男にして明治十二年十月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す明治三十七年東京帝國大學法政學科を卒業し同三十七年横濱正金銀行に入り大正八年新潟支店支配人となり後神戸支店支配人に轉じ現に在る義に神戸商業會議所特別議員に擧げらるる家族は尙二男信二(大、四、八生)三男嘉三(同八、三三)長女房子(同二〇、一〇生)二女愛子(同二二、九生)あり(神戸、中山手通六ノ七七電元町)

大塚 益郎

新潟縣多額納稅者、新潟銀行、長岡銀行、北陸電力電氣各(株)取締役、酒造業、賣藥業、新潟縣在籍
 妻 トシ 慶應元、一〇生、新潟、本治三郎長女
 男 傳 三郎 明八、三三、長男、瀨川清兵衛姉出身
 男 明二二、三三、長男傳三郎妻、新潟、山口誠太郎妹
 孫 綾子 明三九、一〇生、長男傳三郎長女
 君は新潟縣人山口平三郎の二男にして田口十一郎山口政治の兄なり嘉永元年三月を以て生れ後先代幸三郎の養子となり明治十七年家督を相續す累代酒造業を營むる素封家にして現時新潟縣多額納稅者に列し又前掲銀行會社の重役たり家族は尙孫正博(明四五、三三)長男傳三郎(同二二、三三)あり二女スミ(同六、四生)は新潟縣人廣川莊二(同二一、一〇生)同(同九、八生)は同縣人石田友吉に五女マツ(同二一、一〇生)は同縣人齋藤康之助に六女ハル(同二一、一〇生)は醫學博士岩川克輝に妹トメ(同二〇、四生)は愛知縣人吉田久平の母にして女トヨ(同二一、一〇生)は新潟縣人吉田久平の母にして二男太郎(同二三、四生)は同妻(同三〇、四生)新

大塚 齊

從五位勳六等、福榮無盡(株)社長、農業、熊本縣人
 妻 コト 明二二、三生、熊本、岡本四郎妹
 男 義 信 明四一、三生
 君は熊本縣人先代傳七郎の長男にして明治十六年七月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十九年早稲田大學政治經濟科を卒業し農を業とし傍ら福榮無盡會社社長にして熊本縣多額納稅者たり家族は尙長女和代(大、八生)二女光代(同二二、一〇生)三女文代(同二四、三三)三男義照(同二五、五生)弟勇三(明八、五生)同(同二二、三三)は分家し妹チヨ(同二七、四生)は熊本縣人廣瀬久門に嫁せり(熊本、菊池、陣内村)
 參照 廣瀬久門の項

大塚 尙一

岡山縣多額納稅者、大塚織布、笠岡山縣在籍
 妻 和 三郎 嘉永四、一〇生、現戸主
 養母 クマ 嘉永三、七生、養祖父安藏二女
 妻 福 明一六、三生、養父和三郎長女
 男 幸 一 明三六、一〇生
 男 勢 明四一、七生、長男幸一妻、岡山、仁徳藤次郎五女
 男 利 夫 明三九、九生
 君は岡山縣人東森喜作の弟にして明治十二年七月を以て生れ同三十三年現戸主和三郎の養子となる織物商を營み縣下の多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は尙三男辰雄(明四二、六生)四男四郎(大、二、三)五男信治(同六、八生)の外養妹嘉代(明二三、九生)同夫善一(同二七、一〇生)岡山、重見惣兵衛弟)及其子女あり(岡山、小田、笠岡町)
 參照 仁徳藤次郎の項

等女學校出身)は京都府人藤本經雄二男工學士經明に...

大坪宗一郎 飛騨銀行(株)取締役 岐阜縣士族...

大坪藤朔 正七位、米見銀行(株)取締役、皇典講究所評議員、神宮奉齋會講師...

大坪米藏 大坪酒造(資)代表社員 福岡縣在籍...

養子 嘉市 明二八、一、二女トミ夫、福岡、...

大妻良馬 大妻高等女學校主 東京府在籍...

大寺純藏 從五位勳四等、男爵、貴族院議員 東京府華族...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大友赤松 丸屋、實商 東京府在籍...

大友幸助 秩父セメント(株)取締役、東京毛織(株)取締役、宮城縣在籍...

大友伊八 新宮銀行(株)取締役 兵庫縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大友頼幸 朝鮮船業工業(株)社長 東京府士族...

大島富士太郎 正四位勳三等、男爵、貴族院議員 東京府華族...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西英二 山口縣多額納稅者 山口縣在籍...

大西嘉三郎 大西鐵工所(株)社長、諸機械製造業、東京府在籍
 妻 ノブ 明五、五生、大阪、稻生清次郎姉
 養子 由 藏 明二、七生
 君は大阪府人中尾常太郎の五男にして慶應三年十月を以て生れ明治二十年先代儀三郎の養子となり家督を相続す諸機械製造業を営み大西鐵工所社長たり(東京市外南千住町千住南一、九三電淺草三三)

大西龜次郎 正四位勳二等功四級、後備陸軍軍醫總監、兵庫縣在籍
 妻 のぶ 明六、六生、養父権平長女
 養子 賤 雄 明一四、九生、養子治江夫、長野、日向獅子太弟、醫學博士、大西病院長
 養子 治 江 明二六、一〇生、養子賤雄妻、愛媛、吉田格道妹
 女 龜 美 大二、五生

大西喜一 内外婦(株)取締役、愛媛縣在籍
 妻 壽可尾 明二五、八生、愛媛、大木喜一郎長女
 君は愛媛縣人大西作五郎の弟にして明治十四年三月を以て生れ同三十九年京都帝國大學理工科機械科を卒業し内外婦會社に入り技術長を経て現に同社取締役たり家族は尙妹キク(明一六、一〇生)姪女(同三六、二生)、亡兄作五郎長女(同二九、一一生)、愛媛、大木喜一郎二男、現戸主あり(松山、唐人町三〇ノ四)

大西義一 從五位勳五等、鐵山監督局長、仙臺鐵山監督局長、愛媛縣在籍
 妻 ウタ 安政二、九生、大西盛徴長女
 光 明三一、九生、愛媛、渡部明綱三女

大西清太郎 大西清本店、吳服商、大阪府在籍
 妻 みね 明二五、三三、大阪、兒玉ヨシ養母
 男 貞夫 大三、一〇生
 女 喜代子 明四四、七生

大西太郎兵衛 京都府多額納税者、京都市會議員、新舞鶴棧倉庫(株)取締役、染色業、京都府在籍
 妻 ツル 明二七、一〇生、京都、大野千吉長女
 男 勝太郎 大八、八生
 君は大阪府人大西四郎の三男にして明治二十五年八月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す染色業を營み傍ら新舞鶴棧倉庫會社取締役を兼ね京都府多額納税者たり又京都市會議員に擧げらるる家族は尙長女雪子(大五、七生)二女千鶴子(同七、二生)三男貞明(同二〇、一一生)四男秀雄(同三一、七生)五男常雄(生年月同上)あり(京都、下京、堀川通四條下ル堀川町二七二電下一六五三)

大西爲市 大西商店(株)専務取締役、神奈川縣在籍
 妻 つる 明一四、九生、兵庫、原田常吉五女
 男 初雄 明三六、一〇生
 男 延 明三四、八生
 男 秋雄 明三八、九生

大西盛文 大八、一〇生
 君は愛媛縣士族大西盛英の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正九年家督を相続す先是明治四十年文官高等試験に合格し山林屬林務官補山事務官等を経て大正十三年鐵山監督局長に任ぜられ現に仙臺鐵山監督局長の職に在り家族は尙長女雪子(大六、四生)二男義英(同二〇、一〇生)一〇生、二女咲子(同二二、一一生)三女久子(同三三、四生)及び弟直英(明二九、三三)あり同朝英(同三三、四生)は愛媛縣人世良作藏の養子となり(仙臺、仙臺鐵山監督局)

大西鍛 正六位、醫師、三重縣士族
 母 きよ 天保一三、一〇生、祖父才右衛門長女
 妻 うた 明八、一〇生、東京、荒井郁之助二女
 男 重 明二五、一〇生
 男 進 明三四、一〇生
 女 綾子 明四二、九生

大西行禮 香川縣多額納税者、農業、香川縣士族
 妻 タツ 明四、五生、廣島、橋本龍一叔母
 男 虎之介 明二三、二生
 女 梅代 明三二、一〇生、長男虎之介妻、愛媛、仲田傳之影長女

大西修吉 明三八、三三
 君は香川縣士族大西唯一の長男にして明治三年九月を以て生れ同七年家督を相続す同二十六年明治法律學校を卒業し農業を營み現に香川縣多額納税者にして養子高松百十四銀行の重役たりしことあり家族は尙孫三千(大九、四生、長男虎之介長女)同潤甫(同二四、二生、同二男)同桃子(同二五、三三、同二女)あり長女ノブ(明二八、一〇生)は大阪府士族鈴木仁十郎に二女萬壽(同三四、五生)は岡山縣人森森則三(同三六、一〇生)は廣島縣人橋本龍一(同七、三三)は兵庫縣人伊藤長次郎に嫁し五男龍吉(同四〇、一〇生)は前記鈴木仁十郎の養子となり三男龍夫(同三一、九生)は分家せり(香川、木田、水上村)
 參照 伊藤長次郎、鈴木仁十郎、仲田傳之影、橋本龍一、石井源次郎、多賀義三郎、仲田久太郎、橋本吉次郎、橋本陽三郎の項

大西茂慶 東京電氣製造(株)専務取締役、櫻木、亞鉛板商、東京府在籍
 父 文平 明六、九生、現戸主
 妻 茂登 明元、三三、滋賀、片山清次郎姉
 男 志 明三〇、九生、東京、矢部藤太郎五女
 女 榮一 大七、三三

大西修一郎 勳七等、丹後産業銀行(株)専務取締役、京都府在籍
 妻 道太郎 明二二、三三、東京帝國大學出身
 男 明三二、三三、長男道太郎妻、青森、士、小林慶長女、宇都宮高等女學校出身
 女 せい 明三八、一〇生、宮津高等女學校出身
 男 節三 明四一、三三
 君は京都府人大西兩三郎の長男にして慶應二年一月を以て生れ

大西正幹 衆議院議員(高知縣選出)、辯護士、高知縣在籍
 妻 加壽恵 明二二、二生、高知、小串瀧吾三女
 男 正男 明四三、一〇生
 君は高知縣人大西嘉助の二男にして明治十二年三月を以て生れ先代鶴野の養子となり同三十四年家督を相続す夙に高知縣師範學校を卒業し小學校教員在職中判檢事試験に合格し司法官候補に任ぜられ尋で官を辭し辯護士を開業す義に高知市會議員同議長高知縣會議員同議長等に擧げられ昭和三年高知縣より推されて衆議院議員に當選し立憲民政黨に屬す養母鶴野(明八、五生)は高知縣人近藤嘉治馬に嫁せり(高知市形)

大西松之助 カクマツ屋、帽子洋傘商、大阪府在籍
 妻 とめ 元治元、一〇生、大阪、奥野吉造三女
 君は大阪府人大西仁右衛門の二男にして明治十五年六月を以て生れ同三十九年家督を相続すカクマツ屋と稱して帽子洋傘商を營み老翁を以て知らるる家族は尙弟正一(明二二、九生)同妻イヨ(同三四、一〇生)、北海道、田領鶴治養子)及其三男二女の妹花(同三〇、九生)あり同シゲ(同二〇、一〇生)は大阪府人中川久太郎長男幸四郎に同シウ(同二五、七生)は奈良縣人島本戒善養子澄澄に嫁せり(大阪、南、心齋橋筋二ノ六一電兩一〇六四)

大西直孝 大阪府多額納税者、家主、大阪府在籍
 妻 アイ 明一六、七生、大阪、京谷政治郎三女
 男 直幸 明三六、六生
 君は大阪府人清水恒造の兄にして明治十四年三月を以て生れ先代直孝の養子となり同二十七年家督を相続す家主にして大阪府多額納税者たり家族は尙二男二郎(明四二、一〇生)三男直之助(同四三、一〇生)三女美恵子(大九、三三)及三子三郎(明四三、三三)生母、大阪、京谷ヨネあり長女(同三四、一〇生)は岡山縣人野々上大郎弟好太郎に嫁せり(大阪、此花、上福島中二ノ一電土佐堀四二二)

大西卯雄 第一銀行(株)小倉支店長、愛媛縣在籍
 妻 ケイ 明二一、三三、愛媛、土、松岡道代姉
 男 巴留雄 明四四、一〇生
 女 カナ子 明四〇、一〇生

大西藤七 山城屋、質商、大阪府在籍
 妻 ヒサ 明八、一〇生、大阪、富永六兵衛三女

大西直孝 大阪府多額納税者、家主、大阪府在籍
 妻 アイ 明一六、七生、大阪、京谷政治郎三女
 男 直幸 明三六、六生
 君は大阪府人清水恒造の兄にして明治十四年三月を以て生れ先代直孝の養子となり同二十七年家督を相続す家主にして大阪府多額納税者たり家族は尙二男二郎(明四二、一〇生)三男直之助(同四三、一〇生)三女美恵子(大九、三三)及三子三郎(明四三、三三)生母、大阪、京谷ヨネあり長女(同三四、一〇生)は岡山縣人野々上大郎弟好太郎に嫁せり(大阪、此花、上福島中二ノ一電土佐堀四二二)

大西直孝 大阪府多額納税者、家主、大阪府在籍
 妻 アイ 明一六、七生、大阪、京谷政治郎三女
 男 直幸 明三六、六生
 君は大阪府人清水恒造の兄にして明治十四年三月を以て生れ先代直孝の養子となり同二十七年家督を相続す家主にして大阪府多額納税者たり家族は尙二男二郎(明四二、一〇生)三男直之助(同四三、一〇生)三女美恵子(大九、三三)及三子三郎(明四三、三三)生母、大阪、京谷ヨネあり長女(同三四、一〇生)は岡山縣人野々上大郎弟好太郎に嫁せり(大阪、此花、上福島中二ノ一電土佐堀四二二)

大西安郎 大分縣多額納税者、大分縣在籍
 妻 シツ 明二七、一〇生、福岡、大城戸辰次郎長女
 男 孝亮 大五、七生
 君は大分縣人大西重藏の長男にして明治二十二年一月を以て生れ大正十年家督を相続す家商にして大分縣多額納税者たり家族は尙二女智子(大九、一〇生)三女美子(同二四、五生)弟秀男(明三〇、六生)同妻ヒサ(同三三、七生)福岡、大城戸辰次郎五女)及其一女あり(大分、下毛、中津町)

大西由三郎 大西由、吳服商、大阪府在籍
 妻 セキ 明三、四生、大阪、大西麻治郎叔母
 男 芳之助 明二八、一〇生

大西 由藏 大西鐵工所(株)事務取締役
大西 千代 明二六、一〇生、養父嘉三郎三女

大西 理平 時事新報社(株)支配人
大西 健一 明二八、一〇生、兵庫、仲畑幾八

大貫 茂重 加藤銀行、東洋工業各(株)取締
孫 吉治 明三〇、一〇生、亡養子寅次郎長男

大西 克知 三位勳二等、醫學博士、九州帝
大西 明三六、一〇生、養父嘉三郎三女

大西 良輔 從六位勳四等功四級、海軍少佐
大西 武三、一〇生、東京、鹽濱郡司四女

大沼 吉平 静岡縣多額納稅者、伊豆銀行、伊
大沼 文久二、一〇生、静岡、足立一三女

君は北海道大沼惟義の甥にして明治十四年十二月を
大沼 忠二 明四一、一〇生

君は宮城縣大沼萬兵衛の弟にして明治九年七月を以
大沼 廣吉 伊東水力電氣(株)取締役、東海自

君は宮城縣人先代萬兵衛の長男にして明治七年二月を
大沼 保吉 山形縣多額納稅者、羽前炭礦、山

君は先代涉の起す所なり涉は舊野州黒羽藩士にして
大沼 盾雄 正四位勳四等、男爵、退役陸軍歩

君は静岡縣人先代吉右衛門の長男にして明治七年九月
大沼 平五郎 北海道多額納稅者、金融業

君は山形縣人加藤定藤の二男にして明治六年二月を以
大沼 伊右衛門 埼玉縣多額納稅者、材木商

君は兵庫縣人佃仁兵衛の弟にして明治六年七月を以て
大沼 忠吉 村田銀行(株)取締役兼支配人、大

君は山梨縣人大沼平蔵の男にして明治三十年十月を以て
大沼 萬兵衛 村田銀行(株)頭取、山南温泉軌道

君は埼玉縣人先代伊右衛門の長男にして明治十九年六
大野 伊右衛門 埼玉縣多額納稅者、材木商

月を以て生れ大正七年家督相續と共に襲名して前名友造を改む村木商を営み埼玉縣多額納税者たり家族は尙二男義人(大八、一八)あり埼玉、南埼玉、出羽村) 参照 新井理市の項

大野 右一

妻 親 明一八、一八、埼玉、榎木善三妹 男 善次 明四二、二生 君は埼玉縣人大野康五郎の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正四年家督を相續す農業を営み現に埼玉縣多額納税者たり家族は尙三男重(明四四、一)生二女滋子(大三、七)生四男康雄(同七、四生)五男武男(同九、五生)あり埼玉、北埼玉、長野村) 参照 河邑泰朗の項

大野 宇八

浪速製鋼、泉陽紡織各(株)取締役 大阪府在籍 妻 ミツエ 明一〇、五生、大阪、阪口治郎左衛門二女 男 宇一 明三二、二生 女 ヲノエ 明三三、一〇生、二男宇一妻、大野 宇三 明三八、九生 女 宇三子 明四〇、七生 女 綾子 明四四、一〇生 君は大阪府人先代宇八の二男にして明治九年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名福松を改む現時前記各會社の重役たり家族は尙五男叔晴(明四二、六)生六男昭昌(大二、一)生孫宇太郎(同二〇、九)生二男宇一長男あり(大阪、泉南、北中通村) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 恵眼

從五位勲五等、判事、和歌山地方裁判所部長、石川縣在籍 妻 孝 明四三、八生、石川、水谷篤次妹 男 孝 明四三、八生 女 ヲノエ 明三三、一〇生、二男宇一妻、大野 宇三 明三八、九生 女 宇三子 明四〇、七生 女 綾子 明四四、一〇生 君は石川縣人大野恵の二男にして明治十三年二月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十五年和佛法律學校を卒業し同三十八年判事登用試験に合格し同四十年判事に任じ爾來横濱地方同區徳島區堺區奈良區各裁判所判事に監督に歴補し大正十三年現職和歌山地方裁判所部長に轉ず家族は尙二男徹(大三、二)生長女和榮(同二四、九)生あり(和歌山市東徒町二) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 敬吉

衆議院議員(兵庫縣選出)、東京市會議員、東京府在籍 妻 謙世 大二、一〇生 君は兵庫縣人大野敬太郎の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現に兵庫縣御影師範學校を卒業し現時東京市會議員に擧げられ又昭和三年兵庫縣より推されて衆議院議員に當選す立憲民 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 英治

十六銀行(株)副頭取、岐阜電力(株)取締役、岐阜縣在籍 妻 茂 明一七、五生、愛知、河邑泰朗妹 男 英治 明四三、三生、生母、石坂くに 女 英子 明四三、三生 君は岐阜縣人大野茂助の二男にして明治六年十一月を以て生れ後家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり 参照 河邑泰朗の項

大野 榮三

日本勸業銀行株公共貸付課長 埼玉縣在籍 妻 里 明二五、九生、東京、林山兵衛 男 健 明一六、五生、七生 女 秋 明二五、九生 君は埼玉縣人大野新六の弟同謙一郎の兄にして明治十五年十二月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し日本勸業銀行に入り甲府支店長を経て現時同銀行公共貸付課長たり家族は尙二男二郎(大六、九)生長女敏子(同八、一)生二女英子(同二四、二)生弟弘(明一八、一)生同妻(同三四、八)生、故外務省政務局長阿部守太郎(女及其一男三女あり埼玉、北足立、浦和町別所電通和四〇八) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 數枝

從五位勲五等、典獄、小菅刑務所長、熊本縣在籍 妻 鹿 明一五、八生、福岡、庄野宗之助妹 男 鹿 明一五、八生 女 ヲノエ 明三三、一〇生、二男宇一妻、大野 宇三 明三八、九生 女 宇三子 明四〇、七生 女 綾子 明四四、一〇生 君は熊本縣士族大野防の弟にして明治九年五月を以て生れ同三十七年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士檢事を経て典獄に任じ現に小菅刑務所長の職に在り家族は尙三男富男(明四四、一)生四男元男(大元、一〇)生長女アサ(同五、六)生五男生(同四、四)生(女の外見防(慶應二、七)生、現戸主)同妻ミツ(明一六、一) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 邦道

今出銀行(株)取締役、大野銀行(名)副頭取、愛媛縣在籍 妻 卓 大二、二生 君は愛媛縣人村上桂策の三男にして同幸平の弟なり明治十七年四月を以て生れ先代操の入夫となり後家督を相續す現に早稻田大學文學科を卒業し現時大野銀行副頭取たり家族は尙二男壽(大四、八)生長女秀子(同七、七)生三男(同九、一)生四男(同二一、一)生二女利子(同三一、一)生一子あり(松山、淡野三ノ四〇) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 敬吉

衆議院議員(兵庫縣選出)、東京市會議員、東京府在籍 妻 謙世 大二、一〇生 君は兵庫縣人大野敬太郎の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現に兵庫縣御影師範學校を卒業し現時東京市會議員に擧げられ又昭和三年兵庫縣より推されて衆議院議員に當選す立憲民 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 警吾

大野銀行(名)頭取 妻 澄子 明三九、九生、香川、十河權三郎 男 勉 大一、一〇生 君は愛媛縣人大野熊太郎の二男にして明治三十三年三月を以て生れ同四十二年家督を相續す現に大野銀行頭取たり家族は尙妹倫子(明四二、五)生あり姉操(同二一、一)生は分家して愛媛縣人村上邦道を娶(叔父健二郎(同三、三)生)も亦分家し姉文(同二三、一)生は愛媛縣人玉井健次郎二男次郎に同澤(同二六、八)生は同縣人伊川龜太郎弟重良に叔母コエ(同四一、四)生は同縣人越智誠二に嫁せり(松山、淡野二ノ一四) 参照 伊川龜太郎、越智誠二、大野邦道、大野健二郎、玉井健次郎の項

大野 健二郎

愛媛縣多額納税者 妻 君 要 明二九、一〇生 君は愛媛縣人大野熊太郎の弟にして同警吾の叔父なり明治三年三月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立す縣下の豪商にして現に愛媛縣多額納税者たり家族は三男毅(大一、一)生四男修(同三、八)生あり(松山、三番町) 参照 大野警吾、伊川龜太郎、越智誠二、大野邦道、玉井健次郎の項

大野 賢一郎

從四位勲三等功四級、後備陸軍主計總監、東京府士族 妻 浩 明二一、一〇生 君は東京府士族大野泰の長男にして文久二年三月を以て生れ明治二十二年家督を相續す同十四年陸軍士官學校に入り同十六年陸軍歩兵少尉に任ぜられ更に陸軍大 妻 明二五、九生、長男浩妻、大阪、湯本正巳五女 女 アキ 明二五、一〇生 女 文 明三九、一〇生

大野 作左衛門

三重縣多額納税者、工業 妻 正夫 明三七、五生 君は東京府士族大野作左衛門の長男にして明治十六年八月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時前記各會社の取締役に任じ備前織物同業組合の創立者たり(岡山、兒島莊内村) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 幸太郎

兒富士紡績、加茂酒造各(株)取締役、岡山縣在籍 妻 久須野 明三、八生、岡山、土岐卯太郎妹 君は岡山縣人大野傳造の長男にして慶應元年八月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時前記各會社の取締役に任じ備前織物同業組合の創立者たり(岡山、兒島莊内村) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 謙三

取締役、武蔵野鐵道(株)監査役、埼玉縣在籍 妻 タケ 明一〇、一〇生、埼玉、原作藏妹 男 謙三 明一〇、一〇生 女 謙子 明一〇、一〇生 君は埼玉縣人大野半次郎の長男にして明治七年七月を以て生れ同二十四年家督を相續す現に壬子銀行頭取たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙孫義男(大一、一)生、養子傳十郎(長男)同富美子(同三、八)生、同長女(同益子)同五、七、七、同二女あり姉美彌(明元、一)生は埼玉縣人坂本喜一に同けい(同四、一)生は同縣人齋藤吉に養姉(元治元、一)生、父半次郎(養子)は東京府士族栗原信次郎に嫁し弟三郎(明四、八)生は滋賀縣士族松下貞雄の養子となれり(埼玉、入間、東野村) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 謙三

取締役、武蔵野鐵道(株)監査役、埼玉縣在籍 妻 タケ 明一〇、一〇生、埼玉、原作藏妹 男 謙三 明一〇、一〇生 女 謙子 明一〇、一〇生 君は埼玉縣人大野半次郎の長男にして明治七年七月を以て生れ同二十四年家督を相續す現に壬子銀行頭取たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙孫義男(大一、一)生、養子傳十郎(長男)同富美子(同三、八)生、同長女(同益子)同五、七、七、同二女あり姉美彌(明元、一)生は埼玉縣人坂本喜一に同けい(同四、一)生は同縣人齋藤吉に養姉(元治元、一)生、父半次郎(養子)は東京府士族栗原信次郎に嫁し弟三郎(明四、八)生は滋賀縣士族松下貞雄の養子となれり(埼玉、入間、東野村) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 三郎

茨城縣多額納税者、農業 妻 元治元、二生、茨城、齋藤倉藏長女 男 三郎 明一五、四生、養父傳四郎長女 女 三子 明三九、七生 君は茨城縣人岩田太郎の弟にして明治十三年四月を以て生れ先代傳四郎の養子となり同四十年家督を相續す農業を営み茨城縣多額納税者たり家族は尙四男誠夫(大三、三)生三女辰子(同五、二)生四女眞佐子(同七、四)生養妹る(明二九、四)生あり(茨城、稻敷、生板村) 参照 大野謙一郎、大野謙三郎の項

大野 治右衛門

家主、大阪府在籍 妻 治 明二〇、六生、養父治良左衛門長女 男 治 明四三、五生 君は奈良縣人足達保治郎の三男にして明治十六年十月を以て生れ同四十二年大野治良左衛門の養子となり大正十一年家督を相續し前名重藏を改む資産家にして家主たり家族は尙四男幸男(大四、四)生二女良子(同八、一)生三女英子(同二〇、一)生一子あり(大阪、此花、新家町二ノ六〇電土佐堀三三四五)

大野 順末

樺太銀行(株)専務取締役、山九大野商事(名)代表社員、石川縣在籍

大野 正五郎

電機器具商、岐阜縣在籍

大野 甚松

新潟縣多額納税者、旅館業、新潟縣在籍

大野 富治

新潟縣多額納税者、新潟縣在籍

大野 宗太郎

東京府多額納税者、鋼鐵商、東京府在籍

大野 友松

岡山縣多額納税者、岡山縣在籍

大野 富雄

高山商店代表社員、東京府在籍

大野 南八

新潟縣多額納税者、新潟縣在籍

大野 篤雄

横濱正金銀行(株)支店支配人、京都府在籍

大野 英夫

京都府多額納税者、原田織布(株)取締役、地主、京都府在籍

大野 清三郎

東京府在籍、東京府常任監査役

大野 清次郎

朝日商行(株)社長、大阪毛織織(株)取締役、大阪府在籍

大野 宗太郎

東京府多額納税者、鋼鐵商、東京府在籍

大野 友松

岡山縣多額納税者、岡山縣在籍

大野 富雄

高山商店代表社員、東京府在籍

大野 南八

新潟縣多額納税者、新潟縣在籍

大野 篤雄

横濱正金銀行(株)支店支配人、京都府在籍

大野 英夫

京都府多額納税者、原田織布(株)取締役、地主、京都府在籍

大野 英夫

京都府多額納税者、原田織布(株)取締役、地主、京都府在籍

大庭 二郎 正三位勳一等功二級、豫備陸軍大... 妻 正位、山口、正生、山口、土、河野...

大庭 審己 (株)監査役、静岡縣在籍... 妻 正位、三三、三三、養父政吉長女...

大庭 經之輔 (株)監査役、宮城縣在籍... 妻 正位、三三、三三、養父長九郎長女...

大庭 藤三郎 大庭屋、羅紗直輸入商... 妻 正位、三三、三三、兵庫、山西幸三郎姉...

大庭 與市 天龍製糖各株、取締役... 妻 正位、三三、三三、静岡、西藤吉平二女...

大庭 重郎 栃木縣多額納稅者、栃木銀行... 妻 正位、三三、三三、静岡、濱名、中ノ町村...

大庭 小十郎 山形縣多額納稅者、農業... 妻 正位、三三、三三、安政四、九生、山形、高橋門左衛...

大場 謙造 福岡縣多額納稅者、筑肥銀行... 妻 正位、三三、三三、安政元、四生、福岡、矢野太三郎...

大場 成實 正五位勳四等、米澤高等工業學校... 妻 正位、三三、三三、嘉永四、正生、新潟、岩間都藏二女...

大場 多市 共立(株)監査役、東京府土族... 妻 正位、三三、三三、明六、一、生、神奈川、岡本喜太郎姉...

大場 彦三郎 富山縣多額納稅者、越中銀行... 妻 正位、三三、三三、明五、三、富山、馬場久藏三女...

大場 彌平 從五位勳三等、陸軍航空本部... 妻 正位、三三、三三、從五位勳三等、陸軍航空本部第二課長...

母 セイ 安政四、一、一、京都、吉田藤助
長女
妻 ツル 明一八、四、生、京都、土、大浦新太郎長女
女 徳江 明三、八、一、一、生、
女 明子 明四、一、一、生、
君は京都府人、大橋宗助の長男にして、明治十四年二月を以て生る。現に前記諸會社の重役たり。姉ユキ、明一〇、三、生、弟宗隆(同三二、六、生)は各分家し、妹アイ(同一九、五、生)は京都府人、松永藤九郎に嫁す。同二五、三、生)は大阪府人、藤田政治郎に嫁す。弟宗四郎(同二二、五、生)は京都府人、再興せり。京都、上京、大宮、通今出川下ル。薬師町一四電西陣一八〇〇。

兼印 藤田政治郎の項

大橋太平次

君は鹿兒島縣人、大橋宗太郎の長男にして、嘉永二年十二月を以て生る。明治十五年家督を相續す。縣下知名の商家にして、多額納稅者たり。鹿兒島市山之口町。

兼印 大橋多吉の項

大橋多吉

君は鹿兒島縣人、大橋太平次の長男にして、明治十二年七月を以て生る。同三十六年東京帝國大學工學部探礦冶金科を卒業し、鐵山監督官補、農商務技師、鐵山監督官技師を経て、熊本高等工業學校教授に任じ、同三十九年英獨米に留學を命ぜられた。大正八年官を辭し、大倉鐵業會社に入社。大正十年再び農商務技師に任じ、現時鐵山監督官技師兼農工技師となり、農商務技師に任じ、當れり。家族は、長女妙子(大三、五、生)、二女田鶴子(同五、二、生)、三女京子(同七、三、生)、二男勲(同九、五、生)あり。東京市外入新井町新井宿二一四。

兼印 大橋太平次の項

大橋退治

日本石鹼、合同油脂グリセリン、大阪レコード石鹼各(株)取締役
岡山縣在籍
母 嘉 慶應元、二、生、岡山、中山太兵衛姪
妻 幸 明三、三、一、生、東京、大森房吉長女
男 良房 大、一、三、三、生、
君は岡山縣人、大橋良平の二男にして、明治二十二年一月を以て生る。現に前記諸會社の重役たり。家族は、二男平吉(大、一、五、一、二、生)及び兄弟藤一郎(明二〇、二、生、現戸主)同妻つた。同二八、一、生、大阪、中野太右衛門(四女)及其子女弟喜久三(同二五、八、生)同妻は、(同三二、二、生、大阪、天木繁二郎長女)及其子女弟廣(同二五、三、生)は分家せり。大阪、豊能、麻田村。

大橋長五郎

東京府在籍
養母 千 嘉永三、一〇、生、茨城、飯野政平
妻 けい 慶應三、二、生、東京、佃喜兵衛長女
君は千葉県人、水野茂八の二男にして、明治二十一年一月を以て生る。同四十二年大橋けいの養子となり、大正六年家督を相續し、前名力松を改む。現に昔炭商として知らる。家族は、長女保(大八、四、生)、三女幸子(同二四、九、生)あり。東京、神田、佐久間河原一六電下谷六六二。

兼印 村上村新助の項

大橋貞司

岐阜縣多額納稅者
妻 のぶ 明一六、一〇、生、岐阜、林友之助
養子 勇次郎 明三二、一、生、二女みす、夫、大阪、明田三郎二男、養子勇次郎妻
女 田鶴子 明四二、一、生、
女 貞子 明四四、五、生、
女 静子 大、二、一〇、生、
君は岐阜縣人、大橋莊八の長男にして、明治五年九月を以て生る。同四十五年家督を相續す。現に岐阜縣多額納稅者たり。兼に淺草村長に推され。家族は、長女(大、一、五、八、生、養子勇次郎長女)あり。長女も、明三〇、二、生)は岐阜縣人、鹿野文藏に嫁す。同二二、七、生)は京都府人。

大橋登羅

尾張屋、呉服商
東京府在籍
君は東京府人、大橋嘉七の長女にして、同清太郎の姉なり。明治四年九月を以て生る。後先代春三郎に嫁し、明治三十七年亡夫の跡を承けて家督を相續す。尾張屋と稱し、呉服商を營む。家族は、長女成子(大、三、一〇、生)、弟清太郎長女)あり。東京市外品川町北品川本宿九電高橋二六二。

兼印 大橋清太郎の項

大橋德藏

大阪府在籍
妻 まき 明一、六、生、大阪、宮下晋吉長女
養子 平九郎 明三九、五、生、滋賀、川崎普治郎
君は滋賀縣人、大橋武平太の三男にして、明治四年八月を以て生る。同三十一年分家して一家を創立す。米穀商を營む。大阪、港、市岡町四七三、四三三電三三八八。

大橋徳太郎

眞岡商工會議所會頭
妻 キク 萬延元、八、生、滋賀、熊谷平右衛門長女
君は北海道人、大橋勇次郎の二男にして、明治十九年六月を以て生る。大正二年家督を相續す。現に推されて眞岡商工會議所會頭たり。家族は、長女静江(大、三、一、生)の外、弟實一(明三〇、二、生)、養弟敏雄(大、九、六、生)、北海道、後藤猪之吉孫(同正勝、同三、一、生)同孫あり。樺太、眞岡町本町。

大橋留吉

大橋組、土木建築請負業
妻 まき 大元、一、生、埼玉、中村傳左衛門八女
君は栃木縣人、大橋三三郎の三男、同初五郎の叔父にして、明治二年八月を以て生る。大正十三年分家して一家を創立す。土木建築請負業を營む。大橋組と稱す。養子たる。明三九、四、生、東京、松江眞美子(分家せり。東京市外日暮町町谷中本六三六電下谷三五三九)。

大橋直次郎

野州大田原銀行(株)常務取締役
妻 いせ 明二二、三、生、静岡、佐藤孫吉長女
君は静岡縣人、大橋直次郎の長男にして、弘化四年三月を以て生る。後家督を相續す。現時下毛肥料會社々長の外、沼澤銀行專務取締役にして、栃木縣多額納稅者たり。三女(明二四、四、生)は、栃木縣人、館野覺三郎長男、四方七、長男百作(同六、八、生)は、其妻フサ(同二一、一〇、生)は、其夫妻之助(同七、七、生)あり。長女、湯井彦太郎弟)及び三女と共に各分家し。四男順(同二八、七、生)も亦分家せり。栃木、上都賀、鹿沼町。

兼印 大橋征次、岩川利左衛門、岩井木、岩井澤三、千男の項

大橋亦兵衛

衆議院議員(静岡縣選出) 書籍業
妻 いせ 明二二、三、生、静岡、佐藤孫吉長女
君は静岡縣人、大橋直次郎の長男にして、明治十七年二月を以て生る。大正元年家督を相續す。書籍商を營み、兼に静岡縣會議員、同議長、静岡縣實業團體聯合會會長、龍川水防組合長等に擧げられ、昭和三年静岡縣より推され、衆議院議員に當選し、立憲政友會所屬たり。家族は、長女(大、二、一、生)は、生母、静岡、清水いと)同妻(同二四、一、生)は、生母、静岡、後藤たか)あり。兄弟、助(明二四、一、生)は、六津子(同三五、八、生)は、各分家し。叔父照(同四、一〇、生)も亦同妻いし(同二七、一〇、生)は、静岡、鈴木新八長女)を伴ひ分家し。弟順之助(同二七、七、生)は、岡山縣人、津下知章の養子となり、妹藤枝(同三〇、一、生)は、静岡縣人、加藤忠太郎五男眞陸に同三枝(同三二、九、生)は、同縣人、松本正夫に嫁せり。静岡、磐田、井通村。

大橋茂平

製菓業
静岡縣在籍
妻 はる 長女、一、生、静岡、市川治郎平
君は静岡縣人、大橋直次郎の長男にして、明治十七年二月を以て生る。大正元年家督を相續す。書籍商を營み、兼に静岡縣會議員、同議長、静岡縣實業團體聯合會會長、龍川水防組合長等に擧げられ、昭和三年静岡縣より推され、衆議院議員に當選し、立憲政友會所屬たり。家族は、長女(大、二、一、生)は、生母、静岡、清水いと)同妻(同二四、一、生)は、生母、静岡、後藤たか)あり。兄弟、助(明二四、一、生)は、六津子(同三五、八、生)は、各分家し。叔父照(同四、一〇、生)も亦同妻いし(同二七、一〇、生)は、静岡、鈴木新八長女)を伴ひ分家し。弟順之助(同二七、七、生)は、岡山縣人、津下知章の養子となり、妹藤枝(同三〇、一、生)は、静岡縣人、加藤忠太郎五男眞陸に同三枝(同三二、九、生)は、同縣人、松本正夫に嫁せり。静岡、磐田、井通村。

妻 ケエ 元治元、九、生、栃木、土、原田鋼太郎妹
男 涉 明二九、五、生、
男 敬直 明三三、二、生、
君は栃木縣人、大橋直次郎の弟にして、元治元年十一月を以て生る。明治二十一年先代フメの養子となり、家督を相續す。現に野州大田原銀行常務取締役たり。家族は、長女(大、九、一、生)、二男涉長女(同二一、一、生)、六女(同長男)同妻(同二五、五、生)あり。長女タマ(同二二、七、生)は、福岡縣人、阿部正助に嫁せり。栃木、那須、大田原町。

大橋八郎

正五位勳四等、逓信省郵務局長
富山縣在籍
母 はる 文久三、一、二、生、富山、田中權次長女
妻 ちせ 明二五、二、生、長野、小澤侃三長女
男 周治 大、四、九、生、
女 英子 大、二、六、生、
君は富山縣人、大橋八郎の長男にして、明治十八年十二月を以て生る。同三十八年家督を相續す。同四十四年東京帝國大學法政學科を卒業し、同年文官高等考試に合格す。同四十四年郵便貯金局長事務官となり、後逓信省副事務官を経て、歐米各國に出張を命ぜられ、歸朝後逓信書記官兼逓信大臣官房秘書官、大臣官房秘書官、逓信省参事官、大臣官房文書課長等に歴任し、大正十四年逓信省郵務局長に任じ、今日に至る。家族は、長女(大、七、三、生)あり。東京、小石川、林町九二電小石川二二九。

兼印 松長茂の項

大橋正之助

角大、京染、吳服、卸商
京都府在籍
父 忠 安政元、一、生、京都、飯田儀左衛門三男
母 ひさ 衛門三女
妻 操 長女、八、生、愛知、六鹿清太郎
君は京都府人、大橋忠孝の長男にして、明治二十年四月を以て生る。大正十五年先代隱退の後を承け、家督を相續し、前名正太郎を改む。代々京染、吳服問屋を業とし、家號を角大と稱して知らる。家族は、長女久枝(大、六、九、生)三男輝二(同九、五、生)四男秋一(同二一、一、生)五男史郎(同二五、九、生)弟良三(同三〇、一、二、生)は分家せり。七、三、生)あり。同久次郎(同二八、一、二、生)は分家せり。京都、下京、鳥丸通佛光寺下ル、大政所町六七八電下一八九五。

大橋正松

栃木縣多額納稅者、下毛肥料(株)社長、鹿沼産業銀行(株)専務取締役
栃木縣在籍
妻 はる 長女、一、生、静岡、市川治郎平
君は静岡縣人、大橋直次郎の長男にして、弘化四年三月を以て生る。後家督を相續す。現時下毛肥料會社々長の外、沼澤銀行專務取締役にして、栃木縣多額納稅者たり。三女(明二四、四、生)は、栃木縣人、館野覺三郎長男、四方七、長男百作(同六、八、生)は、其妻フサ(同二一、一〇、生)は、其夫妻之助(同七、七、生)あり。長女、湯井彦太郎弟)及び三女と共に各分家し。四男順(同二八、七、生)も亦分家せり。栃木、上都賀、鹿沼町。

兼印 大橋征次、岩川利左衛門、岩井木、岩井澤三、千男の項

女 雪子 明四〇、六生
君は静岡縣人大橋半九郎の長男にして明治三年九月を以て生れ大正五年家督を相続す製菓業を營む家族は尚五男正男(大元、九生)三女静子(同五、三三)あり長女とみ(明二七、一〇生)は静岡縣人加藤一郎に嫁せり(東京、赤坂、青山北町三ノ六八電番七七一四)

大橋彌一郎 百三十三銀行近江貯蓄銀行各株
君は滋賀縣人先代彌一郎の二男にして明治三十三年九月を以て生れ大正十四年家督を相続し前名正藏を改む現時百三十三銀行近江貯蓄銀行各株在役たり家族は尙兄弟太郎(明三一、八生)あり(滋賀、大上、彦根町)

大畑吉一 大畑伸銅所主
君は埼玉縣人大畑三郎兵衛の孫にして明治二十三年十月を以て生れ同三十七年家督を相続す現時大畑伸銅所主たり家族は尙三女敏子(大七、六生)二男博(同一五、五五)弟正次(明二六、一〇生)妹タケ(同三三、七生)あり姉マツ(生年月同上)は東京府人今并つる養子節二に嫁せり(東京市外灘野川町二二六)

大橋興市 大橋農場(株)社長、朝鮮産業(株)
取締役、大橋銀行(名)頭取
君は岐阜縣人白井仙六の弟にして慶應二年六月を以て生れ先代三郎助の養子となり明治二十年家督を相続す同三十年獨力を以て大橋銀行を創立し其頭取となり又朝鮮全羅北道に大橋農場を開設し大正十一年是を株式組織となし現に同社長たり傍ら前記社會社の重役を兼ね長女つや(明三三、二生)、縣立大垣高等女學校出身)は千葉縣人東京電燈會社員武田長七郎に嫁せり(大垣、郭町六二電番三〇七)

大橋理祐 正八位、陸軍歩兵少尉、蝶理、西
陣織物業、京都府在籍
君は京都府人大橋理八の二男にして明治三十二年十月を以て生れ大正十四年家督を相続し前名理三を改む同志社大學に學び父業を繼ぎ西陣織物業を營み蝶理と稱す金剛流曲道を嗜み美術工藝品に趣味を有す家族は尙長女博子(大一一、七生)二女操(同一四、一〇生)の弟政之助(明四二、一〇生)同芳造(大元、八生)同正三郎(同一三、四生)妹ふみ(同八、四生)あり同正(明三九、一〇生)は京都府人山下彌兵衛二男彌次郎に嫁せり(京都、上京、小川通寺ノ内下ル電番七七七) 參照 山下彌兵衛の項

大畑清一 勳八等功七級、高知縣多額納稅者
君は高知縣人黒川百六の長男にして明治十年九月を以て生れ先代貞七の養子となり同三十九年家督を相続す日露の役に功あり勳八等白色桐葉章功七級金鷲章を賜ふ現に高知縣多額納稅者にして釣魚能狂言等に趣味を有す二女米喜(明三六、三三)は高知縣人川村善一郎に三女勝(同三八、一〇生)は同縣人藤原環二に嫁し養子鶴魚(同四二、一〇生)、高知、池田國太郎姪は分家せり(高知市堺町電九三、四七一)

大橋理一郎 生籍商
父 理右衛門 京都市在籍
妻 タカ 明二九、一〇生、京都、井上治兵衛
君は京都府人大橋理一郎の長男にして明治二十二年十月を以て生れ大正十年家督を相続し前名理之助を改む生籍商を營む家族は尙二男達夫(大一一、五五)あり姉

大畑源一郎 日本電氣(株)取締役
君は静岡縣人大畑源作の長男にして明治十七年三月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四一年東京帝國大學工學科大學を卒業し選信局技師となり通信電氣技師選任たり家族は尙二男圓(大一一、一〇生)二女恭子(同五、一〇生)三女淑子(同八、一〇生)あり妹せん(明二〇、四生)は東京府人篠崎吉に嫁せり(東京市外戸塚町諏訪通一四五電番二五二〇)

大畑佐平 小松電氣(株)取締役
君は高知縣人黒川百六の長男にして明治十年九月を以て生れ先代貞七の養子となり同三十九年家督を相続す日露の役に功あり勳八等白色桐葉章功七級金鷲章を賜ふ現に高知縣多額納稅者にして釣魚能狂言等に趣味を有す二女米喜(明三六、三三)は高知縣人川村善一郎に三女勝(同三八、一〇生)は同縣人藤原環二に嫁し養子鶴魚(同四二、一〇生)、高知、池田國太郎姪は分家せり(高知市堺町電九三、四七一)

大畑宗次郎 東京電氣(株)専務取締役、水鉛鐵
業(株)取締役、東京府在籍
妻 美子 明一〇、九生、東京、猪島久兵衛
君は静岡縣人大畑源作の長男にして明治十七年三月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四一年東京帝國大學工學科大學を卒業し選信局技師となり通信電氣技師選任たり家族は尙二男圓(大一一、一〇生)二女恭子(同五、一〇生)三女淑子(同八、一〇生)あり妹せん(明二〇、四生)は東京府人篠崎吉に嫁せり(東京市外戸塚町諏訪通一四五電番二五二〇)

大畑吉一 大畑伸銅所主
君は埼玉縣人大畑三郎兵衛の孫にして明治二十三年十月を以て生れ同三十七年家督を相続す現時大畑伸銅所主たり家族は尙三女敏子(大七、六生)二男博(同一五、五五)弟正次(明二六、一〇生)妹タケ(同三三、七生)あり姉マツ(生年月同上)は東京府人今并つる養子節二に嫁せり(東京市外灘野川町二二六)

大畑清一 勳八等功七級、高知縣多額納稅者
君は高知縣人黒川百六の長男にして明治十年九月を以て生れ先代貞七の養子となり同三十九年家督を相続す日露の役に功あり勳八等白色桐葉章功七級金鷲章を賜ふ現に高知縣多額納稅者にして釣魚能狂言等に趣味を有す二女米喜(明三六、三三)は高知縣人川村善一郎に三女勝(同三八、一〇生)は同縣人藤原環二に嫁し養子鶴魚(同四二、一〇生)、高知、池田國太郎姪は分家せり(高知市堺町電九三、四七一)

大橋理一郎 生籍商
父 理右衛門 京都市在籍
妻 タカ 明二九、一〇生、京都、井上治兵衛
君は京都府人大橋理一郎の長男にして明治二十二年十月を以て生れ大正十年家督を相続し前名理之助を改む生籍商を營む家族は尙二男達夫(大一一、五五)あり姉

大畑源一郎 日本電氣(株)取締役
君は静岡縣人大畑源作の長男にして明治十七年三月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四一年東京帝國大學工學科大學を卒業し選信局技師となり通信電氣技師選任たり家族は尙二男圓(大一一、一〇生)二女恭子(同五、一〇生)三女淑子(同八、一〇生)あり妹せん(明二〇、四生)は東京府人篠崎吉に嫁せり(東京市外戸塚町諏訪通一四五電番二五二〇)

大畑佐平 小松電氣(株)取締役
君は高知縣人黒川百六の長男にして明治十年九月を以て生れ先代貞七の養子となり同三十九年家督を相続す日露の役に功あり勳八等白色桐葉章功七級金鷲章を賜ふ現に高知縣多額納稅者にして釣魚能狂言等に趣味を有す二女米喜(明三六、三三)は高知縣人川村善一郎に三女勝(同三八、一〇生)は同縣人藤原環二に嫁し養子鶴魚(同四二、一〇生)、高知、池田國太郎姪は分家せり(高知市堺町電九三、四七一)

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑健二郎 藥種商
妻 や 明一三、一〇生、東京、矢吹藤次郎長女
君は大阪府人西島芳兵衛の兄にして明治三年十一月を以て生れ同三十年先代たかの入夫となり家督を相続す現時前記各會社の重役たり諸曲の趣味あり妻兄大三郎(安政三、二生)は分家せり(大阪、西、靱南通三ノ二三電土佐堀二六六)

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑良作 埼玉縣多額納稅者、醫師
妻 な 明四、八生、埼玉、竹越伊三郎長女
君は埼玉縣人大畑隆市の長男にして明治元年十月を以て生れ同十六年家督を相続す同二十四年千葉醫學專門學校を卒業し醫師にして現に埼玉縣多額納稅者たり家族は尙三男文雄(大四、一〇生)あり妹チカ(明二一、四生)は埼玉縣人野澤三郎に同(同二三、一〇生)は同縣人竹越伊三郎三男虎一に嫁せり(埼玉、兒玉、七本木村)

大畑健二郎 藥種商
妻 や 明一三、一〇生、東京、矢吹藤次郎長女
君は大阪府人西島芳兵衛の兄にして明治三年十一月を以て生れ同三十年先代たかの入夫となり家督を相続す現時前記各會社の重役たり諸曲の趣味あり妻兄大三郎(安政三、二生)は分家せり(大阪、西、靱南通三ノ二三電土佐堀二六六)

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑健二郎 藥種商
妻 や 明一三、一〇生、東京、矢吹藤次郎長女
君は大阪府人西島芳兵衛の兄にして明治三年十一月を以て生れ同三十年先代たかの入夫となり家督を相続す現時前記各會社の重役たり諸曲の趣味あり妻兄大三郎(安政三、二生)は分家せり(大阪、西、靱南通三ノ二三電土佐堀二六六)

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑健二郎 藥種商
妻 や 明一三、一〇生、東京、矢吹藤次郎長女
君は大阪府人西島芳兵衛の兄にして明治三年十一月を以て生れ同三十年先代たかの入夫となり家督を相続す現時前記各會社の重役たり諸曲の趣味あり妻兄大三郎(安政三、二生)は分家せり(大阪、西、靱南通三ノ二三電土佐堀二六六)

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑健二郎 藥種商
妻 や 明一三、一〇生、東京、矢吹藤次郎長女
君は大阪府人西島芳兵衛の兄にして明治三年十一月を以て生れ同三十年先代たかの入夫となり家督を相続す現時前記各會社の重役たり諸曲の趣味あり妻兄大三郎(安政三、二生)は分家せり(大阪、西、靱南通三ノ二三電土佐堀二六六)

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

大畑健二郎 藥種商
妻 や 明一三、一〇生、東京、矢吹藤次郎長女
君は大阪府人西島芳兵衛の兄にして明治三年十一月を以て生れ同三十年先代たかの入夫となり家督を相続す現時前記各會社の重役たり諸曲の趣味あり妻兄大三郎(安政三、二生)は分家せり(大阪、西、靱南通三ノ二三電土佐堀二六六)

大畑義雄 大阪商工會議所議員、大林組、日本土木建築業聯合會會長
君は大阪府人大畑義雄の長男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相続す早稲田大學商科に學び後歐米に遊ぶ父業を繼ぎ土木建築請負業を營み其の著名なるものに東京驛日本興業銀行歌舞伎座大阪ビル住宅ビル生駒隧道等あり尚桃山多摩兩御陵御造營工事に際し其の施行の榮を荷ひ我邦第一流の稱あり現時前記會社の重役にして大阪商工會議所議員たり姉ふみ(明二五、七生)は分家して福島縣人藤原賢四郎に嫁す(大阪、東、今橋五ノ一六電番五〇二二) 參照 子爵上原勇作、大林木局五〇二二

皇室の式儀を概き力を王事に盡す其子重實亦王事に力む先代重朝は其長男にして明治十七年子爵を授けられ同二十一年祖父重徳の勳功に依り伯爵に陞する外務省式部職各御用掛被仰貴族院議員となる君は重朝の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正七年襲爵す明治四十年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し貴族院議員に擧げられしも現時御歌所參候たり家族は尙養妹慶子(明三六、一〇生、叔父定二女)あり兄翁(同七、五生)は分家し弟重季(同一九、一〇生)は子爵秋田映季の養子となり襲爵し同義實(同二二、三三)は伯爵柳原義光の養子となり名を博光と改め叔父定(同八、六生)は東京府人岩倉成子の入夫となり(東京、牛込、市谷藥王寺町七四電牛込五〇三)

子爵藤原高寛子爵青山幸宜子爵大島陸太郎の項

大原庄太郎

大原縣製糖所主、印刷業
大阪府在籍
妻 たま 明二、三、愛知、日比野幸次
男 庄之祐 明四二、一〇生
女 正子 大元、一〇生

君は愛知縣人、大原藩左衛門の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正十年家督を相続す大原製糖製作所主にして印刷業を營む家族は尙二男英二郎(大正、七生)の外弟治郎(明二九、一〇生)同妻よし(同三五、九生、滋賀、石居甚四郎三女)及び同喜伴(同三四、八生)あり(大阪、西、京町堀上通二、一五電土佐堀七五〇)

大原利文

從五位勳五等、列事、廣島控訴院
妻 末子 明二、八、八生、岡山、入澤賢治妹

君は岡山縣士族大原利武の弟にして明治十四年一月を以て生れ同四十二年前名敏三を改む同三十八年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十年列事に任じ爾來福島地方中津廣島地方兼同區玉島岡山同區同地方米子區山口地方各裁判所判事に歴補し大正九年廣島控訴院判事に轉じ現在に至る義に大正十五年歐米へ出張を命ぜらるる家族は尙兄利武(明八、一〇生、現戸主)同妻

與野(同一九、一〇生、岡山、北川親太郎長女)及其一子あり(廣島市控訴院官舎)

大原直次郎

日本信託銀行 監査役
京都府在籍
妻 ラク 明一三、一〇生、京都、宮本敬藏長女

君は京都府人、大原藩右衛門の二男にして明治七年十月を以て生れ大正十二年家督を相続す現時日本信託銀行監査役たり弟英吉(明一九、一〇生)は同妻カノ(同二五、七生、京都、正澤友吉長女)を伴ひ分家し同千之介(同二五、六生)も亦分家せり(兵庫、武庫、大社村森具松ノ下四〇六)

大原昇

從五位勳六等、檢事兼司法書記官
東京府在籍
妻 明子 明一、一〇生、農學博士大工原

君は兵庫縣士族大原源右衛門の孫にして明治二十三年四月を以て生れ同四十二年家督を相続す大正三年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し司法官試補となり現時列事に任じ東京地方兼同區各裁判所判事東京地方裁判所部長に歴補し同十二年檢事に轉じ東京地方裁判所判事に任じ司法書記官を兼ね刑務局長大臣官房保護課に勤務す昭和二年歐米各國へ出張を命ぜらるる家族は尙二女春子(大、一〇生、三女芳子(同二二、四生)あり叔父晴雄(明二二、一〇生)は同妻ゆき(同一八、二生、兵庫、土、馬島煥二女)と共に分家せり(東京市外入新井町於伊勢原二一六四電大森一五一〇)

大原坦

伊東水力電氣(株)社長、伊豆水力電氣、東海自動車各(株)取締役
伊東温泉旅館組合長、伊東館、旅館、静岡縣在籍
妻 いわ 慶應三、七生、静岡、山川壽作三女

君は東京府士族大原直徳の二男にして明治八年十一月を以て生れ同三十一年家督を相続す義に東洋生命保險會社理事部長兼統計部長馬場會社取締役たりしが現時東洋生命保險會社常務取締役たり家族は尙三男宏(明四三、二生)四男直行(大、一〇生)五男貞行(同六、八生)三女喜代(同九、七生)あり弟義雄(明二三、六生)は其妻かね(同三三、七生、東京、大藏延太郎長女)と共に二男を伴ひ分家せり(東京市外淀橋町柏木成子一三一電四谷一三三)

大原義剛

勳四等、九州日報社長
福岡縣士族
妻 スミ 明一、一〇生、福岡、大島梅太

君は福岡縣士族先代嘉平次郎の長男にして慶應元年四月

一年大原隆平より分家して一家を創立す伊東館と稱し旅館業を營み傍ら前記各會社の重役として知られ伊東温泉旅館組合長たり家族は尙孫大(大九、七生、二男完吾長男)同康男(同一二、三三、二男)同達也(同一五、二生、同三男)あり養子盛枝(明一八、四生、静岡、大原眞平四男、東京高等商業學校出身)同妻まき(同二四、七生、東京、仙石たけは)は其子女を伴ひ分家し二女好子(同三三、一〇生)は熊本縣人内藤武夫に三女みさを(同三六、二生)は岩手縣士族柴田兵右衛門孫兵一に嫁せり(静岡、田方、伊東町)

大原博

山梨縣多額納稅者、農業
山梨縣在籍
妻 新 安政元、六生、山梨、奥脇九郎左

君は山梨縣人、大原藩の弟にして明治二十三年九月を以て生れ先代新博の養子となり大正五年家督を相続す農業と現に縣下の多額納稅者たり家族は尙二男暢(大、九生)長女増子(同五、五生)三男恒雄(同八、八生)四男孝吉(同一、三三)二女澄子(同一四、三三)あり(山梨、南都留、開地村)

大原孫三郎

從七位勳六等、退役陸軍騎兵中尉、百十七銀行(株)頭取、伊那電氣鐵道(株)取締役、長野縣在籍
妻 新八郎 嘉永二、七生

大原家は備中倉敷の素封家として知らる先代孝四郎は夙に地方實業に意を注ぎ倉敷實業會を興し貧困兒童就學の途を開き又岡山孤兒院を創設し不遇兒童の養育に資せる等其篤行善く世人の知るところなり君は其の二男にして明治十三年七月を以て生れ同三十七年家督を相続す夙に早稲田大學に學び現に前記各會社の重役として關西實業界に重きをなす又私財を投じて大原

大原裕郎

從七位勳六等、退役陸軍騎兵中尉、百十七銀行(株)頭取、伊那電氣鐵道(株)取締役、長野縣在籍
妻 新八郎 嘉永二、七生

君は長野縣人、大原新八郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ大正十五年家督を相続す現に百十七銀行頭取たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙三男節藏(明四三、二生)妹のぶ(同三三、八生)あり弟節平(同三一、一〇生)は愛知縣人北村七郎平の養子となり姉しつ(同四、三三)は長野縣人上柳謙に同ひる(同七、九生)は同縣人太田實三に養妹ミメ(同二四、二生)長野、渡東妹)は同縣人林義男に嫁せり(長野、下伊那、千代村)

大平喜代松

東京米穀商會取引所第一部取引員
東京府在籍
妻 みね 明一、一〇生、三重、水谷藤八

君は三重縣人大平半三郎の三男にして明治五年十一月を以て生れ同二十四年家督を相続す現に東京米穀商會取引所第一部取引員たり家族は尙三女喜美枝(大、三五生)あり弟留次郎(明八、九生)は分家せり(東京、日本橋、橋本町一ノ二電芝草場町三四七九)

大原政吉

日本ベニヤ製材(株)代表取締役、池田工業(株)監査役
神奈川縣在籍
妻 フク 明一、五、八生、神奈川、久保田與

君は神奈川縣人、先代清助の長男にして明治四年四月を以て生れ同十六年家督を相続す現時日本ベニヤ製材會社代表取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男昌之助(明四二、七生)三男潤三(同四五、一〇生)二女夫(大、三五)四男秀夫(同七、三三)五男保亮(同九、八生)あり横濱、中、木牧町八王子二九七一電本局六五四)

大原松之助

神東興業(株)取締役、丸正海運(株)監査役、造船鐵工業
大阪府在籍
妻 フミ 明一、三、四生、福岡、土、石川清

君は大阪府人、大原儀助の長男にして明治十一年九月を以て生れ同二十四年家督を相続す大原造船鐵工業所を經營し傍ら前記各會社の重役たり家族は尙三男貞雄(明四五、一〇生)四女つる(大、一〇生)五女まつ(同八、八生)及び弟恒六郎(明三八、三三)あり姉ヤエ(同八、二生)は同夫久治郎(同八、二生、兵庫、木内源助二男)及其一子を伴ひ分家し弟恒助(同一八、二生)從姉トヲ(同八、二生)も亦各分家し妹津彌子(同三三、七生)は兵庫縣人廣田忠吉に嫁せり(大阪、西、本田三番丁二五六電西一九四一)

大原萬壽雄

東洋生命保險(株)常務取締役
東京府士族

大原義雄

明四〇、三三

大原義雄

明四〇、三三

大原義雄

明四〇、三三

大原義雄

明四〇、三三

大平 賢作

住友銀行(株)常務取締役、昭和銀行(株)監査役、新潟縣在籍、製造所安政四、一、生、新潟、大平清左衛門二女

大平 得三

從五位、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務、山形縣在籍、母 元治元、九、生、靜岡、土阿島清四女

大平 睦四郎

酒造業、福島縣在籍、母 慶應元、四、生、福島、猪狩吉太郎妹、妻 マチイ 明一、九、生、養父兵助二女

大平 要太郎

廣島縣多額納稅者、桑田銀行、福山銀行、輕便鐵道、西備輕便鐵道、福山瓦斯、西備輕便鐵道、山陽各(株)取締役、福山製糖(株)監査役、福山製糖(株)監査役、福山製糖(株)監査役、福山製糖(株)監査役、福山製糖(株)監査役

大平 米七

武藏屋、足袋商、大阪府在籍、母 慶應二、一〇、生、祖父米七二女、妻 ハナ 明三、七、生、大阪、多田幸治郎

大藤 高彦

正三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授、京都府在籍、妻 行長女 明一、七、生、愛知、土、丹羽忠高 明二、九、生、長男高英妻、法學博士粟津清亮長女

大藤 直哉

從五位勳五等、復興局技師、東京第四出張所勤務、福井縣在籍、母 安政三、一、生、福井、土、美濃妻 タツ 明一、九、二、生、東京、頭山滿長女

大星 皖是

北海道多額納稅者、請負業、北海道在籍、母 明八、六、生、北海道、苗川清右衛門長女

大星 謙平

北海道多額納稅者、土木建築請負業、北海道在籍、母 明二、三、一〇、生、北海道、福井享二妹

大堀 補之丞

和歌山紡績(株)取締役、和歌山縣在籍、妻 信濃子 明一、三、七、生、現戶主

大堀 四方吉

千葉縣多額納稅者、醸造業、千葉縣在籍、母 明四、五、二、生、亡長男喜智郎平長男

大間知喜一郎 富山縣多額納稅者、富山信託(株)取締役、吳服商、富山縣在籍
母 ノリ 安政五、二生、富山、岡崎藤十郎
妻 眞知子 明三二、六生、富山、山田正平長女
男 喜年 大一一、七生
君は富山縣人先代喜一郎の二男にして明治二十四年一月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名義太郎を改む大正三年神戸高等商業學校を卒業し吳服商を営み傍ら前記會社の重役を兼ね現に縣下の多額納稅者たり家族は尙長女まさ子(大一一、一)四男則道(同一一、一、八)あり姉モト(同一二、二)弟信平(同一二、一、〇)生は各分家し妹エツ(同一三、〇)九生は東京府人山野清治に嫁せり(富山市衣服町一)

大前 光太郎 浴場主
妻 たね 明一三、一〇生、大前茂三良二女
男 勳太郎 明三六、一二生
女 千恵子 明四一、九生
君は兵庫縣人鷲尾左衛門の二男にして明治九年十一月を以て生れ大正三年弟正一の死跡を相續し浴場主にして資産家として知らる家族は尙五女政子(大四、四)生あり二男治雄(明三四、九)生は廢家大前氏を再興せり(神戸、野田町七、一五電報五九一)

大町 大作 廣島株式取引所(株)常務理事
妻 チカ 廣島七生、廣島、土、松林又一
男 茂 明二八、三三
女 ミチ子 明三三、一一生、愛媛、白石升治長女
君は廣島縣土族大町繁介の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治二十八年家督を相續す現に廣島株式取引

大海原重義 從四位勳三等、京都府知事
妻 登代 明二四、二生、文學博士三上參次長女
男 義雄 明四五、一五
女 靜子 大二、五生
君は滋賀縣土族大海原尙義の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正十二年家督を相續し明治四十四年東京帝國大學法政學科を卒業し文官高等試験に合格香川縣屬同事務官補熊本縣事務官埼玉縣長崎縣警務部長長官各縣知事に任じ昭和二年五月内務省神戶局長兼造船官副使に任じ同七月現職京都府知事に轉ず家族は尙二男邦重(大三、九)三男武重(同一五、七)あり姉母おと(同一四、二)生、滋賀、山村芳夫婦)は山形縣人山崎信一に嫁せり(京都、上京、鳥丸通中立賣上ル知事官舎電報四九五)

大湊直太郎 正五位勳三等功四級、海軍少將、第三艦隊司令官、山形縣土族
妻 てい 明二三、六生、山形、島良知妹
君は山形縣土族大湊準助の長男にして明治十二年七月を以て生れ同十四年家督を相續す同十四年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ大正十四年海軍少將に累進す其間山城艦隊長第一艦隊參謀長兼聯合艦隊參謀長海軍總務學校長等に歴補し昭和二年第三艦隊司令官に補せらる(横須賀市)

大宮 以季 從二位勳三等、子爵
妻 智 明一八、八生、子爵小倉英季四男長女
君は内大臣西園寺公益の次男中將季光の後なり季光別に一家をなし大宮と稱すそれより七世を経て先代公典に至る君は其の長男にして安政五年一月を以て生れ明治十七年子爵を授けらる同三十年以來貴族院議員に當選すること四回又義に明宮御用掛侍從たりしことあり家族は尙庶子正二(大元、八)生、生母、滋賀、下川久(あり二女知子(同一六、一)生)は奈良縣人北想太郎に嫁せり(京都市外花園村春日八電報二二八)參照 子爵小倉英季子爵西園寺公典參照男爵北大路實信の項

大宮 楠馬 神城セメント(株)常務取締役
妻 よし 明二二、一五生、長野、小山米次郎長女
君は東京府人先代五左衛門の二男にして安政六年十一月を以て生れ明治三十一年家督を相續し翌三十二年襲

大村 繁松 岡山縣多額納稅者
妻 乙女 明一六、一五生、岡山、堀政次養母
君は廣島縣人岡山大村島平の長男にして明治五年九月を以て生れ同二十一年家督を相續す家前にして岡山縣多額納稅者たり家族は尙養子元雄(明四三、八)生、岡山、難波與市二男あり姉タケ(萬延元、八)生は岡山縣人清水重吉に養子(明三四、一)生、岡山、清水重吉養子)は廣島縣人太田敬夫に嫁せり(岡山市上西川町一五〇)

大村 卓一 正四位勳二等、朝鮮總督府鐵道局長
妻 ゆき 明一四、二生、東京、榑部信一妹
君は福井縣土族大村素庵の長男にして明治五年二月を以て生れ同二十六年家督を相續す同二十九年札幌農學校工科を卒業し北海道鐵道會社同技術師を経て同三十五年鐵道事業視察の爲め歐米及シベリヤに出張し歸朝後帝國鐵道技術師鐵道院技術師等を経て昭和二年大正九年以來前後二回支那政府の顧問として又山東鐵道局長に任ぜらる家族は尙四男潤四郎(大三、三)三男鐵道局長に任ぜらる(五女和子(同一四、三)生)の外弟信夫(明二五、六)生、同妻知恵(同一三、一)生、東京、江越信胤妹)あり長女美代(同一三、四)生は山口縣人石川正義に二女ヨシ子(同一四、〇)生は同縣人大中尾(同一九、一)生は岩手縣人芳賀龜太郎に嫁し弟外人(同一三、八)生は其妻まさ(同一三、一)生、北海道、高橋宗吉(四女)と共に分家せり(京城、朝鮮總督府鐵道局長官舎)

大村 武純 從四位、男爵
妻 純之 大二、四生、亡養子純之長女
君は舊肥前大村藩主大村純顯の二男にして嘉永二年八月を以て生る風に勤王の志を懐き維新の際國事に奔走して功あり明治四十二年男爵大村純顯の家より分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる長男純英(明五、一)生は宗家伯爵家の當主たり(長崎、東彼杵、大村町)參照 伯爵大村純英養子子爵竹内惟斌子爵長岡護孝の項

大村 純英 從三位勳三等功五級、伯爵、陸軍少將、舊大村藩
妻 計舞 安政六、五生、先々代純顯四女
君は廣島縣人太田敬夫に嫁せり(岡山市上西川町一五〇)

大村 貞藏 島根縣多額納稅者、松井銀行(株)監査役、農業、島根縣在籍
妻 セン 明七、一〇生、養父喜十長女
君は島根縣人勝部本右衛門の叔父にして明治三年七月を以て生れ後先代キチの養子となり同二十九年家督を相續す同二十八年東京法學院を卒業し現時松井銀行監査役にして島根縣多額納稅者たり家族は尙八女萬喜子(大四、一)生、孫通雄(昭二、三)生、長男義雄(長男あり長女幸子(明二七、七)生)は島根縣人安田來藏二男泰平に二女富壽子(同一九、一)生)は同縣人木佐徳三郎長男徳之助に四女淑子(同一五、三)生)は山口縣人法學士司法官富村齊男に五女美和子(同一四、一)生)は鳥取縣人奥田龜造二男男に六女眞佐子(同一四、一)生)は同縣人坂口豊藏長男清太郎に嫁し三男泰吉(同一三、六、一)生)は島根縣人櫻井千代子の入夫となり(島根、蘇川、杵築町)參照 奥田龜造、木佐徳三郎參照宗戸嘉惠次の項

大村友之丞 京城商工會議所書記長
妻 コフ 嘉永四、一五生、島根、兒玉團兵衛長女
君は島根縣土族大村半之丞の長男にして明治四年一月

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

大村 信行

從四位勳三等功四級、豫備陸軍中將、山口縣在籍

妻 キミ 明七、九生、山口、國弘彦市長女
男 敏 風 明二九、一、二生

女 清子 明四一、一生
吉武唯二、二女

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

大村 信善

北海道探炭(株)常務取締役、有隣生命保險(株)監査役、鳥取縣土族

父 千次郎 文久二、八生、滋賀、土、芳賀津
母 ミネ 慶應元、一〇生、鳥取、土、大村

君は鳥取縣土族大村千次郎の長男にして明治十八年六月を以て生れ同三十八年其名信善を改む...

大村 彦一

白木屋英服店(株)取締役、大村保全(名)代表社員、京都府在籍

妻 茂子 明三一、二、三、男爵三井壽太郎妹
男 明三、一生、男爵鴻池善右衛門妹

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

大村 秀太郎

染色業、京都府在籍

妻 千代 明二二、二〇生、京都、祇市兵衛
男 明二、二〇生、京都、祇市兵衛

君は京都府大村正太郎の長男にして明治四十四年一月を以て生れ大正十四年家督を相続す...

大村 泰敏

從五位、子爵、東京府華族

妻 ウメ 明一二、二生、男爵福原俊九妹
母 明二、二〇生、男爵福原俊九妹

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

大村 平次郎

藥種商、大阪府在籍

妻 元 明一七、五生、三重、的屋勝姉
男 廣 明三七、一、一生

君は大阪府人酒井平一の三男にして明治二十一年一月を以て生れ先代平次郎の養子となり...

大村 泰敏

從五位、子爵、東京府華族

妻 ウメ 明一二、二生、男爵福原俊九妹
母 明二、二〇生、男爵福原俊九妹

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

大村 佳一

從四位勳四等、男爵、群馬縣知事

妻 愛子 明二七、五生、東京、土、野村龍太郎
男 俊一 大一、一、一生

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

大村 齊

正五位勳三等功三級、陸軍少將、陸地測量部長、測地學委員會委員、東京府在籍

妻 初枝 明一九、九生、東京、山田文太郎長女
男 進 明四四、三生

君は北海道大村欣一の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十三年分家して一家を創立す...

大村 平次郎

藥種商、大阪府在籍

妻 元 明一七、五生、三重、的屋勝姉
男 廣 明三七、一、一生

君は大阪府人酒井平一の三男にして明治二十一年一月を以て生れ先代平次郎の養子となり...

大村 泰敏

從五位、子爵、東京府華族

妻 ウメ 明一二、二生、男爵福原俊九妹
母 明二、二〇生、男爵福原俊九妹

君は山口縣大村久兵衛の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す...

大森 貞太郎

伊豫鐵道電氣、松山商事各、株、取締役、愛媛縣在籍

妻 スエ 安政六、七生、愛媛、安田周藏養子
母 明三〇、一、一生、愛媛、清水利吉長女

君は愛媛縣人先代貞太郎の二男にして明治十七年四月を以て生れ大正三年家督を相続し...

大森 斌彦

醫學博士、大森醫院長、醫師、岡山縣土族

妻 健八郎 慶應三、一、一生、岡山、土、山本
母 明九、三生、岡山、花房幸吉長女

君は岡山縣人先代貞太郎の長男にして明治二十一年二月を以て生れ大正三年京都帝國大學醫學部卒業し...

大森 卯之太郎

常務銀行(株)取締役、茨城縣在籍

妻 千代 明三七、三生、三男三郎妻、茨城縣在籍
母 明三、一、一生、茨城、土、吉久保

大矢忠助 カネキ商店、名古屋米穀取引所取引員、愛知縣在籍

大矢直吉 資産家、愛知縣在籍

大矢武兵衛 從七位勳八等、神奈川縣多額納稅者、神奈川縣在籍

大矢奈良吉 大矢組(株)社長、機械製作販賣及精米業、大阪府在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大矢直吉 資産家、愛知縣在籍

大矢武兵衛 從七位勳八等、神奈川縣多額納稅者、神奈川縣在籍

大矢奈良吉 大矢組(株)社長、機械製作販賣及精米業、大阪府在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大矢芳之助 佐野正、貴金屬商、東京府在籍

大屋敦 工業各(株)取締役、住友(資)經理部長、東京府在籍

大家七平 石川縣多額納稅者、大家商事(株)社長、大聖寺川水電(株)取締役、大日本火災海上再保險(株)監査役

大藏千太郎 櫻田機械製造所(株)取締役、兵庫縣在籍

大藏常次郎 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大矢忠助 カネキ商店、名古屋米穀取引所取引員、愛知縣在籍

大矢直吉 資産家、愛知縣在籍

大矢武兵衛 從七位勳八等、神奈川縣多額納稅者、神奈川縣在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大矢忠助 カネキ商店、名古屋米穀取引所取引員、愛知縣在籍

大矢直吉 資産家、愛知縣在籍

大矢武兵衛 從七位勳八等、神奈川縣多額納稅者、神奈川縣在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大矢忠助 カネキ商店、名古屋米穀取引所取引員、愛知縣在籍

大矢直吉 資産家、愛知縣在籍

大矢武兵衛 從七位勳八等、神奈川縣多額納稅者、神奈川縣在籍

大宅善基 熊本縣多額納稅者

大藏兼藏 京都府多額納稅者、京都府在籍

大藏金次郎 製材業、京都府在籍

四生、同四男)あり二男金次郎(明二六、一一生)は其妻を伴ひ長女金枝(同二九、一一生)も亦其夫太三(同二一、六生)と共に各分家し二女操(同三四、三三)は京都府人梅垣源兵衛長男源一に嫁せり(京都、下京、西ノ京樋口町一三九電西陣四〇二)

大蔵 守治

君は福岡縣多額納稅者、九州水力電氣、杖立川水力電氣各(株)取締役、福岡縣在籍

泰之(同一、七生)三女信子(昭二、五生)の外妹ハルエ(明一八、四生)弟榮雄(同三六、五生、京都府立醫科大學在學)あり姉チエヨは廣島縣人森原陽三に妹タキヨ(明二一、四生)は岡山縣人眞田文六三男正一郎に同慶子(同三三、一一生)は同縣人片山信雄に嫁せり(京都、紀伊、深草町電伏見二七一)

大蔵 文雄

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は兵庫縣土族にして明治十三年九月を以て生れ後家督を相続す同三十八年早稻田大學政治經濟學科を卒業し直ちに同校講師となり後留學生として英國に遊學す四年の後歸朝して同校教授に任ぜられ大正六年大阪朝日新聞社に入社し後同社を退き再び早稻田大學教授たりしが機運に乗じ同十五年労働農民黨の結成せらるるや中央執行委員長に擧げられ黨務を統轄せり政治の社會的基礎外著書數種あり(東京市外戶塚町六九一)

大山 文雄

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は福岡縣人先代次郎の長男にして明治二年八月を以て生れ大正三年家を相続し前名久三郎を改め襲名す現時日向銀行取締役に於て縣下の多額納稅者たり家族は尙養子久八郎(大五、三三)養子タマエ(私生子)同三一、九生、同長女(同五一、一一生)同二男(同二二、一一生)黒木與五郎(同六、一一生)同妻シン(同一、一一生)黒木與五郎(同六、一一生)同妻シン(同一、一一生)黒木與五郎(同六、一一生)同妻シン(同一、一一生)

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

大山 次郎

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十四年一年家を相続す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判事任用試験に及第し司法官候補に任じ次いで理事候補となり同理事に進み爾來第十第一第五各師團長補佐第七第十各師團長補佐第十師團長補佐各職務を歴任し現時陸軍法務官兼陸軍司法事務官陸軍監獄長の官職にあり著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二女昭子(大五、九生)二男隆(同八、一一生)三男

オヲ之部 大(山)

(※印は姻族關係)

當家は先代殿より家名を揚ぐ歴は舊鹿兒島藩士大山彦八の二男にして維新の際國事に奔走して功あり明治四年陸軍大佐に任じ累進して陸軍大將に陞り元帥府に列せらる其間留學或は視察の爲め歐洲に航すること三回 熊本鎮臺司令官征討別働第一旅團司令官陸軍少補陸軍師代理兼東京鎮臺司令官參謀本部次長陸軍士官學校長内務大輔大警視廳定官參謀陸軍師參謀本部次長陸軍大臣兼海軍大臣監軍文部大臣樞密顧問官參謀總長内大臣等に歴任し同十七年華族に列し伯爵に陞り日清戰役には第二軍司令官として勳功あり侯爵に陞され功二級を賜ひ爵として偉勳を奏し公爵に陞され功一級を賜ふ君は嚴の二男にして明治二十二年六月を以て生れ大正五年襲爵す明治四十三年陸軍歩兵少尉に任じ大正九年同大尉に陞る其間參謀本部附近衛歩兵第三聯隊附等に歴任し現時貴族院議員にして昭和三年應慶義塾大學教授に任ず趣味廣く就中史學に造詣深し家族は尙二男桂(大六、一〇生)三男輝(同八、八生)長女咲子(同二〇、三三)あり姉美善子(明一三、八生)は男爵細川一之助に同留子(同一五、七生)は伯爵渡邊昭先代千春に同久子(同一七、一一生)は男爵井田芳楠に從姉米(同一六、四生)は神奈川縣人村田重義に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町九電青山二五)

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

大山 喜四郎

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十四年通信管理局技師に任ぜられ爾來通信技師通信技師臨時電話建設局技師仙臺及名古屋通信局工務課長等に歴任し昭和二年大阪通信局工務課長に轉じ

太田宇兵衛

大阪府多額納税者、履物商
大阪府在籍
妻 三女
養子 唯吉 明一六、一〇生、長女テル夫、京
女 テル 明一九、七生、養子唯吉妻
女 アイ 明二一、一〇生
女 セイ 明二六、一一生

太田馬太郎

日本書籍(株)取締役兼支那人、共
同印刷(株)監査役、東京府土族
妻 チイ 明一六、一二生、新潟、名達半十
郎二女
男 勤之 大二、四生
女 正枝 明四〇、六生
女 敬子 明四三、三三

太田嘉太郎

正五位勳三等、警務部附局理事、
總務部長、山口縣在籍
妻 ナカ 明一四、六生、山口、世良源八妹
男 嘉英 明六、七生
女 静子 明四〇、四生、府立第二高等女學
女 園子 明四二、一一生

太田吉治郎

長野縣多額納税者、酒造業
長野縣在籍
妻 玉雄 明一七、一二生、長野、百瀬涉太
郎妹
男 宗一郎 明四三、一〇生
養子 與八 明三〇、九生、長女益子夫、長野、
等々力政次四男
女 益子 明三七、一一生、養子與八妻
女 歌子 明四〇、一〇生
女 重子 明四二、七生

太田久七

東京府多額納税者、萬久、味噌醬
油商、東京府在籍
妻 むめ 明二五、二生、埼玉、平林朝之助妹
男 備一 明四二、二生
君は東京府人太田久七の四男にして明治十二年九月を
以て生れ大正七年家督を相続し前名益之輔を改む萬久
と稱し味噌醬油商を営み東京府多額納税者たり家族は
尙四男善治(大二、八生)五男益造(同五、二生)長女て
い(同二〇、三生)あり(東京、本所、向島須崎町一七〇
電番田六〇一)

太田金彌

養産家
妻 きく 明二一、一生、群馬、早川喜平二女

太田信

明四四、五生
君は静岡縣人榎葉幸藏の弟にして明治十八年一月を以
て生れ同四十二年太田治郎吉の養子となる大正二年東
京帝國大學法科大學政治學科を卒業同年文官高等試験
に合格し稅務監督局屬となり爾來副稅務官同稅務監督
監督局事務官仙臺京橋各稅務署長大阪稅務監督局副理
部長仙臺稅務監督局直稅部長廣島稅務監督局副理部長
事務取扱等に歴任し現時前記の職に在り家族は尙長女
道子(大三、四生)二女淳子(同二〇、二生)あり(名古屋、
中、向田町一四)

太田開助

長崎縣多額納税者、海軍用達業
長崎縣在籍
妻 イッ 明八、九生、佐賀、土、岸田永吉長女
男 貞吉 明四三、一二生
女 文 明四〇、七生

太田龜太郎

從五位勳六等、稅務監督官、名古屋
稅務監督局附屬、長野縣在籍
妻 治郎吉 安政六、二生、現戶主
養母 てい 明一九、九生、養父治郎吉長女
妻 しげ 明一九、九生、養父治郎吉長女、
日本女子大學家政科出身

太田龜太郎

從五位勳六等、稅務監督官、名古屋
稅務監督局附屬、長野縣在籍
妻 治郎吉 安政六、二生、現戶主
養母 てい 明一九、九生、養父治郎吉長女
妻 しげ 明一九、九生、養父治郎吉長女、
日本女子大學家政科出身

太田九八郎

愛知縣多額納税者、酒造業
愛知縣在籍
妻 ゆき 明三二、二生、愛知、太田治三郎
長女

太田倉之助

秋田縣多額納税者、農業
秋田縣在籍
男 竹松 明五、六生
女 キセ 明一〇、一二生
男 徳治 明一九、三生

太田勘太郎

福岡縣多額納税者、博多商工會議
所常議員、福岡市參事會、八幡
海陸物產市場(株)社長、九州勸業
(株)監査役、醬油醸造業
福岡縣在籍
妻 チヨ 明一七、一生、福岡、藤井隆太郎姉
男 嘉一郎 明一七、一生、福岡、藤井隆太郎姉
妻 六郎 明二七、九生、長女タキ夫、福岡、
高木信吉五男
養子 タキ 明二八、九生、養子六郎妻
女 タキ 明二八、九生、養子六郎妻

太田儀兵衛

太田製油場(資)社員、製油業
大阪府在籍
妻 コト 明一三、一生、大阪、中谷兼三
長女
男 重雄 明三七、一〇生
女 房子 明四〇、九生

太田儀兵衛

太田製油場(資)社員、製油業
大阪府在籍
妻 コト 明一三、一生、大阪、中谷兼三
長女
男 重雄 明三七、一〇生
女 房子 明四〇、九生

太田圭助

十七銀行(株)常務取締役、九州勸
業(株)取締役、太田商事(株)監査
役、福岡縣在籍
妻 清藏 文久三、八生、現戶主
養父 シマ 明一九、七生、養父清藏長女
男 敬次 明一〇、一〇生

太田花子

明三一、四生、三男徳治妻、福井
鈴木敏長女
孫 アキ 明四四、一〇生、五女キナ私生子
君は秋田縣人齋藤與八郎の長男にして嘉永元年十二月
を以て生れ後同縣人太田永重郎の養子となり明治七年
分家して一家を創立す夙に山林の整理植栽及び荒蕪地
の開拓桑園の經營蠶業の獎勵等公共事業に力を致す農
業を営み現に縣下の多額納税者として知らるる家族は尙
孫二郎(大五、七生、五女キナ私生子)同末治(同九、六
生、同上)同實(同六、一〇生、三男徳治長男)同次郎
(同九、一〇生、同二男)同三郎(同四、一三、二生、同三
男)同茂世子(昭二、三三、同長女)あり二女タキ(明
七、一二生)は秋田縣人山口伊右衛門に六女ツネ(同
一六、八生)は外養祖父太田永重郎長男永吉に七女キ
クエ(同二二、一〇生)は同縣人坂本源吉弟善三郎に
八女ヤエ(同二四、六生)は同縣人二坂吉助に嫁し五男
東市郎(同二二、一〇生)は同縣人伊藤勇藏孫清治長女ト
キエの婿養子となり庶子孝治郎(同四、一六、生母、
秋田、池田ヨシ)は同縣人太田與八郎の養子となり四
男重太郎(同二〇、六生)は同妻シン(同三三、三三、
秋田、大黒政雄妻)及び其長男邦輔(大一一、一生)
を伴ひ六男豊四郎(明二五、一〇生)は其妻節(同三
六、五生、秋田、鈴木清三郎庶子)と共に各分家し二
男與八郎(同二七、六生)も亦分家せり(秋田、仙北、
長野町)

太田花子

明三一、四生、三男徳治妻、福井
鈴木敏長女
孫 アキ 明四四、一〇生、五女キナ私生子
君は秋田縣人齋藤與八郎の長男にして嘉永元年十二月
を以て生れ後同縣人太田永重郎の養子となり明治七年
分家して一家を創立す夙に山林の整理植栽及び荒蕪地
の開拓桑園の經營蠶業の獎勵等公共事業に力を致す農
業を営み現に縣下の多額納税者として知らるる家族は尙
孫二郎(大五、七生、五女キナ私生子)同末治(同九、六
生、同上)同實(同六、一〇生、三男徳治長男)同次郎
(同九、一〇生、同二男)同三郎(同四、一三、二生、同三
男)同茂世子(昭二、三三、同長女)あり二女タキ(明
七、一二生)は秋田縣人山口伊右衛門に六女ツネ(同
一六、八生)は外養祖父太田永重郎長男永吉に七女キ
クエ(同二二、一〇生)は同縣人坂本源吉弟善三郎に
八女ヤエ(同二四、六生)は同縣人二坂吉助に嫁し五男
東市郎(同二二、一〇生)は同縣人伊藤勇藏孫清治長女ト
キエの婿養子となり庶子孝治郎(同四、一六、生母、
秋田、池田ヨシ)は同縣人太田與八郎の養子となり四
男重太郎(同二〇、六生)は同妻シン(同三三、三三、
秋田、大黒政雄妻)及び其長男邦輔(大一一、一生)
を伴ひ六男豊四郎(明二五、一〇生)は其妻節(同三
六、五生、秋田、鈴木清三郎庶子)と共に各分家し二
男與八郎(同二七、六生)も亦分家せり(秋田、仙北、
長野町)

太田源七

山梨縣多額納稅者
山梨縣在籍
妻 明三、二生、長男源策、山梨、
男 源策、明三、二生、長男源策、山梨、
女 志津、山梨、二生、長男源策、山梨、

太田五平

正五位勳四等、高知州知事
妻 千世、二生、現戸主
男 純一、大生、三生、
女 静、明四、五、六、

太田孝太郎

岩手日報社、盛岡倉庫各株社長、
盛岡銀行、陸奥電力、三陸水産冷蔵、
盛岡信託、盛岡土地建物、盛岡電燈、
九戸水力電氣各株監査役
妻 手紙、盛岡、

母 萬延元、九生、岩手、江釣子吉亨
妻 サタ、明一、八生、岩手、士、坂本三郎

太田幸五郎

岩手縣多額納稅者、岩手縣農工銀行、盛岡銀行、盛岡信託、岩手無
妻 幸五郎、明一、一、宮城、菅原新作三女
男 幸五郎、明一、一、宮城、菅原新作三女
女 幸五郎、明一、一、宮城、菅原新作三女

太田佐七

大阪美術俱樂部、取給役
妻 佐七、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 佐七、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 佐七、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田佐兵衛

神奈川縣多額納稅者、横濱商工會
妻 佐兵衛、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 佐兵衛、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 佐兵衛、明一、一、生母、大阪、杉浦

妻 カウ、明二〇、四生、養父佐兵衛長女
男 佐喜造、明四、八生

太田清藏

君は神奈川縣人、井田清吉の二男にして明治十五年七月
妻 清藏、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 清藏、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 清藏、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田茂滿

鳥取縣多額納稅者、醫師
妻 茂滿、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 茂滿、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 茂滿、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田清治郎

濱松銀行、取給役
妻 清治郎、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 清治郎、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 清治郎、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田實三

山本郵便局長、長野縣在籍
妻 ちひろ、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 實三、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 實三、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田正次

大阪府在籍、取給役代表
妻 ミチ子、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 正次、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 正次、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田正太郎

精肉商、東京府在籍
妻 タネ、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 正太郎、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 正太郎、明一、一、生母、大阪、杉浦

大阪堂島米穀取引所取引員
妻 宗輔、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 宗輔、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 宗輔、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田新吉

第一微兵衛、取給役
妻 新吉、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 新吉、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 新吉、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田資業

從四位、子爵
妻 資業、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 資業、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 資業、明一、一、生母、大阪、杉浦

太田清藏

貴族院議員、福岡縣多額納稅者、
博多商會、博多商工會議所、博多商工
妻 清藏、明一、一、生母、大阪、杉浦
男 清藏、明一、一、生母、大阪、杉浦
女 清藏、明一、一、生母、大阪、杉浦

新吉 明二六、八生、法學士
圭助 明一七、五生
辨次郎 明三一、四生
房 明三八、一一生
明四 明四五、一一生

君は福岡縣人太田儀平の二男にして父久三年八月を以て生れ先代清藤の養子となり明治十三年家を相続し清藤を襲名す代々醬油醸造業を営み太田屋と稱す縣下の多額納税者にして福岡市會議員に擧げられ又博多電燈會社社長兼銀行頭取等に就任し明治二十九年福岡府議選出に際し自ら其頭取となり又議院議員に選出され現時貴族院議員博多商工會議所會頭たる外前掲諸會社の重役として名聲あり家族は尙四男清之助(明四一、一一生)あり二女テイ(同二四、四生)は福岡縣人西原連三に嫁キク(同三〇、一一生、弟大次郎長女)は大阪府人池永孝二の養子となり久四(同四四、九生)は京都府人松井チカの養子となり弟大次郎(同八、一一生)は分家せり(福岡市藤木町五〇電二四一)
 参照 太田圭助、太田新吉、太田松清の項

太田善四郎 岡崎電燈(株)取締役
 愛知縣在籍
 妻 ちか 慶應二、四生、愛知、士、大藤正
 男 贊 平 明一八、一〇生
 女 義 長 女 明一八、一〇生

太田惣吉 東京府多額納税者、地主
 父 幸 吉 安政四、一一生

明二〇、一一生、東京、大崎又三郎
明四一、二生

君は東京府人太田幸吉の長男にして明治十六年十二月を以て生れ同二十四年家を相続し前名幾太郎を改む地主にして東京府多額納税者たり妹ラク(明二二、一〇生)は愛知縣人松村貞次郎長男英一に嫁せり(東京市外大崎町上大崎五四三電高橋一六三二)
太田惣七 (株)監査役、東京府在籍、鈴木商店
 妻 ひさ 明七、四生、大阪、和田芳松二女
 男 秀 雄 明三三、一一生、長男秀雄妻、東京、石渡福松長女
 女 清 明三六、一一生、長男秀雄妻、東京、明三八、八生

太田太 三井物産(株)機械部参事
 大分縣在籍
 妻 アヤ 明二五、一一生、東京、士、山名次
 男 太郎 大三、一一生

君は大分縣人小野木與三郎の三男にして明治十年二月を以て生れ同三十二年太田ひさの入夫となり家を相続し前名泰次郎を改む現時大日本醸造會社取締役にして鈴木商店監査役たり家族は尙四男武夫(明四四、八生)二女富美子(大一〇、一〇生)あり(東京、小石川、竹早町三五電小石川六〇八七)
太田孝之 從五位、醫學博士、泉橋慈善病院小兒科部長、東京帝國大學醫學部講師、東京府在籍
 妻 雪 助 明二八、九生、貴族院議員上郎清

國大學醫學科大學を卒業し母校に助手たりしが同四十三歳を以て獨逸に留學し主として小兒科を研究す大正三年歸朝同五年醫學博士の學位を受け同年千葉醫學院小兒科教授に任ぜられしが同十一年是を辭す現に泉橋慈善病院小兒科部長にして傍ら母校醫學部に講師たり趣味として和洋の音楽及び劇を好む家族は尙長女道子(大一、二生)あり妹田鶴子(明三三、一一生、跡見女學校出身)は福岡縣人太田健次郎長男義雄に嫁せり(東京、麻布、市兵衛町二ノ六八電青山三五五九)
 参照 上郎清助、菅田羊治郎の項

太田瀧右衛門 埼玉縣多額納税者、農業
 埼玉縣在籍
 男 常右衛門 明一六、一一生
 女 常子 よ ね 明四四、七生、生母、東京、海津と
 君は埼玉縣人太田瀧左衛門の長男にして安政四年七月を以て生れ明治十七年家を相続し前名與太郎を改む農業を営み埼玉縣多額納税者たり家族は尙三子(同助(大三、一〇生、生母、東京、海津と)、同はる(同一、一一生、生母同上)あり長女きぬ(明一九、一一生)は埼玉縣人會田惣治郎養子五郎左衛門に嫁き(同七、三生)は同縣人田中四一郎に嫁し弟五郎(慶應二、六生)は千葉縣人小谷とくの入夫となり(埼玉、南埼玉、八條村)
 参照 太田益太郎、田中四一郎の項

太田竹松 秋田縣多額納税者、農業
 秋田縣在籍
 父 倉之助 嘉永元、一一生、現戶主
 男 至 孝 明三三、一一生
 女 榮 山崎久治三女

君は秋田縣人太田倉之助の長男にして明治五年六月を以て生れる農業を営み同縣多額納税者たり家族は尙三子桃介(大四、四生、生母、秋田、田口カネ)同俊子(同七、六生、生母同上)同倫子(同九、二生、生母同上)同三吉(同一〇、六生、生母同上)孫知巳(同一三、一一生、長男至孝長男)同育造(同一五、一一生、同二男)同時子(昭二、七生、同長女)あり(秋田、仙北、角館町)
 参照 太田倉之助、池田文一郎の項

太田爲吉 從四位勳三等、特命全權公使、西班牙國駐劄、鳥取縣在籍
 妻 ウタ 明一七、二生、東京、大田勝次郎

君は鳥取縣人太田幸太郎の叔父にして明治十三年十一月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す夙に法學を修め同三十六年文官高等試験同四十年外交官及領事官試験に合格す同年領事官補に任ぜられ次で關東都督府事務官に轉じ更に領事官補として紐育に在勤爾來大使館三等書記官公使館二等書記官總領事大使館参事官等に歴任し米墨支各國に在勤す大正十四年特命全權公使に任ぜられ西班牙國駐劄仰付けられ爾後西班牙國駐劄を兼ぬ家族は尙養子君子(大九、二生、鳥取、大田幸太郎長女)あり(在西班牙國日本公使館)

太田恒鷹 太田眼科院主、醫師
 東京府在籍
 妻 恒 雄 明一〇、一一生、太田雄孝長女
 男 喜 代 明三八、七生、長男恒雄妻、福岡、中村忠兵衛長女
 女 善 磨 明三九、四生

君は福岡縣人入田文雄の弟にして慶應二年九月を以て生れ先代雄の入夫となり明治二十六年家を相続す太田眼科院を開創し眼科醫師として知らるる家族は尙三男良貞(明四二、四生)四男雄男(大一、一一生)四女八千代(同四、一〇生)孫安雄(昭二、二生、長男恒雄長男)あり長女寧子(明二七、八生)は福岡縣人内藤隆一に二女貞子(同三六、五生)は東京府人太田盛一に二女ゆり子(同三六、八生)は岡山縣人池田彦藏二男吉雄に養子直(同三六、八生)東京、柳川梅次郎(四女)は福岡縣人太田高嶺二弟藤藏に嫁せり(東京、芝、新堀河岸三七電高輪三五九三)
 参照 藤田經二の項

太田藤十郎 天鹽銀行(株)取締役
 岐阜縣在籍
 妻 しう 明一四、一〇生、愛知、三島増兵衛長女
 男 茂 明三七、七生
 女 千代子 明四一、一〇生
 女 元子 大元、一一生

君は岐阜縣人先代藤十郎の男にして明治五年八月を以て生れ同三十一年家を相続し前名哲太郎を改む現時天鹽銀行取締役たり家族は尙六女直子(大四、五生)七女勝子(同六、三生)三男義幸(同九、五生)八女政子(同四、一〇生)あり二女赤子(同三四、一〇生)は岐阜縣人杉山高賢に嫁し(同一、一一生)は同縣人森精一に同す(同一七、二生)は同縣人松原宗吉二男森二に同す(同一七、二生)は岐阜縣人大場匡平に同す(同一二、一一生)は愛知縣人三品章正に嫁し弟義造(同二二、一一生)同儀(同二四、一一生)は各分家し同秋三(同二八、一〇生)は岐阜縣人同徳助の養子となり(岐阜、羽島、竹ヶ島町)

太田徳九郎 帝國朝日銀行頭取
 愛知縣在籍
 妻 はなゑ 慶應二、二生、愛知、太田佐兵衛姉
 男 徳 敬 明二八、一〇生、明治大學出身
 女 房 子 渡邊六蔵二女、御茶の水高等女學校出身
 男 壽 明三四、四生
 女 里 江 明三九、五生、跡見女學校出身
 男 壽 明四一、一一生

當家は代々愛知縣碧海郡櫻井村に住し農を以て業とし舊幕時代は里正を勤めたる家柄なり君は清酒問屋鹿島家の出にして鹿島清左衛門の叔父同清平の兄なり明治五年一月を以て生れ先代徳九郎の養子となり同二十八年家を相続し舊名徳助を改む現時帝國朝日銀行頭取にして兼に太田屋と稱し材木商を營めり家族は尙孫保敬(大一、一一生、長男徳敬長男)同光昭(昭二、一一生)同二男(一〇生)あり長女富枝(明三一、六生、跡見女學校出身)は佐賀縣土族伊丹鐵太郎に二女照代(同三二、一一生)出身校同上)は愛知縣人稻垣長次郎弟長悟郎に嫁せり(東京、四谷、大番町八五電四谷四六一五)
 参照 伊丹鐵太郎、稻垣長次郎、太田佐兵衛、鹿島清左衛門、鹿島清平、渡邊六蔵、渡邊勝三郎、渡邊福三郎、渡邊六郎の項

太田信治郎 衆議院議員(東京府選出)、東京市役、東京製材組合長、材木商
 東京府在籍

當家は元北面の武士にして其祖聖徳太子に仕へ太田の姓を賜はる後代々三河國に住す父重吉は夙に尊王の大義を唱へ維新の際國事に奔走し又佛教を奉ずること篤し君は其長男にして明治六年二月を以て生れる父祖の業を継ぎ材木商を營み傍ら社會公共の事業に力を致し同三十八年本所區若宮町に無料宿泊所を創設す是れ本邦に於ける無料宿泊所の嚆矢なり材木商を營み萬信材木店事務取締役にして東京製材組合長に推される衆議院議員に當選する事三回立憲民政黨に屬し尙東京市會議員たり(東京、深川、久永町四電本所二七二)

太田信義 太田信義藥房(株)社長、日本醋酸製造(株)監査役、藥種商
 東京府在籍
 妻 倂 明一〇、一〇生、東京、瀧口倉吉長女
 男 勢 一郎 六一三、四生
 女 菊 明二二、一〇生、養子菊夫、父信義
 養子 菊 明二三、五生、養子菊夫、父信義
 養子 菊 明二三、八生、養子菊夫、父信義
 瀧口東次郎妹

君は東京府人先代信義の長男にして明治六年八月を以て生れ同三十年家を相続し前名信を改む藥種商を營み太田胃散の本舖にして前掲各會社の重役たり兼に日本機械製造會社應用製藥會社取締役たりし事あり家族は尙長女橘子(大八、一一生)二男陸之助(同一五、五生)孫順(同五、一一生、養子壽男長女)同海(同一〇、三生、同長男)同源(同七、五生、同二女)同昭(同一〇、三生、同三男)あり二女桃子(同一、三生)は東京府人瀧口すみに弟五十八(明二七、三生)は同府人吉田マユに各養子となり妹フサ(同一、五生)は山口縣土族坂田泰之助に同ツヤ(同一七、八生)は工學博士鈴木録郎に嫁せり(東京、小石川、水川下町五九電大塚四三三)
 参照 鈴木録郎の項

太田春二 石川縣多額納税者、金融業
 石川縣在籍
 妻 つる 明二三、四生、石川、藤田與三兵衛三女

男 春男 明四二、四生、
君は石川縣人小堀山三の長男にして明治十九年十月を以て生れ先代五右衛門の養子となり同三十七年家督を相続す金藏業を営み石川縣多額納稅者たり(石川、石川、稻留村)
參照 藤田與三兵衛の項

太田 半六

君は千葉縣土族太田滿直の二男にして明治七年九月を以て生れ同三十年兄源三郎の後を受けて家督を相続す現時東京瓦斯會社前記會社の重役たり弟健吉(明一四、一生)明源一(明二七、一生)、亡兄源三郎長男は各分家せり(東京、麹町、下二番町六二電九段三二六、三四一)
參照 藤田與三兵衛の項

太田 壽之助

君は兵庫縣人太田治右衛門の長男にして慶應二年四月を以て生れ明治十九年家督を相続す現時甲子銀行事務取締役たり家族は尙孫完(明四三、六生、長男剛太郎長男)同(同四四、一生、同二男)同集三(同四四、一生、同三男)同登久(同五二、一生、同二女)同潤子(同八、六生、同三女)同澄子(同二〇、七生、同四女)同晴野(同二二、四生、同五女)同孝子(同四四、五生、同六女)同節子(昭二、一生、同七女)あり姉ら(明元、七生)は兵庫縣人山田都次に嫁し弟新太郎(同六、一生)は京都府人吉村伊助の養子となり(兵庫、城崎、日高村)參照 米村駿吉の項

太田 秀穂

君は和歌山縣人太田正兵衛の二男にして明治二十五年十二月を以て生れ同三十二年家督を相続す農を營み傍ら松太布會社取締役にして縣下の多額納稅者たり姉ひき(明二九、九生)は和歌山縣人米田亭一に叔母マン(同二七、一生)は同縣人野口鹿助長男源之進に嫁し叔父正右衛門(同元、七生)は同妻ふじ(同二、一生)生れ和歌山、土橋幸助長女)と共に同妻右衛門(同七、三生)は同妻代乃(同二、一生)生れ和歌山、田中安右衛門(三女)と共に各子女を伴ひ分家し同儀三郎(同一九、一生)従妹よね(嘉永三、一生)も各分家し叔母こ(明二三、一生)は叔父儀三郎の家籍に入れり(和歌山、那賀、西貴志村)

太田 正躬

君は愛媛縣土族太田正格の長男にして慶應元年四月を以て生れ明治十六年家督を相続す現に東京高等商業學校を卒業し現に撰津海上保險會社取締役たり保熱板製造會社社長たり事あり二女成(明三三、七生)は熊本縣人下田國南雄に嫁し(同二、一生)は愛媛縣土族古川榮一に嫁し弟敬(同八、一生)は大坂府土族玉澤良和の養子となり同格廣(同八、一生)は同妻リヨ(同二、一生)愛媛、中洲彦吉妹と共に子女を伴ひ分家せり(大阪、西成、有樂町三五電天下茶屋一三五)

太田 政弘

君は山形縣土族太田政道の長男にして明治三十年十月を以て生れ同六年家督を相続す同三十一年東京帝國大學

妻 とよ 郎孫
男 一郎 明三三、六生、外交官補
男 三郎 明三八、四生
男 七郎 明三九、一生
女 百合子 明四二、三生
女 さくら子 明四五、一生

太田 文太郎

君は茨城縣人太田茂兵衛の四男にして明治七年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す同三十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し山梨縣師範學校長新潟縣高田師範學校校長野縣師範學校校長長崎縣師範學校長女子高等普通學校長佐賀縣師範學校長臺灣總督府官京師範學校長兼臺灣總督府視學官等に歴任し大正十二年一月現職多摩少年院長に轉ず倫理學說批判の著書あり大正七年支那に出張を命ぜらるる家族は尙四男十一郎(大四、一生)五男九郎(同六、九生)六男正巳(同九、一生)七男孝(同五、一生)の外妹きよ(明一三、九生)あり養父久元(元、四生)栃木、岩崎寅吉叔父は其二女を伴ひ分家せり(八王子市外由井村少年院官舎電八王子八五〇)

太田 丙子郎

君は兵庫縣土族太田惠右衛門の長男にして嘉永五年七月を以て生れ後家督を相続す現時前記各銀行の重役たり(兵庫、津名、洲本町)

太田 益太郎

君は山形縣土族大庭景明の二男にして明治七年十月を以て生れ先代小三郎の養子となり大正五年家督を相続す以て生れ同三十二年東京帝國大學法學法科を卒業し職を鐵道省に奉じ後實業界に投じ現に京阪電氣鐵道三重合同電氣新阪電氣鐵道各會社社長たる外前掲銀行會社の重役として知られ尙鐵道會社議員たり家族は尙三男顯光(明四五、二生)四男定光(同四、一生)あり二男發光(明三九、一生)は福岡縣人鷹羽サクの養子となれり(大阪、北河内、川越村電北一六三四)

太田 增吉

君は岐阜縣人太田孫市の弟にして明治元年四月を以て生れ同二十二年分家して一家を創立す小間物商を營む(大阪、東、北久寶寺町二二三)

太田 光熙

君は兵庫縣土族太田環の長男にして安政六年三月を以て生れ明治十八年家督を相続す同年東京大學法學部を卒業し鐵道士を業とし傍ら前記諸會社の重役たり家族は尙孫サヨ子(大六、七生)長男彌夫(長女)あり妹ミキ(明元、三生)は兵庫縣人福田俊夫に嫁せり(神戸、中山手通六ノ二八電元町六六)

君は千葉縣人先代平左衛門の長男にして明治九年九月を以て生れ大正四年家督を相続し前名正吉を改む醬油味噌醸造業を營み千葉縣多額納稅者たり家族は尙四男福次郎(大二、二生)孫登美(同一三、九生)長男健吉(長女)あり二女正子(明四〇、一生)は千葉縣人高木利春に嫁す(同二九、三生)は同縣人宮内英吉に同(同三三、九生)は同縣人吉岡清に嫁し弟榮治郎(同二五、三三)は分家し同徳治(同二〇、六生)も亦同妻たき(同二七、五生)千葉、林岩松長女)及一女を伴ひ分家せり(千葉、匝瑳、八日市場町)

太田 平左衛門

君は山口縣土族大庭景明の三男にして明治十九年十一月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す先是明治四十五年東京帝國大學法學法科を卒業し大正十三年經濟學博士の學位を授けらるる現に報知新聞社代表にして商工審議會委員たり保稅制度論經濟讀本を始め其他著書多し家族は尙二男孝(大八、七生)三女博子(同二〇、一生)四女澤子(同二四、一生)あり(東京市外入新井町新井山王二六一六電大森五七八)

太田 正孝

君は山口縣土族大庭景明の二男にして明治七年十月を以て生れ先代小三郎の養子となり大正五年家督を相続す以て生れ同三十二年東京帝國大學法學法科を卒業し職を鐵道省に奉じ後實業界に投じ現に京阪電氣鐵道三重合同電氣新阪電氣鐵道各會社社長たる外前掲銀行會社の重役として知られ尙鐵道會社議員たり家族は尙三男顯光(明四五、二生)四男定光(同四、一生)あり二男發光(明三九、一生)は福岡縣人鷹羽サクの養子となれり(大阪、北河内、川越村電北一六三四)

太田 彌太郎

君は愛媛縣人先代彌太郎の二男にして元治元年七月を以て生れ明治二十五年家督を相続し前名和三郎を改む現に太田商會社監査役に推されて知多商工會議所副會頭たり(愛知、知多、龜崎町)

太田 保太郎

君は兵庫縣土族太田環の長男にして安政六年三月を以て生れ明治十八年家督を相続す同年東京大學法學部を卒業し鐵道士を業とし傍ら前記諸會社の重役たり家族は尙孫サヨ子(大六、七生)長男彌夫(長女)あり妹ミキ(明元、三生)は兵庫縣人福田俊夫に嫁せり(神戸、中山手通六ノ二八電元町六六)

太田 勇之進

君は山口縣人太田四郎治の長男にして明治八年二月を以て生れ同六年家督を相続す同三十一年東京帝國大學

以て生れ同十三年家督を相續す現時東洋硫酸會社常務取締役たり家族は尙二男裕之(大九、二二)生あり妹マサ(明三、三三)山口縣人波多野岩次郎に嫁せり(東京、麻布、富士見町四二)

太田與一郎

東京府土族 公證人
妻 是 明二、四、三、生、山形、石岡與市三女
養子 みつ 明四、三、生、山形、石岡與市三女
君は山形縣石岡家先々代與市の長男にして明治十七年五月を以て生れ先代信武の養子となり大正十年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し辯護士となり同九年東京地方裁判所々屬公證人に任命せられ嘗て東京公證人會副會長に任ぜらるる家族は尙養子つる子(大九、一、生、東京、富岡利三郎三女)同子(同一、五、一、生、山形、鈴木八郎二女)養弟康夫(同四、五、一、長野、中島久藏五男)あり(東京、四谷、麹町一、二、一四電四九二八八)

太田與市

神奈川縣多額納税者、横濱商工會
神奈川縣在籍、越前屋、吳服商
男 幸治郎 明四、二、七、生
養子 美之助 明二、九、一、二、生、長女コウ夫、東
女 コウ 明三、三、四、生、養子美之助妻
女 好 明三、五、九、生
女 喜 久 明三、七、八、生

太田利兵衛

警視廳、東京府在籍、米信託各
業、監査役、東京府在籍
妻 まさよ 明一、三、五、生、静岡、村上保郎姉
男 利一郎 明三、四、三、生
男 竹二郎 明三、五、九、生
女 喜代 明四、一、五、生、府立第三高等女學
校出身

君は東京府人太田利兵衛の二男にして明治十一年三月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名新七を改む現に前記諸會社の重役たり家族は尙三女佐子(大三、八、生)あり(東京、日本橋、龜島町一、一、二電芝草町一七五〇)

太田良輔

新潟縣多額納税者、百三十九銀行
(株)監査役、農業、新潟縣在籍
妻 ヨリ 明一、四、一、生、新潟、竹田環長女
女 よし 明三、九、一、〇、生
女 龍 明四、一、五、生

太田廉平

太田(資)代表社員
神奈川縣在籍
妻 美子 明五、一、〇、生、東京、太田治兵衛
長女 明二、四、八、生、養父平輔養子、東
妻 タマ 明二、四、八、生、養父平輔養子、東
君は静岡縣人太田幸治郎の二男にして明治十九年八月を以て生れ後太田平輔の養子となり大正十一年分家して一家を創立す明治四十四年慶應義塾理財科を卒業し現時太田合資會社代表社員たり(横濱、中、委見町二、五六)

太田代唯六

從五位、理學博士、桐生高等工業
學校教授、岩手縣在籍、現戶主
妻 小兵衛 明三、五、五、生、養父小兵衛長女
妻 エミコ 明二、三、五、五、生、現戶主
男 元彦 明四、一、三、生

生)長女テル(大五、四、生)二女タツ(同八、三、生)あり(桐生、安樂土)

逢坂 佐七

大日本紡績、日本レーヨン(株)
取締役、徳島縣在籍
男 弘 明四、三、九、生
君は徳島縣人逢坂平次郎の三男にして林雄助の弟逢坂幸衛の兄なり明治十年十二月を以て生れ大正八年分家して一家を創立す現時前記諸會社の重役たり家族は尙四男五郎(大七、六、生)あり(尾崎、竹谷新田村)

逢坂 幸衛

日本棉花(株)甲谷院支店長
徳島縣在籍
妻 章子 明三、〇、一、〇、生、兵庫、神戸俊太
弟 裕 大一二、三、生

逢坂 彌

大阪市會議員、大阪無盡(株)取締
役、興行主、大阪府在籍
妻 テル 明四、六、六、生、大阪、土、仲村一男
妻 マサ 明二、九、三、三、生、大阪、荒木市松二女
男 久 大一一、八、生

逢澤 寛

岡山縣多額納税者、土木建築請負
業、岡山縣在籍
妻 キサ 明三、四、五、生、香川、片山久平妹
女 梅子 明四、一、九、生
君は岡山縣人逢澤市之の三男にして明治二十一年五月を以て生れ同四十三年分家して一家を創立す土木建築請負業を営み岡山縣多額納税者たり家族は尙二男英雄(大一一、一、生)あり(岡山、御津、芳田村)

應谷徳次郎

奈良縣多額納税者、鐵工業
妻 タカ 明二、〇、六、生、鹿兒島、伊澤常吉
男 延 明四、三、三、生
君は大府府人棍本眞助の二男にして明治六年二月を以て生れ後應谷久三郎の養子となり同三十一年分れて一家を創立す鐵工業を営み現に奈良縣多額納税者たり家族は尙二男三盛(明四五、一、生)三男修盛(大二、九、生)四男隆盛(同四、一、生)長女佐喜子(同七、四、生)あり五男徳五郎(同五、一、二、生)は大府府人棍谷重藏の養子となり庶子盛治(明三九、七、生)生母、奈良、清水リウ)は分家せり(奈良、生駒、生駒町)

正親町公和

正四位、伯爵
舊公卿家
妻 兎美子 安政六、一、二、生、侯爵中山輔親大
叔母
男 公秀 明二、〇、九、生、伯爵大谷光暢叔母
女 綾子 明二、〇、九、生、伯爵大谷光暢叔母
當家は太政大臣西園寺公經三代の孫實有より十代權大納言季秀の二男參議季俊の後なり世々樂道を掌り其邸正親町に在りしを以て家號とす五代公明八代公重並に勤王の功あり先代公重の長男にして明治十七年伯爵を授けられ侍從宮内省御用掛埼玉縣知事賞勳局總

近江源兵衛

大阪府多額納税者、豊國殖産(株)
取締役代表、近江屋、地主家
妻 源十郎 明二、七、七、生
男 元 明三、二、六、生、二男源十郎妻、大
男 春 明三、九、五、生
君は大府府人先代源兵衛の長男にして明治三年七月を以て生れ同十六年家督を相續し前名永吉を改む貸地貸家業を営み傍ら豊國殖産會社取締役代表にして大阪府多額納税者たり家族は尙孫源一郎(大八、五、生)、二男

近江喜三郎

石喜、石材商
大阪府在籍
妻 まさ 明二、六、一、一、生、奈良、上武矢之
男 喜作 大六、四、生
君は大府府人松原市兵衛の二男にして明治十六年十二月を以て生れ先代喜三郎の養子となり同三十五年家督を相續し前名源次郎を改む石材商を営み石喜と號す家族は尙長女喜美子(大九、八、生)二女榮美子(明一三、七、四、生)三女壽美子(昭二、二、生)あり養妹サカエ(明三、七、四、生)奈良、田中政治郎繼子)は分家せり(大阪、西、江戸堀北通二ノ九電土佐堀七三五)

近江時五郎

源十郎長男(同九、六、生、同二男)同健三郎
(同一、七、生、同三男)同貞子(同一、四、九、生、同長女)あり二女タネ(明二八、一、二、生)は大府府人小龜クヲの養子となり五女マサ(同三五、一、〇、生)は其夫慶藏(同三一、九、生、兵庫、筒井千太郎二男)に從ひ分家し四男徳三(同四二、六、生)は姉タネの指定相続人となれり(大阪、南、高津町四番丁三五〇電二九〇四)

浅次郎

正四位勳二等、理學博士、帝國學
士院會員、東京高等師範學校教授
東京府在籍
妻 つき 明七、一、〇、生、男爵岩村一木姉
男 英通 明三、五、一、〇、生、理學士
男 喜美子 明四、二、三、生、三男英通妻、理學
女 山崎直方二女、府立第二高等
女學校出身

逢坂 幸衛

君は静岡縣人逢坂平次郎の三男にして明治元年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十二年東京帝國大學理學部動物學科を卒業し後獨逸フライブルグ、ライプツヒヒ兩大學に於て動物地質學を修め博士号を得る同十九年ライプツヒヒの學位を得同二十七年歸朝し同二十八年理學博士の學位を授けられ山口高等學校教授に任ず同三十年東京高等師範學校教授に轉じ現在に至る又帝國學士院會員たり名著進化論講話其他生物學に關する著作多し家族は尙五男直通(明四一、一、生)あり長女ひさ(同四〇、八、生)は文學博士佐々木信綱二男經

濟學士文網に嫁せり(東京、牛込、市谷河田町一七電牛込四九六〇)

伊賀氏英宗男爵岩村博宗岩村俊武の項

丘崎彌太郎 三室(株)取締役、多門店、書畫骨董商、東京府在籍

岡 伊右衛門 滋賀縣多額納税者、八幡銀行(株)取締役、醬油商、滋賀縣在籍

岡 伊作 石川縣多額納税者、能作商店、漆商、石川縣在籍

岡 喜七郎 從三位勳一等、貴族院議員、東京府土族

岡 喜太郎 撫順製煉(株)専務取締役、日本輕工業各(株)監査役、岡山縣在籍

岡 橋兵衛 岡橋商店、時計商、大阪府在籍

岡 恭介 宮城縣多額納税者、金融業、宮城縣在籍

岡 慶治 正五位勳四等、判事、宇都宮地方裁判所長、岡山縣在籍

岡 善市 宮城縣多額納税者、安政元、六生、宮崎、土、合屋三折二女

岡 昇平 松本米穀製粉(株)取締役、東京米穀商取引所第三部取引員

岡 精二 岡山縣多額納税者、醬油醸造業、岡山縣在籍

岡 今朝雄 從四位勳三等、會計検査院部長、會計検査院第二部長、佐賀縣土族

岡 幸次郎 日本木資(株)代表取締役、大阪鐵道(株)監査役、兵庫縣在籍

岡 順次 德島縣多額納税者、德島倉庫(株)取締役、德島銀行、德島貯蓄銀行各(株)監査役、農業、德島縣在籍

岡 市十郎 愛媛縣多額納税者、愛媛縣在籍

岡 喜七郎 從三位勳一等、貴族院議員、東京府土族

岡 喜太郎 撫順製煉(株)専務取締役、日本輕工業各(株)監査役、岡山縣在籍

岡 橋兵衛 岡橋商店、時計商、大阪府在籍

岡 恭介 宮城縣多額納税者、金融業、宮城縣在籍

岡 慶治 正五位勳四等、判事、宇都宮地方裁判所長、岡山縣在籍

岡 善市 宮城縣多額納税者、安政元、六生、宮崎、土、合屋三折二女

岡 昇平 松本米穀製粉(株)取締役、東京米穀商取引所第三部取引員

岡 精二 岡山縣多額納税者、醬油醸造業、岡山縣在籍

岡 今朝雄 從四位勳三等、會計検査院部長、會計検査院第二部長、佐賀縣土族

岡 幸次郎 日本木資(株)代表取締役、大阪鐵道(株)監査役、兵庫縣在籍

岡 順次 德島縣多額納税者、德島倉庫(株)取締役、德島銀行、德島貯蓄銀行各(株)監査役、農業、德島縣在籍

岡 清隆 明四〇、九生

岡 今朝雄 從四位勳三等、會計検査院部長、會計検査院第二部長、佐賀縣土族

岡 幸次郎 日本木資(株)代表取締役、大阪鐵道(株)監査役、兵庫縣在籍

岡 順次 德島縣多額納税者、德島倉庫(株)取締役、德島銀行、德島貯蓄銀行各(株)監査役、農業、德島縣在籍